平成25年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

① 各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭及び中堅教員等に対する学校経営研修

1. 教職員等中央研修		
第1回	校長マネジメント研修	1
第2回	校長マネジメント研修	3
第1回	副校長・教頭等研修	5
第2回	副校長・教頭等研修	7
第3回	副校長・教頭等研修	9
第4回	副校長・教頭等研修	11
第5回	副校長・教頭等研修	13
第1回	中堅教員研修	15
第2回	中堅教員研修	17
第3回	中堅教員研修	19
第4回	中堅教員研修	21
2.	英語教育海外派遣研修	23

② 学校現場が抱える喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者の養成等を目的とした研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修		
第1回		25
第2回		27
第3回	(高等学校事務職員)	29
第4回	(小・中学校事務職員)	31
2. 国語力向上指導者養成研修 ～各教科等における言語活動の充実に向けて～		
東部ブロック		33
西部ブロック		35
3. 道徳教育指導者養成研修		
中央指導者研修		37
北海道・東北ブロック		39
関東・甲信越ブロック		41

東海・北陸ブロック	43
近畿ブロック	45
中国・四国ブロック	47
九州ブロック	49
4. 学校教育の情報化指導者養成研修	
第1回	51
第2回	53
5. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	55
日本語指導者用コース	57
6. 生徒指導指導者養成研修	59
7. 人権教育指導者養成研修	61
8. キャリア教育指導者養成研修	
東部ブロック	63
西部ブロック	67
9. 教育相談指導者養成研修	71
10. いじめの問題に関する指導者養成研修	
北海道・東北ブロック.....	73
関東・甲信越ブロック.....	75
東海・北陸ブロック	77
近畿ブロック	79
中国・四国ブロック	81
九州ブロック	83
11. 子どもの体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	85
西部ブロック	87
12. 健康教育指導者養成研修	
健康コース・東部ブロック	89
健康コース・西部ブロック	91
食育（推進）コース	93
食育（専門）コース	95
学校安全コース・東部ブロック	97
学校安全コース・西部ブロック	99
13. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	101
14. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校経営の改善：A-1団	105
学校経営の改善：A-2団	106
言語力・コミュニケーション力の育成：B-1団	107
言語力・コミュニケーション力の育成：B-2団	108
PISA型学力の育成：C-1団	109
PISA型学力の育成：C-2団	110
学校安全・防災教育の推進：D-1団	111
生徒指導・教育相談の充実：E-1団	112
生徒指導・教育相談の充実：E-2団	113
キャリア教育の充実：F-2団	114

スポーツ・健康教育の推進：G－1団	115
学校教育の情報化・ICTの活用：H－1団	116
特別支援教育の充実：I－1団	117
学校と地域等の連携：J－1団	118
学校と地域等の連携：J－2団	119

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

(所要経費の全額を派遣者が負担)

1. 産業・理科教育教員派遣研修	121
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習）	123
工業：B－1（技術者倫理・法令遵守・安全教育等に関する講義と実習）	125
商業：C－1（教科「商業」における授業改善に関する講義と実習）	127
水産：D－1（6次産業化に向けた水産技術に関する講義と実習）	129
家庭：E－1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービスなどの生活産業に関する講義と実習）	131
看護：F－1（看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習）	133
情報：G－1（ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習）	135
技術・家庭（技術）：I－1（これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価）	137
技術・家庭（技術）：I－2（これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価）	139
技術・家庭（家庭）：J－1（学校における食育の推進：教科「技術・家庭」における食に関する指導（講義と実習）	141
技術・家庭（家庭）：J－2（幼児触れ合い体験と幼児理解に関する指導（講義と演習、実習）	143
3. 産業教育実習助手研修	
教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習	145
4. 学校評価指導者養成研修	147
5. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	149
6. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	151

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修 【第371回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開 催 期 日	平成25年 6月10日（月）～平成25年 6月14日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	81	人	参加率	108.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	74 91.4	7 8.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	81
	81	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・各講座のマネジメント研修は現場の抱える課題に則したものであり、有意義だった。また、各都道府県の状況も共有でき、今後の学校経営に生かせる。
 ・地方ではなかなか拝聴できない講話が複数回設定されている。
 ・県の校長会での発表に向けて、多くの示唆を頂いたと感じている。
 ・高名で素晴らしい先生方や文科省の担当者からお聞きした講義や演習・解説等、内容に説得力があり、是非、本校・本地域に普及しなければという思いになった。
 ・演習では今後の学校運営に具体的に取り入れられるものであり、各都道府県の状況が共有できた。
 ・民間企業の方からのお話も見方を広げる意味でもお聴きすることができて良かった。
 ・各班単位での演習や相談・交流の時間がもう少し必要であると感じた。1つ1つの講座時間を増やすことも必要だと感じた。
 ・いじめの問題・体罰への対応の内容を加えた方がよい。世の中の注目度が高く、どの学校でも起こりうる問題で重要度、緊急度が高いため。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
 ・「学校運営演習」及び「リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～」については、さらに充実させてほしいとの要望が多数あったため、時間を拡充し、研修内容の充実を図った。

次年度に向けて
 ・「校内指導体制の充実 ～道徳教育・生徒指導等の充実～」を新設する。
 ・「学校運営演習」の時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修

	6月10日(月)	6月11日(火)	6月12日(水)	6月13日(木)	6月14日(金)
8:30～9:00		8:30～9:05 実践研究①	8:30～9:05 実践研究②	8:30～9:05 実践研究③	8:30～8:50 実践研究④
9:00～9:15	受付				
午前1 9:15～10:30	9:15～10:00 オリエンテーション	9:15～11:45 グループ協議 学校組織マネジメントⅡ (学校評価)	9:15～11:45 講義・演習 リスクマネジメント	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅣ (教職員のメンタルヘルス)	9:00～12:00 演習・協議 学校組織マネジメントⅤ (マネジメントの実践に向けて)
	10:10～10:30 開講式				
午前2 10:30～11:45	10:30～11:45 新しい時代の教育	天笠 茂		河村 茂雄	浅野 良一
	11:45～12:00 集合写真撮影				
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略)	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅢ (新しい時代の学校マネジメント実践)	13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント	13:00～17:00 講義・演習 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:00～15:00 講義 リーダーシップとマネジメント～民間に学ぶ～ 柴田 励司
午後2 14:15～15:30	北神 正行				15:00～15:20 閉講式
午後3 15:45～17:00					
	諸連絡	諸連絡	諸連絡	諸連絡	

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修 【第377回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開 催 期 日	平成25年10月21日（月）～平成25年10月25日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	90	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	80 89.9	9 10.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	90
	89	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・重要な内容について、トップレベルの講師から指導を受けることができ、今後に生かしていきたい。 ・たくさんの他県の校長先生方との交流が大きな刺激となった。 ・一流の講師の先生方の講義を受け、また演習を行うことにより理解を深めることができた。 ・学校マネジメントを体系的に学ぶことができた。 ・学校組織マネジメントなくしては、校長の業務はなし得ないとはっきり自覚できた。 ・もう少し討議等に時間があればよかった。 ・学校運営演習問題に、いじめ問題や生徒指導上の課題について加えた方がよい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営演習」及び「リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～」については、さらに充実させてほしいとの要望が多数あったため、時間を拡充し、研修内容の充実を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校内指導体制の充実 ～道徳教育・生徒指導等の充実～」を新設する。 ・「学校運営演習」の時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修

	10月21日(月)	10月22日(火)	10月23日(水)	10月24日(木)	10月25日(金)
8:30～9:00		8:30～9:05 実践研究①	8:30～9:05 実践研究②	8:30～9:05 実践研究③	8:30～8:50 実践研究④
9:00～9:15	受付				
午前1 9:15～10:30	9:15～10:00 オリエンテーション	9:15～11:45 グループ協議 学校組織マネジメントⅡ (学校評価)	9:15～11:45 講義・演習 リスクマネジメント	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅣ (教職員のメンタルヘルス)	9:00～12:00 演習・協議 学校組織マネジメントⅤ (マネジメントの実践に向けて)
	10:10～10:30 開講式				
午前2 10:30～11:45	10:30～11:45 新しい時代の教育	飯野 眞幸		河村 茂雄	浅野 良一
	11:45～12:00 集合写真撮影				
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略)	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅢ (新しい時代の学校マネジメント実践)	13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント	13:00～17:00 講義・演習 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:00～15:00 講義 リーダーシップとマネジメント～民間に学ぶ～ 柴田 励司
午後2 14:15～15:30	北神 正行	藤原 和博			15:00～15:20 閉講式
午後3 15:45～17:00					
	諸連絡	諸連絡	諸連絡	諸連絡	

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修 【第373回】								
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ								
研修目的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。								
受講対象	小学校・中学校等の副校長・教頭等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者。主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。								
開催期日	平成25年 7月29日（月）～平成25年 8月14日（水）			17日間					
受講人数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	78	人	参加率	78.0%	
開催場所	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）								

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	73	5	0	0	0	0	78
割合 (%)	93.6	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	78		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・コーチングの手法は参考になった。教員を指導する上で活用したい。 ・他県（都・道）の様子や実態について知ることができたり、意見交換ができたりすることは、大変有意義であった。 ・現場の問題に即した内容で研修できたことは大変有難かった。 ・講義を聴くことで新しい情報を得ることもできたが、やはり演習することによって得られる情報の方が、より自分の中に残っていくと思う。 ・話を聞くだけでなく、演習や体験型があると、メリハリがあってよい。 ・演習は大変ありがたかった。ただ、内容もとても素晴らしいものであっただけに、もう少し時間があると良かった。 ・自殺予防と児童虐待が選択だったが、両方聞きたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高生の自殺者が共に増加傾向にあるため、選択講義「児童虐待」「自殺予防」の情報交換を行うことで、全受講者に講義内容の共有化を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設する。 ・「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とする。 ・「研修講師となるための知識・技術」を60分→90分に拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修(東京開催)

第1週	7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)	8月3日(土)	8月4日(日)
9:30~9:45	9:30~9:50 受付	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明		
午前1 9:45~11:00	10:00~11:30 オリエンテーション	9:45~12:15 教育法規Ⅰ 加茂川幸夫	9:45~15:15 教育法規Ⅱ 松崎 勝	9:45~11:45 (選択講義) 児童虐待 玉井 邦夫 自殺予防 新井 肇	9:45~12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 小松 郁夫		
午前2 11:00~12:15	11:30~11:45写真撮影			13:00~15:30 特別支援教育 関戸 英紀			
午後1 13:30~15:00	13:00~13:20 開講式 13:30~14:45 新しい時代の教育	13:30~15:30 防災管理 片田 敏孝			13:30~16:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 武田 明典		
午後2 15:00~16:30	15:00~16:30 特別講義 衣笠 祥雄	15:45~16:30 実践研究①	15:30~16:30 研修講師となるための 知識・技術	15:45~16:30 実践研究②			
第2週	8月5日(月)	8月6日(火)	8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)	8月10日(土)	8月11日(日)
9:30~9:45	9:30~9:45 演習説明	9:30~11:30 メンタルヘルスマネジメント	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~16:30 リスクマネジメント		
午前1 9:45~11:00	9:45~12:15 教育指導上の課題 (学習指導と評価)	河村 茂雄	9:45~16:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:45~16:30 学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり)			
午前2 11:00~12:15	北 俊夫		柳生 和男	北神 正行			
午後1 13:30~15:00	13:30~16:30 実践研究③	12:30~16:30 コミュニケーションカ 音楽座					
午後2 15:00~16:30							
第3週	8月12日(月)	8月13日(火)	8月14日(水)	8月15日(木)	8月16日(金)	8月17日(土)	8月18日(日)
9:30~9:45	9:30~9:45 演習説明	9:30~16:30 学校運営演習	9:30~16:00 学校運営演習				
午前1 9:45~11:00	9:45~11:45 リーダーとなるために 佐々木常夫						
午前2 11:00~12:15							
午後1 13:30~15:00	13:00~16:30 学校マネジメント 藤原 和博						
午後2 15:00~16:30			16:15~16:30 閉講式				

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修 【第374回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校等の副校長・教頭等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者。主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成25年 8月 5日（月）～平成25年 8月9日（金） 平成25年 8月19日（月）～平成25年 8月28日（水）			15日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	55	人	参加率	55.0%
開 催 場 所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	55	0	0	0	0	0	55
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	55	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価が定着してきて、自己評価に基づいた実践化がやっと見られるようになってきた。講義でご教示いただいたことや、他校での取組がマンネリ化の打破のために役立つと思う。 ・DVD視聴の後、演習があり、スムーズに演習に入ることができた。 ・エクササイズを取り入れながらの講義で実感を伴って理解しやすかった。また、講師が俳優ということからかもしれないが、話が聞き取りやすく分かりやすかったし、言葉以外の面からも伝わってくるものがあった。授業にも通じるものがあると思った。 ・1日の中で演習（2人・6人組等）をくり返す中で、背後にある思いを引き出す声掛けの大事さに改めて気付かされた。 ・リスクを予防すること、もし危機が起きても早期に解決することが大切だと感じた。 ・グループ演習により、法令の調べ方、引用の仕方を学習し、全体演習では解答を確認するとともに、多くの情報を得ることができた。 ・演習の時間がもう少しあれば、もっと身につくように、時間が欲しかった。 ・自殺予防と児童虐待は、両方選択できるようにした方がよいと思う。両方受講したいと思う。また、半日では時間不足になる大きなテーマだと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高生の自殺者が共に増加傾向にあるため、選択講義「児童虐待」「自殺予防」の情報交換を行うことで、全受講者に講義内容の共有化を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設する。 ・「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とする。 ・「研修講師となるための知識・技術」を60分→90分に拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修(福岡開催)

第1週	8月5日(月)	8月6日(火)	8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)	8月10日(土)	8月11日(日)
9:30~9:45	9:30~9:50 受付	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~11:30 メンタルヘルスマネジメント		
午前1 9:45~11:00	10:00~11:30 オリエンテーション	9:45~12:15 教育法規Ⅰ 坂田仰	9:45~15:15 教育法規Ⅱ 三ツ角直正	9:45~12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 天笠 茂	藤原 忠雄		
午前2 11:00~12:15	11:30~11:45写真撮影						
午後1 13:30~15:00	13:00~13:20 開講式	13:30~15:30 防災管理 佐藤 浩樹		13:30~16:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 嶋崎 政男	12:30~16:30 コミュニケーション力 音楽座		
午後2 15:00~16:30	15:00~16:30 特別講義 杉田 正明	15:45~16:30 実践研究①	15:30~16:30 研修講師となるための 知識・技術				
第2週	8月19日(月)	8月20日(火)	8月21日(水)	8月22日(木)	8月23日(金)	8月24日(土)	8月25日(日)
9:30~9:45	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~16:30 リスクマネジメント		
午前1 9:45~11:00	9:45~12:15 特別支援教育 玉井 邦夫	9:45~12:15 教育指導上の課題 (学習指導と評価) 角屋 重樹	9:45~16:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 大坪 治彦	9:45~16:30 学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり) 北神 正行			
午前2 11:00~12:15							
午後1 13:30~15:00	13:30~16:30 実践研究②	13:30~15:30 (選択講義) 児童虐待 楠 凡之 自殺予防 窪田由紀					
午後2 15:00~16:30		15:45~16:30 実践研究③					
第3週	8月26日(月)	8月27日(火)	8月28日(水)	8月29日(木)	8月30日(金)	8月31日(土)	9月1日(日)
9:30~9:45	9:30~9:45 演習説明	9:30~16:30	9:30~16:00				
午前1 9:45~11:00	9:45~11:45 リーダーとなるために 小杉 俊哉	学校運営演習	学校運営演習				
午前2 11:00~12:15							
午後1 13:30~15:00	13:00~16:30 学校マネジメント 藤原 和博						
午後2 15:00~16:30			16:15~16:30 閉講式				

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修 【第376回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	高等学校等の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者。主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成25年 9月17日（火）～平成25年10月 4日（金）			18日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	120	人	受講者数	138	人	参加率	115.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	130 94.2	8 5.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	138
	138	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと法律に向き合うことができ、またグループで話し合うことが良かった。 ・限られた時間で問題の趣旨を読みとり、法令等を読み込み、自分なりに検討し答えを導き出す、このプロセスが大変勉強になった。 ・受け身の講義だけでなく、参加型の研修は素晴らしいと思った。校内研修でもぜひ取り入れたいと思う。 ・一流の講師、工夫をされた研修内容は、この機会でないとは体験できないとつくづく感じた。是非、地域や自校の教職員に還元していきたいと思う。 ・コーチングは基礎講座のようなものではなく、もっとレベルの高いものを実施して欲しい。 ・全体的に演習の時間が短く、もう少し深めたいので時間を多くとって頂けるとありがたい。 ・自殺予防と児童虐待は選択になっていたが、できれば両方聞きたかったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高生の自殺者が共に増加傾向にあるため、選択講義「児童虐待」「自殺予防」の情報交換を行うことで、全受講者に講義内容の共有化を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設する。 ・「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修

第1週	9月16日(月)	9月17日(火)	9月18日(水)	9月19日(木)	9月20日(金)	9月21日(土)	9月22日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45	9:15～14:45 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 特別支援教育		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	研修講師となるための知識・技術	清水幹裕	宮崎 英恵		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～17:00 コミュニケーションカ		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省	樋口修資		音楽座		
午後3 15:45～17:00		14:45～15:15 写真撮影		15:00～17:00			
		15:30～17:00 特別講義 田辺陽子	15:45～17:00 実践研究	防災管理 佐藤 浩樹			
		17:15～18:00班長会					
第2週	9月23日(月)	9月24日(火)	9月25日(水)	9月26日(木)	9月27日(金)	9月28日(土)	9月29日(日)
8:30～9:00		8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～17:00 リスクマネジメント		
午前1 9:15～10:30		9:15～11:45 (選択講義) 児童虐待	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング)	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45		玉井 邦夫 自殺予防 新井 肇	天笠 茂	武田 明典			
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 教育指導上の課題 (学習指導と評価)	13:00～15:30 メンタルヘルスマネジメント				
午後2 14:15～15:30		角屋 重樹	河村 茂雄				
午後3 15:45～17:00			15:45～17:00 教育と芸術 腰越 満美 丸山 和範	15:45～17:00 実践研究			
第3週	9月30日(月)	10月1日(火)	10月2日(水)	10月3日(木)	10月4日(金)	10月5日(土)	10月6日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:00 班別協議		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30	9:15～17:00	9:45～17:00	9:45～17:00	9:15～10:45 リーダーとなるために		
午前2 10:30～11:45	教育指導上の課題 (生徒指導)	学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり)	学校運営演習	学校運営演習	石坂 芳男		
午後1 13:00～14:15	柳生 和男	浅野 良一			11:00～11:20 閉講式		
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究						

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修 【第379回】					
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研修目的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受講対象	幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校等の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者。主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開催期日	平成26年 1月 7日（火）～平成26年 1月24日（金）			18日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	150 人	受講者数	192 人	参加率	128.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	186 97.9	4 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.0	192
	190	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを取り入れた模擬会議がよかった。 ・各地方の情報交換を行うことができた。文科省の先生方からいろいろな視点からの指導・助言を頂けた。 ・演習を多くしていただくことで、主体的に学べる。 ・演習を取り入れることで理解も深まり、学校現場に戻った時の研修に生かすこともでき、大変よいことだと思う。また、研修生の交流も深まった。 ・他の都道府県の先生方と意見交換・情報交換をしながら活動ができ、視野が広がり、良かった。 ・演習の中で他の先生（他校種の先生、指導主事の先生）等、意見等聞けてよかった。幼稚園だけの演習も大変良かった。 ・児童虐待や自殺防止については、今後も重要な問題であろうと思うので、選択ではなく両方受講できればよかったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高生の自殺者が共に増加傾向にあるため、選択講義「児童虐待」「自殺予防」の情報交換を行うことで、全受講者に講義内容の共有化を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設する。 ・「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修

第1週	1月6日(月)	1月7日(火)	1月8日(水)	1月9日(木)	1月10日(金)	1月11日(土)	1月12日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45	9:15～14:45 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 特別支援教育		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	研修講師となるための知識・技術	三ツ角直正	長澤 正樹		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式				13:00～15:30 教育法規Ⅰ	13:00～17:00 コミュニケーションカ
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省	辻村哲夫	15:00～17:00	音楽座		
午後3 15:45～17:00		14:45～15:15 写真撮影				15:45～17:00 防災管理 身崎 裕司	
		15:30～17:00 特別講義 大島昌子	15:45～17:00 班別協議				
		17:15～18:00 班長会					
第2週	1月13日(月)	1月14日(火)	1月15日(水)	1月16日(木)	1月17日(金)	1月18日(土)	1月19日(日)
8:30～9:00		8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30		9:15～11:45 (選択講義) 児童虐待 玉井 邦夫	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング)	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45		自殺予防 新井 肇	窪田 真二	嶋崎 政男			
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 教育指導上の課題 (学習指導と評価) 角屋 重樹 (教育課程) 岩立京子				13:00～15:30 メンタルヘルスマネジメント	
午後2 14:15～15:30			河村 茂雄				
午後3 15:45～17:00			15:45～17:00 教育と芸術 家田紀子、金井紀子	15:45～17:00 実践研究(法規)			
第3週	1月20日(月)	1月21日(火)	1月22日(水)	1月23日(木)	1月24日(金)	1月25日(土)	1月26日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育指導上の課題	9:15～17:00	9:45～17:00	9:45～17:00	9:15～10:45 リーダーとなるために		
午前2 10:30～11:45	(小・中 生徒指導) 柳生 和男	学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり)	学校運営演習	学校運営演習	11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	(幼 保育的關係) 神長美津子	北神 正行					
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究(法規)						

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修 【第380回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校等の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者。主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開催期日	平成26年 1月 28日（火）～平成26年 2月14日（金）				18日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	130	人	受講者数	145	人	参加率	111.5%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	140	5	0	0	0	0	145
割合 (%)	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	145	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイが勉強になった。表現力を高めなければと実感している。 ・文科省の方々の解説・助言がとても分かりやすかった。 ・どの設問も適切で、学校運営の基礎は法令にあるとの認識を改めて強く感じる事ができた演習だった。 ・何気なく行われている教育活動や学校の管理運営をしっかりと法規で裏づけることができ、大変有意義であった。 ・演習を通して自分のこととして問題を捉えることができ、また、他県の具体的な状況等を知ることができるので、とても有効だと思う。 ・内容を絞って具体例も交えて講義して頂けると良い。 ・児童虐待と自殺予防の両方の講話を聞いたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」を実践につなげるという観点から、「人材育成とコーチング」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高生の自殺者が共に増加傾向にあるため、選択講義「児童虐待」「自殺予防」の情報交換を行うことで、全受講者に講義内容の共有化を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設する。 ・「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修

第1週	1月27日(月)	1月28日(火)	1月29日(水)	1月30日(木)	1月31日(金)	2月1日(土)	2月2日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	10:15～11:45	9:15～14:45 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 特別支援教育		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	研修講師となるための知識・技術	松崎 勝	関戸 英紀		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～17:00 コミュニケーションカ		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省	惣脇 宏		音楽座		
		14:45～15:15 写真撮影		15:00～17:00			
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 特別講義 小川三夫	15:45～17:00 班別協議	防災管理 麻生川 敦			
		17:15～18:00班長会					
第2週	2月3日(月)	2月4日(火)	2月5日(水)	2月6日(木)	2月7日(金)	2月8日(土)	2月9日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:15～11:45 (選択講義) 児童虐待	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング)	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45	柳生 和男	玉井 邦夫 自殺予防 高橋 祥友	小松 郁夫	嶋崎 政男			
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 教育指導上の課題 (学習指導と評価)	13:00～15:30 メンタルヘルスマネジメント				
午後2 14:15～15:30		角屋 重樹	河村 茂雄				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究(法規)		15:45～17:00 教育と芸術 市川・岩河・竹澤	15:45～17:00 実践研究(法規)			
第3週	2月10日(月)	2月11日(火)	2月12日(水)	2月13日(木)	2月14日(金)	2月15日(土)	2月16日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション		8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00		9:45～17:00	9:45～17:00	9:15～10:45		
午前2 10:30～11:45	学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり)		学校運営演習	学校運営演習	リーダーとなるために 竹内 一郎		
午後1 13:00～14:15	浅野 良一				11:00～11:20 閉講式		
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修 【第370回】						
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研修目的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受講対象	高等学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開催期日	平成25年 5月 7日（火）～平成25年 5月31日（金）				25日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	170	人	受講者数	113	参加率	66.5%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	110 97.3	3 2.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	113
	113	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省から最新の教育に係る情報を得ることができた。 ・各県・各校の取組を知ることができ、大変参考になった。 ・講師の方の助言が非常に適切かつ確で、分かりやすかった。 ・講義されたことを実際に演習することで、体の中に入っていったと思う。それぞれの演習の狙いも明確にさせていただいたので、尚更であった。 ・研修員間のコミュニケーションもとれ、他県の状況も聞けるので、大変参考となった。 ・講師陣は全て一流の方ばかりで、今後も是非継続していただきたい。 ・ミドルリーダーの役割の中ではマネジメント機能に加えて支援・指導機能、若手教員の育成にも配慮すべきだということが印象に残った。 ・徳育の必要性を痛感した。どうしても知育に偏重しがちな自分の普段の教え方について反省したと同時に、学校に帰ってから生徒の心が読めるよう、自分自身が心のゆとりを持ちたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新設した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成にかかるニーズの高まりから「コーチング」を新設する。 ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ、「道徳教育」を150分→300分に拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第1回中堅教員研修

第1週	5月6日(月)	5月7日(火)	5月8日(水)	5月9日(木)	5月10日(金)	5月11日(土)	5月12日(日)	
8:30~9:00			8:30~10:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究			
午前1 9:15~10:30		9:30~9:50 受付		9:15~11:45 人権教育	9:15~15:30 教育法規Ⅱ			
午前2 10:30~11:45		10:00~11:45 オリエンテーション	10:15~11:45 地方教育行財政制度 大桃敏行		梅野正信	清水幹裕		
午後1 13:00~14:15		13:00~13:20 開講式	13:00~15:30 教育法規Ⅰ	13:00~17:00 研修講師となるための知識・技術				
午後2 14:15~15:30		13:30~14:45 新しい時代の教育	樋口修資					
午後3 15:45~17:00		14:45~15:15 写真撮影						
		15:30~17:00 特別講義 西田 善夫	15:45~17:00 実践研究			15:45~17:00 実践研究		
		17:15~18:00 班長会・フロアリーダー会						
第2週	5月13日(月)	5月14日(火)	5月15日(水)	5月16日(木)	5月17日(金)	5月18日(土)	5月19日(日)	
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究			
午前1 9:15~10:30	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15~15:30 メンタルヘルスマネジメント	9:15~15:30 特別支援教育	9:15~11:45 国際理解教育	9:15~17:00 リスクマネジメントⅡ			
午前2 10:30~11:45	濱田 博文	諸富 祥彦	花輪 敏男	多田 孝志				
午後1 13:00~14:15	13:00~17:00 コミュニケーションカ			13:00~15:30 リスクマネジメントⅠ				
午後2 14:15~15:30	音楽座			上地 安昭				
午後3 15:45~17:00		15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究				
		17:15~18:00 班長・副班長会						
第3週	5月20日(月)	5月21日(火)	5月22日(水)	5月23日(木)	5月24日(金)	5月25日(土)	5月26日(日)	
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究			
午前1 9:15~10:30	9:15~11:45 道徳教育	9:15~15:30 キャリア教育	9:15~15:30 生徒指導Ⅱ	9:15~15:30 特色あるカリキュラム編成	9:15~15:30 学習指導と評価			
午前2 10:30~11:45	横山 利弘	松井 賢二	河村 茂雄	(選択講義) 教育の情報化 影戸 誠	二井 正浩			
午後1 13:00~14:15	13:00~15:30 生徒指導Ⅰ			ボランティア教育 池田 幸也				
午後2 14:15~15:30	柳生 和男			健康教育 西岡 伸紀				
午後3 15:45~17:00	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 教育と芸術 市川・岩河・竹澤	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究			
第4週	5月27日(月)	5月28日(火)	5月29日(水)	5月30日(木)	5月31日(金)	6月1日(土)	6月2日(日)	
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:00 実践研究			
午前1 9:15~10:30	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり)	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅢ (ミドルリーダーの役割)	9:45~17:00 学校運営演習	9:45~17:00 学校運営演習	9:15~10:45 リーダーとなるために 黒岩 禪			
午前2 10:30~11:45		藤川 章	文部科学省	文部科学省	11:00~11:20 閉講式			
午後1 13:00~14:15		13:00~17:00 学校運営演習						
午後2 14:15~15:30		文部科学省						
午後3 15:45~17:00								

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修 【第372回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校、中学校（主として中学校）等の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者							
開催期日	平成25年 7月23日（火）～平成25年 8月16日（金）			25日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	280	人	受講者数	268	人	参加率	95.7%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	253 94.4	14 5.2	1 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	268
	267	99.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 自分の殻を破るための演出が適切であった。 キャリア発達という新しい概念を学ぶことができた。勤務校でも取り入れていきたい。 教育委員会という立場からの現場の声を直接聞くことができ、有意義であった。 今回の演習を通して、今後は法令に基づいて同僚にアドバイスをする自信がついた。 難しかったが、普段の管理職の指示の意味がよく分かった。他の県と比べられたことも有効だった。 職場を組織として客観的・具体的に診断・評価する方法を知ることができてよかった。ぜひ勤務校で活用していきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新設した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 3週間（夏季集中）プログラムに変更し日程を15日間とすることで、第2・3回中堅教員研修の日程を夏季休業期間内に終了する。 宿泊型研修のメリットを活かすために、研修期間中、土曜日を研修日（期間中1回）とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第2回中堅教員研修

第1週	7月22日(月)	7月23日(火)	7月24日(水)	7月25日(木)	7月26日(金)	7月27日(土)	7月28日(日)
8:30~9:00			8:30~10:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30		9:30~9:50 受付		9:15~15:30 教育法規Ⅱ	9:15~11:45 人権教育		
午前2 10:30~11:45		10:00~11:45 オリエンテーション	10:15~11:45 地方教育行財政制度 大桃敏行	清水幹裕	有村久春		
午後1 13:00~14:15		13:00~13:20 開講式	13:00~15:30 教育法規Ⅰ		13:00~17:00 研修講師となるための知識・技術		
午後2 14:15~15:30		13:30~14:45 新しい時代の教育	坂田仰				
午後3 15:45~17:00		14:45~15:15 写真撮影		15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究		
		15:30~17:00 特別講義 平尾 誠二					
		17:15~18:00 班長会・フロアリーダー会					
第2週	7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)	8月3日(土)	8月4日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15~15:30 キャリア教育	9:15~15:30 学習指導と評価	9:15~11:45 国際理解教育	9:15~17:00 リスクマネジメントⅡ		
午前2 10:30~11:45	日永 龍彦	松井 賢二	相澤 秀夫	多田 孝志			
午後1 13:00~14:15	13:00~17:00 コミュニケーションカ			13:00~15:30 リスクマネジメントⅠ			
午後2 14:15~15:30	音楽座			飯野 眞幸			
午後3 15:45~17:00		15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究			
		17:15~18:00 班長・副班長会					
第3週	8月5日(月)	8月6日(火)	8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)	8月10日(土)	8月11日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~11:45 道徳教育	9:15~15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15~15:30 特別支援教育	9:15~15:30 生徒指導Ⅱ	9:15~15:30 メンタルヘルスマネジメント		
午前2 10:30~11:45	七條 正典	教育の情報化 豊田 充崇	花輪 敏男	栗原 慎二	諸富 祥彦		
午後1 13:00~14:15	13:00~15:30 生徒指導Ⅰ	ボランティア教育 長沼 豊					
午後2 14:15~15:30	菅野 純	健康教育 野津 有司					
午後3 15:45~17:00	15:45~17:00 実践研究	環境教育 高田 研	15:45~17:00 教育と芸術 アマデウス五重奏	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究		
第4週	8月12日(月)	8月13日(火)	8月14日(水)	8月15日(木)	8月16日(金)	8月17日(土)	8月18日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり)	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅢ (ミドルリーダーの役割)	9:45~17:00 学校運営演習	9:45~17:00 学校運営演習	9:15~10:45 リーダーとなるために 酒巻 久		
午前2 10:30~11:45		藤川 章	文部科学省	文部科学省	11:00~11:20 閉講式		
午後1 13:00~14:15		13:00~17:00 学校運営演習					
午後2 14:15~15:30		文部科学省					
午後3 15:45~17:00							

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修 【第375回】						
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研修目的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受講対象	小学校、中学校（主として小学校）等の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開催期日	平成25年 8月20日（火）～平成25年 9月13日（金）				25日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	250	人	受講者数	176	参加率	70.4%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	172 97.7	4 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	176
	176	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習問題を解きながら、法規について少しずつ理解できるようになった。また班の方の発表を聞きながら、法的解釈の重要性がわかり、大変勉強になった。 ・学校を取り巻く様々な事柄が法律の上になされていることがよく分かった。 ・現場に則した内容ですぐに役立つものが多くてよかった。 ・組織マネジメントの研修は十分現場に活かすことができると感じた。 ・自校に帰っても取り組みやすいよう、ワークシートを纏めていただけて良かった。 ・演習を取り入れることにより、より実践的な研修となり、現場ですぐ活用できるものが多く良かった。 ・理解を深めるだけでなく、グループワークの中で人との関わり方についても学ぶことができた。子どもたちにグループワークを行わせるとき配慮することなどについても考えた。 ・本研修では長時間にわたる演習が可能だったが、なかなかまとまった時間をとりにくい学校で実施するためのアイデアが欲しい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新設した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3週間（夏季集中）プログラムに変更し日程を15日間とすることで、第2・3回中堅教員研修の日程を夏季休業期間内に終了する。 ・宿泊型研修のメリットを活かすために、研修期間中、土曜日を研修日（期間中1回）とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第3回中堅教員研修

第1週	8月19日(月)	8月20日(火)	8月21日(水)	8月22日(木)	8月23日(金)	8月24日(土)	8月25日(日)
8:30~9:00			8:30~10:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30		9:30~9:50 受付		9:15~15:30 教育法規Ⅱ	9:15~11:45 人権教育		
午前2 10:30~11:45		10:00~11:45 オリエンテーション	10:15~11:45 地方教育行財政制度 大桃敏行	三ツ角直正	有村久春		
午後1 13:00~14:15		13:00~13:20 開講式	13:00~15:30 教育法規Ⅰ		13:00~17:00 研修講師となるための知識・技術		
午後2 14:15~15:30		13:30~14:45 新しい時代の教育	坂田仰				
午後3 15:45~17:00		14:45~15:15 写真撮影		15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究		
		15:30~17:00 特別講義 大島 昌子	15:45~17:00 実践研究				
		17:15~18:00 班長会・フロアリーダー会					
第2週	8月26日(月)	8月27日(火)	8月28日(水)	8月29日(木)	8月30日(金)	8月31日(土)	9月1日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 大野 裕己	9:15~15:30 キャリア教育 藤田 晃之	9:15~15:30 学習指導と評価 加藤 明	9:15~11:45 国際理解教育 直山 木綿子	9:15~17:00 リスクマネジメントⅡ		
午前2 10:30~11:45							
午後1 13:00~14:15	13:00~17:00 コミュニケーションカ 音楽座			13:00~15:30 リスクマネジメントⅠ 飯野 眞幸			
午後2 14:15~15:30							
午後3 15:45~17:00		15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究			
		17:15~18:00 班長・副班長会					
第3週	9月2日(月)	9月3日(火)	9月4日(水)	9月5日(木)	9月6日(金)	9月7日(土)	9月8日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~11:45 道徳教育 押谷 由夫	9:15~15:30 生徒指導Ⅱ 栗原 慎二	9:15~15:30 特別支援教育 花輪 敏男	9:15~15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 教育の情報化 堀田 龍也	9:15~15:30 メンタルヘルスマネジメント 諸富 祥彦		
午前2 10:30~11:45				ボランティア教育 長沼 豊			
午後1 13:00~14:15	13:00~15:30 生徒指導Ⅰ 菅野 純			健康教育 野津 有司			
午後2 14:15~15:30				環境教育 藤本 勇二			
午後3 15:45~17:00	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 教育と芸術 腰越・丸山	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究		
第4週	9月9日(月)	9月10日(火)	9月11日(水)	9月12日(木)	9月13日(金)	9月14日(土)	9月15日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり)	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅢ (ミドルリーダーの役割) 藤川 章	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	9:15~10:45 リーダーとなるために 大竹 美喜		
午前2 10:30~11:45					11:00~11:20 閉講式		
午後1 13:00~14:15		13:00~17:00 学校運営演習 文部科学省					
午後2 14:15~15:30							
午後3 15:45~17:00							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修 【第378回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	〔教職員等中央研修の目的〕 学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校等の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者							
開 催 期 日	平成25年11月19日（火）～平成25年12月13日（金）					25日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	250	人	受講者数	191	人	参加率	76.4%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 1,700 人、受講者数 1,527 人、参加率 89.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	182 95.3	9 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	191
	191	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・このような機会であれば法規を調べ、その趣旨などを知ることはなかった。苦労はしたが、学校管理読本から法令を探ることが出来た。大変有用なものであることを痛感し、これからはもし困った際には活用していけるように心掛けた。</p> <p>・自校で実施するSWOT分析は、とても固い印象だったが、今回の演習で身近に感じられ、やってみたいという思いが大きくなった。</p> <p>・VTR視聴等の事前課題があり、それを踏まえての講義だったので、当日の内容がそれほど難しいとは思わなかった。内容をまとめたレジュメやPDFファイルがあったと思うが、それも事前に印刷しておけば、自学のために活用できたと思う。</p> <p>・演習を取り入れることによって、より深く詳しく理解することができた。</p> <p>・演習を通して教員自身のコミュニケーション能力やプレゼン能力のアップにもつながり、また演習形態を自校に生かすこともできるので、大変よかった。</p> <p>・今までやってきたことやできなかったこと、どのようにすれば自分の理想とするミドルリーダーとしての役割が果たせるのかということについて示唆をいただけたと感じている。若手にやりがいを持って職務に向かわせ育てていくことを深く考え、これからの自分の職務に当たりたいと考える。</p> <p>・いろいろ問題や課題が山積している学校現場において、道徳教育の充実は欠かせないものであると思う。「道徳教育を学校経営の中心に位置づける」ことを考え、来年度の教育計画を見直していきたいと思った。そのためには、課題の明確化と指導の重点化を図っていく必要性を感じた。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの「戦略づくり」をより効果的に行うため、「ミドルリーダーの役割」を新設した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成にかかるニーズの高まりから「コーチング」を新設する。 ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ、「道徳教育」を150分から300分に拡充する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教職員等中央研修 第4回中堅教員研修

第1週	11月18日(月)	11月19日(火)	11月20日(水)	11月21日(木)	11月22日(金)	11月23日(土)	11月24日(日)
8:30~9:00			8:30~10:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30		9:30~9:50 受付		9:15~15:30 教育法規Ⅱ	9:15~11:45 人権教育		
午前2 10:30~11:45		10:00~11:45 オリエンテーション	10:15~11:45 地方教育行財政制度 尾崎春樹	三ツ角直正	有村久春		
午後1 13:00~14:15		13:00~13:20 開講式	13:00~15:30 教育法規Ⅰ		13:00~17:00 研修講師となるための知識・技術		
午後2 14:15~15:30		13:30~14:45 新しい時代の教育	伊勢呂裕史				
午後3 15:45~17:00		14:45~15:15 写真撮影		15:45~17:00 実践研究			
		15:30~17:00 特別講義 童門 冬二	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究			
		17:15~18:00 班長会・フロアリーダー会					
第2週	11月25日(月)	11月26日(火)	11月27日(水)	11月28日(木)	11月29日(金)	11月30日(土)	12月1日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~15:30 キャリア教育	9:15~15:30 メンタルヘルスマネジメント	9:15~15:30 特別支援教育	9:15~15:30 学習指導と評価	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 浜田 博文		
午前2 10:30~11:45	中許 善弘	諸富 祥彦	花輪 敏男	(小・中)北 俊夫	13:00~17:00 コミュニケーションカ 音楽座		
午後1 13:00~14:15				(高校)工藤文三			
午後2 14:15~15:30							
午後3 15:45~17:00	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究			
		17:15~18:00 班長・副班長会					
第3週	12月2日(月)	12月3日(火)	12月4日(水)	12月5日(木)	12月6日(金)	12月7日(土)	12月8日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~11:45 国際理解教育	9:15~15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 教育の情報化 高橋 純	9:15~15:30 生徒指導Ⅱ	9:15~11:45 道徳教育	9:15~17:00 リスクマネジメントⅡ		
午前2 10:30~11:45	多田 孝志		河村 茂雄	(小中)七條 正典 (高校)藤永 芳純			
午後1 13:00~14:15	13:00~15:30 生徒指導Ⅰ	ボランティア教育 興沼 寛 健康教育 川畑 徹朗 環境教育 高田 研		13:00~15:30 リスクマネジメントⅠ			
午後2 14:15~15:30	(小中)大坪 治彦 (高)松田 素行			上地 安昭			
午後3 15:45~17:00	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 教育と芸術 清水良一、清水知子 伊坪淑子	15:45~17:00 実践研究			
第4週	12月9日(月)	12月10日(火)	12月11日(水)	12月12日(木)	12月13日(金)	12月14日(土)	12月15日(日)
8:30~9:00	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
午前1 9:15~10:30	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅡ (戦略づくり)	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅢ (ミドルリーダーの役割)	9:45~17:00 学校運営演習	9:45~17:00 学校運営演習	9:15~10:45 リーダーとなるために 黒岩 禪		
午前2 10:30~11:45		藤川 章	文部科学省	文部科学省	11:00~11:20 閉講式		
午後1 13:00~14:15		13:00~17:00 学校運営演習					
午後2 14:15~15:30		文部科学省					
午後3 15:45~17:00							

I 研修概要

研 修 名	英語教育海外派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	各地域において英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修に活かし、各域内全体の英語教育の改善に資する。							
受 講 対 象	以下の者であって、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる者 ①中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者(年齢は平成25年度末現在) ④過去に文部科学省又はセンターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者							
開 催 期 日	別紙の通り			別紙の通り				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	29	人	参加率	96.7%
開 催 場 所	別紙の通り							

※ 全体受講定員 30 人、 受講者数 29 人、 参加率 96.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	25	3	0	0	0	1	29
割合 (%)	89.3	10.7	0.0	0.0	0.0	3.4	
	28						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修(事前)では、英語教育の実態や教員として身につけておくべき資質等について大変貴重な話を聞くことができた。また、前年度、デンバー大学で研修を終えられた先生方にも具体的な説明をいただき、大変参考になった。 ・大学での研修は、おおむね満足でとても有意義なものだったが、中学生に適用しにくいものもあったので、語学学習初心者にも照準を合わせた内容へとなれば有り難い。 ・大学のどの先生方も、私たちが日本に帰った時、現場で活用することが可能な実践例をわかりやすく提示していただいた。日々、様々な手法による授業は、今後の授業でいかせることができるアイデアを数多く含んでおり、大変勉強になった。 ・事後研修会でのバーミンガム大学班のプレゼンにあったジャングルリスニングや、デンバー大学のgood readersの条件については非常に興味深かった。このような情報交換は、本研修の効果を何倍にもしてくれるものだと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修に臨むにあたり、多くの研修参加者が2ヶ月間の海外での生活や、ホームステイ先の家族との接し方などについて不安を抱いているという意見を受け、事前研修会で助言講師として招いている過年度研修を受けられた先生方に2ヶ月間の海外研修期間中の生活面、大学での研修についてに特化した内容で説明をしていただく時間を設けた。 ・事後研修会で各大学で学んだ成果の活用事例を別々の大学で学んだ者同士で発表し合い、他大学の教授法についての情報共有を図るコマを設けていたが、より具体的に活用事例が理解できるよう、模擬授業形式で発表させる内容に変更した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助言講師からの生活面、大学研修面に特化した説明の時間は好評だったが、日程上、質疑の時間を多くとることができなかったため、海外研修に臨む参加者の不安を少しでも解消できるよう、助言講師の説明時間を多く取るような日程構成に変更する。 ・25年度から事後研修会で模擬授業形式を実施したが、活用事例の発表に止まる傾向にあるため、教授法を発展させる方法に係る内容を盛り込む。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数	事後研修会
イギリス	エクセター大学	8	5/9(木)～10(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)	6/22(土)～8/19(月)	59	11/28(木)～29(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)
	バーミンガム大学	9		7/19(金)～9/15(日)	59	
アメリカ	デンバー大学	12		7/14(日)～9/10(火)	59	
計		29				

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画などを担当している者並びにそれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成25年10月 7日（月）～平成25年10月11日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	137	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 540 人、受講者数 556 人、参加率 103.0%
(全体計画人数)

※ 第1回～第2回 220 人、受講者数 259 人、参加率 117.7%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	127	10	0	0	0	0	137
割合 (%)	92.7	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	137	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 改めて自身の教育活動を見直したり、これからどのように組織マネジメントに取り組むか指針を頂いた。 学校組織に関する研修を地方で実施する立場の者として、大いに参考になった。 優れたリーダーは「感化力」と管理能力を駆使して、効果の高い組織変革を実現することが分かった。 学校組織マネジメントの基礎的な知識を得る機会となった。実際に、学校において進めていくべき組織マネジメントの在り方がよくわかった。 学校組織マネジメントに3つの側面（学力・教員・経営）の要素を入れていくことが大切であることや、「見つける」「つなぐ」「変える」という3つの視点を持つ学校経営の基本について、納得できた。 学校のありたい姿（めざす子供像、めざす学校像、めざす教師像）を考える際のポイントがわかった。また、学校の現状分析の手法や改善・改革策の手法など理解することができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議の深化をさらに促進する観点から、受講者の属性を現在の2種から4種に細分化してグループ編成を行った。 教育現場の経営資源として最も重要な「人」のマネジメントを重視する観点から、演習を伴う新講座「やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント」を設けた。 研修全体のストーリー化を進める観点から、全体を見通したプロローグ的な演習、具体的には受講者に課したSWOT分析による事前課題のグループでの協議「事例校の検討」を初日に設けた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 初日の民間人講師による講義の時間を短縮し、オリエンテーションや、受講者の協議の時間に充てる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回)日程表

平成25年10月 7日(月)～平成25年10月11日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日			受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官 中尾 敏朗	昼食・休憩	演習 事例校の検討	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージエンス 代表取締役社長 桑畑 英紀	諸連絡						
第2日	学校コンサルティ ングの実際(1)	休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとつてのマネジ メントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行	昼食・休憩	実践発表 (1) 学校組織の活性化 新城市立千郷中学校校長 小西 祥二 氏 (2) 地域連携の取組 京都市立下京中学校校長 村上 幸一 氏 講評:国士館大学教授 北神 正行	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	諸連絡									
第3日	演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	昼食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	諸連絡													
第4日	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 京都教育大学教授 笠沙 知章	休憩	学校コンサルティ ングの実際(2)	昼食・休憩	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡											
第5日	オリエン テーション	演習・講義 学校コンサルティ ングの実際(3) ～研修講師となるために～ 高崎経済大学講師 飯野 眞幸	閉講式	まとめ	諸連絡												

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画などを担当している者並びにこれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成25年10月28日（月）～平成25年11月 1日（金）					5日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	122	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

- ※ 全体受講定員（全体計画人数） 540 人、受講者数 556 人、参加率 103.0%
- ※ 第1回～第2回受講定員 220 人、受講者数 259 人、参加率 117.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	107	15	0	0	0	0	122
割合 (%)	87.7	12.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	122						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントの実践を聞き、情報発信で学校と地域を結ぶだけでなく、校内の組織を活性化することにも効果をもたらすことが理解できた。 ・企業が考えるリーダーの在り方を非常に分かりやすく教えて頂いた。学校にも通じるものが多く、活用していきたい。 ・職員のモチベーションの高め方と組織の運営方法が良く分かった。 ・学校マネジメントの3つの視点を持ち、協働型組織で学校経営をしていくことの重要性、学校改善の方策を示して頂いた。 ・6名という人数で1校の事例校についてのマップを作成することで、様々な考え、多様なアイデアが出され、手法も身に付けることができた。 ・メンタルヘルスに留意した職場づくりに努めたいと強く思った。忙しさの中にも多忙感を感じない組織の確立が大切だと思った。 ・グループの受講者の課題を的確に理解する時間的な余裕がなかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議の深化をさらに促進する観点から、受講者の属性を現在の2種から4種に細分化してグループ編成を行った。 ・教育現場の経営資源として最も重要な「人」のマネジメントを重視する観点から、演習を伴う新講座「やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント」を設けた。 ・研修全体のストーリー化を進める観点から、全体を見通したプロローグ的な演習、具体的には受講者に課したSWOT分析による事前課題のグループでの協議「事例校の検討」を初日に設けた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日の民間人講師による講義の時間を短縮し、オリエンテーションや、受講者の協議の時間に充てる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回)日程表

平成25年10月28日(月)～平成25年11月1日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日	9:00	9:30	受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官 太田 光春	屋食・休憩	演習 事例校の検討	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージュエンス 代表取締役社長 桑畑 英紀	諸連絡						
					講義 マネジメントの改善 (1) 学校組織の活性化 小牧市立小牧中学校校長 玉置 崇 (2) 地域連携の取組 岡山市立岡輝中学校元校長 森谷 正孝 講評: 国士館大学教授 北神 正行	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージュエンス 代表取締役社長 桑畑 英紀											
第2日	9:00	9:30	学校コンサルティングの実践(1)	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー マネジメントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行	屋食・休憩	屋食・休憩	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義 メンタルヘルスマネジメント 三葉病院精神神経科部長 真金 薫子	諸連絡							
				休憩	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義 メンタルヘルスマネジメント 三葉病院精神神経科部長 真金 薫子										
第3日	9:00	9:30	演習 学校のある学校づくりのための財務マネジメント 京都教育大学教授 笠沙 知章	学校コンサルティングの実践(2)	屋食・休憩	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡								
				休憩	屋食・休憩	演習 学校のある学校づくりのための財務マネジメント 京都教育大学教授 笠沙 知章	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄										
第4日	9:00	9:30	オリエンテーション	演習・講義 学校コンサルティングの実践(3) ～研修講師となるために～ 高崎経済大学講師 飯野 真幸	学校コンサルティングの実践(2)	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡								
					休憩	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄									
第5日	9:00	9:30	オリエンテーション	演習・講義 学校コンサルティングの実践(3) ～研修講師となるために～ 高崎経済大学講師 飯野 真幸	学校コンサルティングの実践(2)	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡								
					休憩	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄									
					まとめ	閉講式											

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第3回）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受講対象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う予定である者。							
開催期日	平成25年11月11日（月）～平成25年11月15日（金）			日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	118	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 540 人、受講者数 556 人、参加率 103.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	65	45	0	0	7	1	118
割合 (%)	55.6	38.5	0.0	0.0	6.0	0.8	
	110	94.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・講師の専門的な講義はもちろん、日頃他校の事務長と学校事務の課題について、意見交換、討議をする時間がないので、自分の業務を見直す、良い機会となった。
- ・学校職員としての、学校教育の関わり方の指標をいただき、ありがたかった。生徒のためということを再認識した。
- ・グループで、学校の問題解決に向けて演習協議を行ったことで、話し合いが大事だと気づかされた。
- ・事務は学校運営に関わるものではないという、誤った認識を改める機会となった。専門的な話もわかりやすく教えていただき参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・受講生の理解をより深めるために、演習1の前に、センター主事から演習の全体像を説明する時間を設けた。

次年度に向けて

- ・引き続き、受講生の参加率改善を目指し、自治体等への働きかけ、魅力的な研修内容の構築及び講師の獲得に努める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 学校組織マネジメント指導者養成研修（第3回：高等学校事務職員研修） 日程表

11月11日（月）	9:30	10:00	10:35	11:45	12:45	14:15	14:30	15:00	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	【講堂】 座席表① 講義1 「教育改革の動向について」 文部科学省初等中等教育局 視学官 酒井 貢 目的：最新の教育改革等について理解を深める	休 食	【第二研修棟2F】 座席表② 講義2 「学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春 目的：学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休 食	【第二研修棟2F】 座席表② 演習1 「自校の取組」 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄 目的：他校の特色ある取組について理解する	【第二研修棟2F】 座席表②
11月12日（火）	9:00	11:45	12:45	11:45	12:45	13:40	13:55	14:45	15:00
	受付	講義3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 千葉大学教育学部 教授 大笠 茂 目的：学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	休 食	【講堂】 座席表① 講義4 「学校組織マネジメント①」 教育改革実践家 藤原 和博 目的：学校組織マネジメントの実践について知る	休 食	【講堂】 座席表①	【分科会別会場】 座席表③ 演習2 「学校運営を支える事務長の役割」 目的：学校を運営する上で、事務長に求められている役割について課題をもつ	【講堂】 座席表①	
11月13日（水）	9:00	11:45	12:45	11:45	12:45	13:40	13:55	14:45	15:00
	受付	講義・演習1 「学校組織マネジメント②」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 大野 裕己 目的：学校組織マネジメントによる学校業務の検討方法について具体的に理解を深める	休 食	【講堂】 座席表① 事例発表 「学校運営の課題と改善策について」 ①【講堂】座席表① 群馬県立太田女子高等学校 事務長 中澤 康夫 目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務長に期待されていることを確認する	休 食	【講堂】 座席表② ②③は座席自由 休 食	【分科会別会場】 座席表③	【分科会別会場】 座席表③	
11月14日（木）	9:00	11:45	12:45	11:45	12:45	13:40	13:55	14:45	15:00
	受付	講義・演習2 「学校組織マネジメント③」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的：学校組織マネジメントによる学校業務の検討方法について具体的に理解を深める	休 食	【第二研修棟2F】 座席表② 演習3 「学校運営を支える事務長の役割」 東京都立小山台高等学校 経営企画室長 原 とき枝 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 主査兼事務長 秋田 剛 茨城県立つくば特別支援学校 事務長 富田 英明 茨城県立水戸特別支援学校 主査兼事務長 神 元 秀男 千葉県立船橋法典高等学校 事務長 太田 秀男 目的：学校運営における課題に対する改善策等を学ぶとともに、事務長の役割について理解を深める	休 食	【講堂】 座席表④ 講義5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 目的：学校組織マネジメントに関する研修講師となるための課題を整理する	【講堂】 座席表④ 演習4 「学校運営を支える事務長の役割」 東京都立小山台高等学校 経営企画室長 原 とき枝 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 主査兼事務長 秋田 剛 茨城県立つくば特別支援学校 事務長 富田 英明 茨城県立水戸特別支援学校 主査兼事務長 神 元 秀男 千葉県立船橋法典高等学校 事務長 太田 秀男 目的：学校運営における課題に対する改善策等を学ぶとともに、事務長の役割について理解を深める	【講堂】 座席表④	
11月15日（金）	9:00	11:20	11:30	12:00	12:15	12:00	12:15	12:00	12:15
	受付	演習4 「学校運営を支える事務長の役割」 東京都立小山台高等学校 経営企画室長 原 とき枝 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 主査兼事務長 秋田 剛 茨城県立つくば特別支援学校 事務長 富田 英明 茨城県立水戸特別支援学校 主査兼事務長 神 元 秀男 千葉県立船橋法典高等学校 事務長 太田 秀男 目的：学校運営における課題に対する改善策等を学ぶとともに、事務長の役割について理解を深める	休 食	【講堂】 座席表④ 講義5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 目的：学校組織マネジメントに関する研修講師となるための課題を整理する	閉講式	※演習1, 2, 3, 4については原則として以下に分かれて実施 1. 特色ある学校の運営（普通科） 2. 特色ある学校の運営（専門学科） 3. 特色ある学校の運営（総合学科） 4. 特色ある学校の運営（特別支援学校）	【分科会別会場】 座席表③	【分科会別会場】 座席表③	

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第4回）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受講対象	小学校及び中学校の事務長及びそれに準じる者であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等として、活動を行う予定である者。							
開催期日	平成26年2月24日（月）～平成26年2月28日（金）				日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	179	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 540 人、受講者数 556 人、参加率 103.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	153	17	0	0	9	0	179
割合 (%)	85.5	9.5	0.0	0.0	5.0	0.0	
	170	95.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全ての講義が今まで受けてきた研修会では味わえない深い内容や感動的な内容だった。今回の研修を必ず今後の職務に生かしたい、又、地域事務職員にも伝講し、自分だけのものにせず活用していきたい。使命感をもち過ごしていきたい。 ・固定化されたものに今まではこだわっていたように思った。もっと柔軟にいろいろな方面から見ていきたいと思った。管理職を巻き込んで、評価を生かし、よりよい学校にしていきたい。 ・自分自身の甘さ、力量不足をよい意味で感じる事ができた。今回の研修では、まだ学んだというレベルに達していないことから、自分の地区で、会員向けに演習等を行う中で、自分のものとすると同時に、会員の資質向上に努めていきたい。 ・自分自身の意識が変わった。帰ってから実践したい事例にも触れることができた。柔軟に、多面的に物事を考えていこうと思えるようになった。研修内容はもとより「全国から集まる」ことがとても有意義と感じた。班員の懇親会での話が貴重な経験だった。忘れられない。 ・これほどたくさんの濃い研修を受けることは初めてあるが、それぞれに「大変有意義な内容だった！」という思いを持った。それを自分の物にするにはまだ力不足であるが、頭と資料を整理して少しずつでも自分の力にして行きたいと思う。個業をしている職種ですが、協業をしていくことを少しずつでも実践したいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生の理解をより深めるために、演習1の前に、センター主事から演習の全体像を説明する時間を設けた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや任意様式（模造紙資料等）の作成に関して、作成方法のアナウンスや参考事例の提供の仕方など不十分な部分があったため改善する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 学校組織マネジメント指導者養成研修(第4回:小・中学校事務職員研修) 日程表

2月24日(月)	9:30	10:00	10:35	11:45	12:45	14:15	14:30	15:00	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「教育再生実行会議提言を踏まえた教育改革の動向について」 文部科学省大臣官房審議官 藤原 誠 目的:最新の教育改革及び制度について理解を深める	昼食	講義2 「学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局視学官 永井 克昇 目的:学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休憩	演習説明①	演習1 「自校の取組」 目的:他校の特色ある取組について共有する

2月25日(火)	9:00	11:45	12:45	14:45	17:00
	受付	講義3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 元兼 正浩 目的:学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえ、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	昼食	講義・演習1 「学校組織マネジメント①」 教育改革実践家 藤原 和博 目的:学校組織マネジメントの実際について知る	

2月26日(水)	9:00	11:45	12:45	14:45	15:00	17:00
	受付	講義・演習2 「学校組織マネジメント②」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 大野 裕己 目的:各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例等を知る	昼食	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表① 成田市立公津の杜中学校 事務長 三浦 由起子 事例発表② 福井市社中学校 主任 吉田 清子 目的:特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る	休憩	演習2 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 目的:学校運営における事務職員の役割について振り返る

2月27日(木)	9:00	12:00	13:00	13:30	17:00
	受付	講義・演習3 「学校組織マネジメント③」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める	昼食	演習説明②	演習3 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄 目的:学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する

2月28日(金)	9:00	11:00	11:15	11:30	12:00	12:15
	受付	講義4 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄 発表 班別協議 目的:学校運営における課題に対する解決方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員の役割について理解を深める	休憩	指導助言	講義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井克昇 目的:研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高める	閉講式

【演習3-4 指導助言】

静岡県袋井市立袋井北小学校 統括事務主幹 横山 泉
兵庫県芦屋市立潮見中学校 学校副主幹 鳥本 安博
静岡県静岡市立清水小学校 統括事務主幹 松本 信幸
岩手県盛岡市立泉前中学校 事務主任 阿部 貴子
埼玉県加須市立花崎北小学校 事務主幹 飯島 由美子

I 研修概要

研修名	国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成25年9月18日（水）～平成25年9月20日（金）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	93	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 220 人、受講者数 214 人、参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	88	5	0	0	0	0	93
割合(%)	94.6	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	93	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの指導のどこに問題があるのかを見直す大変良い機会となった。又、他県の先生方との交流を通して、多くのことを学ぶことができた。これからの授業や研修にすぐに生かすことのできる事例を知ることができた。 ・各班の成果物を見聞きして大変参考になった。「各教科～」という観点で考えた場合、アクションプランを含めて各教科ごとにどんな方法論があるのか、学校全体で進めていく上での要点は何かなど、具体的ものに触れられたことが最大の収穫であった。 ・なぜ今言語活動の充実が必要なのか、その背景からお話いただき、言語活動の充実を図ることの再確認をした。環境・可能性・同質の授業・そしてカリキュラムマネジメントをしっかりと考えていこうと思う。 ・現場教員の意見、「言語活動の充実」のための具体的なスキルを共有するグループ協議、全体協議を多く持ちたかった。 ・研修講師になる立場として授業づくりを行ったのは初めてだったが、目に見える授業の背後にある理論の重要性について再認識することができた。 ・数学が一組しかないのが残念だった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日目の演習では、最終的には成果を活用した研修プログラムを作成する、ということを含め念頭に置きつつ演習を行えるようにした。 ・「研修講師となるために」の時間を拡充（90分→150分）し、講義→「研修成果活用案」の補足・加筆→班で振り返り・見直し→質疑応答とし、研修波及をどうするかと充実させるプログラムとした。 ・「アクションプラン作成コース」は、事前課題を研修プログラムの作成として演習に活かせるように仕様を変更した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修成果の発表、共有の時間を拡大する。（120分→150分） ・他教科等への拡大を検討する。（音楽・美術・保健体育等の実施を検討）

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

～各教科等における言語活動の充実に向けた指導者養成～ 平成25年度 国語力向上指導者養成研修 日程表（東部ブロック）

第1日目

【東部】 9月18日 (水)	9:30	10:00	10:30	11:20	11:25	12:15	13:15	15:00	15:15	17:15
	受付	開講式・オリエンテーション	課題協議1 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局主任視学官 西辻 正副 ◎目的：言語活動の充実に関する現状と課題、意義・目的を踏まえた本研修のねらいの共有及び3日間の研修内容を知り研修を受講するにあたっての心構えを理解する。	休憩	課題協議2 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 横浜国立大学教授 高木 展郎 2. 国内における取組 ・事例発表、質疑応答 高等学校 神奈川県立光陵高等学校 総括教諭 遠藤 隆一 中学校 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 教諭 藤原 大樹 小学校 新潟大学教育学部附属長岡小学校 教諭 上月 康弘 ・講評 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 ◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法について理解を深める。	昼休み	休憩	研究協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ①小学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 ②中学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 ③高等学校部会 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 西辻 正副 ◎目的：各学校段階における言語活動充実の意義について理解を深め、併せてカリキュラム等を作成する際の手立てを理解する。		

第2日目

【東部】 9月19日 (木)	【学校全体のアクションプラン作成コース】									
	9:00	12:00				13:00		17:00		
	研修プログラムの作成 ～学校全体のアクションプランの作成をとおして～ 初等分科会 共栄大学教育学部 教授 吉川 成夫 岡山大学大学院教育学研究科 准教授 浮田 真弓 中等分科会 横浜国立大学 教授 高木 展郎 横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校 副校長 青木 弘 神奈川県立総合教育センター 指導主事 松澤 直子 ◎目的：言語活動の充実が学校全体や各地域で取り組むために必要な事項を整理し、効果的なアクションプランを作成する。また、作成したアクションプランを各地域に還元する際の知識・方法を習得する。									
	【各教科等の学習指導計画作成コース】									
	9:00	12:00				13:00		17:00		
	研修プログラムの作成 ～各教科等の学習指導計画の作成をとおして～ 国語 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 西辻 正副 社会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 村瀬 正幸 算数/数学 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水谷 尚人 理科 文部科学省初等中等教育局 視学官 清原 洋一 総合 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 ◎目的：言語活動を充実させるための方策や指導の工夫などを研修時に活用できるような学習指導計画を作成する。また、作成した学習指導計画を地域に還元する際の知識・方法を習得する。									

第3日目

【東部】 9月20日 (金)	9:00	11:00	12:00	13:00	14:30
	全体会 「コース別演習の発表」 ◎目的：第2日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 前年度受講者 滋賀県総合教育センター 研修指導主事 宮崎 良雄 千葉市立おゆみ野南小学校 教諭 末廣 啓子 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。	昼休み 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修 (西部ブロック)							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成25年7月24日（水）～平成25年7月26日（金）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	121	人	参加率	※
開 催 場 所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）							

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 220 人、受講者数 214 人、参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	104 86.0	17 14.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	121
	121	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式だけでなく、演習形式の研修プログラムがとても充実しており、より主体的に研修に参加することができた。またこの研修で学んだことを、今後どのように活用していけばよいのか、はっきりと見通しを持つことができ、大変充実した研修となった。 ・今回の研修を貫く「言語活動」についての基本的な事柄について知ることができて良かった。特に、言語活動を手立てとして捉え、思考力、判断力、表現力と言った基礎的な学力を身に付けさせるという趣旨についてよく理解した。 ・実際の指導案を基に課題や良さをお互いに考え協議することができた。時間的にはぎりぎりだが、これくらいの時間であった方が、緊張感をもち、それぞれがしっかりと活動できるので良いと思う。 ・自分が研修講師になるというイメージがあまりわかかなかったが、実際にプランを考えてみることで、少しできる事から始めようと思った。 ・他グループの発表を聞く中で知見を広げることができるとともに、自グループの発表と質疑で自己の課題が明確になった。ポスターセッションの際、2、3分の質疑の時間の設定をお願いしたい。 ・もう少し国語以外の教科の先生方が多く参加されるような案内の方法を考えられてもよいのではないかと。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日目の演習では、最終的には成果を活用した研修プログラムを作成する、ということを予め念頭に置きつつ演習を行えるようにした。 ・「研修講師となるために」の時間を拡充（90分→150分）し、講義→「研修成果活用案」の補足・加筆→班で振り返り・見直し→質疑応答とし、研修波及をどうするかと充実させるプログラムとした。 ・「アクションプラン作成コース」は、事前課題を研修プログラムの作成として演習に活かせるように仕様を変更した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修成果の発表、共有の時間を拡大する。（120分→150分） ・他教科等への拡大を検討する。（音楽・美術・保健体育等の実施を検討）

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

～各教科等における言語活動の充実に向けた指導者養成～ 平成25年度 国語力向上指導者養成研修 日程表（西部ブロック）

第1日目

【西部】 7月24日 (水)	9:30	10:00	10:30	11:20	11:25	12:15	13:15	15:00	15:15	17:15
	受付	開講式・オリエンテーション	課題協議1 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局主任視学官 西辻 正副 ◎目的：言語活動の充実に関する現状と課題、意義・目的を踏まえた本研修のねらいの共有及び3日間の研修内容を知り研修を受講するにあたっての心構えを理解する。	休憩	課題協議2 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 横浜国立大学 教授 高木 展郎 2. 国内における取組 ・事例発表、質疑応答 小学校 香川大学教育学部附属坂出小学校 教諭 中田 祐二 中学校 広島県廿日市市立大野東中学校 教諭 岡田 信彦 高等学校 福岡県立城南高等学校 教頭 合屋 伸一 ・講評 文部科学省初等中等教育局教育課程課調査官 水戸部 修治 ◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法について理解を深める。	昼休み		休憩	研究協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ①小学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課調査官 水戸部 修治 ②中学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課調査官 富山 哲也 ③高等学校部会 文部科学省初等中等教育局主任視学官 西辻 正副 ◎目的：各学校段階における言語活動充実の意義について理解を深め、併せてカリキュラム等を作成する際の手立てを理解する。	

第2日目

【西部】 7月25日	【学校全体のアクションプラン作成コース】									
	9:00	研修プログラムの作成 ～学校全体のアクションプランの作成をとおして～ 初等分科会 静岡大学大学院 教授 長崎 栄三 岡山大学大学院 准教授 浮田 真弓 中等分科会 横浜国立大学 教授 高木 展郎 広島県廿日市市立大野東中学校 校長 門戸 千幸 ノートルダム清心女子大学 准教授 大滝 一登 ◎目的：言語活動の充実が学校全体や各地域で取り組むために必要な事項を整理し、効果的なアクションプランを作成する。 また、作成したアクションプランを各地域に還元する際の知識・方法を習得する。								17:00
【各教科等の学習指導計画作成コース】	9:00									
	9:00	研修プログラムの作成 ～各教科等の学習指導計画の作成をとおして～ 国語(小) 文部科学省初等中等教育局 教育課程課調査官 水戸部 修治 (中) 文部科学省初等中等教育局 教育課程課調査官 富山 哲也 (高) 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 西辻 正副 社会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課調査官 村瀬 正幸 算数/数学 文部科学省初等中等教育局 教育課程課調査官 笠井 健一 理科 文部科学省初等中等教育局 教育課程課調査官 村山 哲哉 総合 山形大学 准教授 野口 徹 ◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などを研修時に活用できるような学習指導計画を作成する。 また、作成した学習指導計画を地域に還元する際の知識・方法を習得する。								17:00

第3日目

【西部】 7月26日 (金)	9:00	11:00	12:00	13:00	14:30
	全体会 「コース別演習の発表」	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也 前年度受講者 滋賀県総合教育センター 研修指導主事 宮崎 良雄 千葉市立おゆみ野南小学校 教諭 末廣 啓子 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。	昼休み		閉講式

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）					
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者 					
開催期日	平成25年6月3日（月）～平成25年6月7日（金）			5日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	220 人	受講者数	239 人	参加率	108.6%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 770 人、受講者数 743 人、参加率 96.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	210 87.9	26 10.9	0 0.0	0 0.0	3 1.3	0 0.0	239
	236	98.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂や心のノートの作成に直接関わった先生方からその経緯や理念を聞くことができ、有意義だった。 ・様々な地域と校種の実践を交流することができた。12年間を見通した道徳教育の在り方について考える機会となった。 ・模擬授業はそれぞれのグループのアイデアが出て、参考になった。指導助言者の授業に基づいて、中心発問や指導感、主題名など具体的に指導され、参考になった。 ・各県の推進状況を知り、推進教師の役割を明確化することの重要性を確認し合った。中学校では教科の年間計画に道徳的価値の枠を挿入する提案が協議の中から生まれ、有意義であった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1において、課題様式を受講生がより書きやすい内容に改めた。 ・演習1において、受講生がより課題を共有しやすい環境となるよう、班割方法を改めた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の課題様式の作成方法が不明瞭という意見があるため、さらに受講生に配慮した内容に改める。 ・道徳の教科化に関する中教審の審議状況や、心のノート改訂版「わたしたちの道徳」の活用方策等について、行政説明や有識者による講義において、タイムリーな情報を提供していく。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）
日 程 表

第1日目

6月3日 (月)	9:15	10:15	11:00	11:30	12:30	13:40	13:50	15:00	15:20	17:00
		受 付	開 講 式	行政説明 「道徳教育の充 実について」 (講師) 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課課長補佐 美濃 亮	休 休 み	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休 休 み		演習1 「道徳教育推進上の課題—発達の段階 に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階に 応じた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

6月4日 (火)	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:15	15:30	17:00
	課題協議2 「心を育てる道徳教育の具体的展 開」 【授業づくりの要点1】 香川大学教育学部教授 七條 正典 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理 解を深める	休 休 み	課題協議3 「体験活動や実践活動を通じた 道徳教育」 【授業づくりの要点2】 文部科学省初等中等教育局視学官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳 教育の意義や役割について理解を深める	休 休 み	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：世田谷区立池之上小学校主任教諭 堀本 ひろみ 中学校：京都府城陽市立北城陽中学校教諭 村田 寿美子 特別活動：京都府長岡京市立特立小学校教諭 森 久彰 阿部 隆 ◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を 学ぶとともに、課題をもつ	休 休 み	課題協議4 「心のノートを生かした道徳教育 の推進」 京都市教育委員会指導部長 柴原 弘志 ◎目的：心のノートの活用方法について、 執筆から狙いと活用方法について具体的に 学ぶ	

第3日目

6月5日 (水)	9:00	11:30	12:30	14:00	14:15	17:00				
	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計 画づくり（課題別「心のノート」を生かしながら）」 【授業づくりの要点3】 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成につ いて理解を深め、課題とその解決策を探る <小・中学校部会：演習2・3指導助言者> 渋谷区立加計塚小学校校長 高橋 紀彰子 深谷市教育委員会課長補佐兼指導主事 浅見 哲也 杉並区立東田中学校校長 福田 鉄雄 岐阜市立西郷小学校校長 河合 宣昌 国立市立国立第二小学校副校長 齋藤 賢二 豊島区立巣鴨北中学校校長 江川 登 大阪市立豊仁小学校校長 服部 敬一 石川県教育委員会学校指導課主任指導主事 日向 正志 兵庫県立教育研修所主任指導主事兼義務教育研修課長 馬場 勝 秋田公立美術大学教授 毛内 嘉成 久喜市教育委員会指導主事兼教育部学務課主幹 堀内 俊吾 京都市立音羽中学校教頭 鈴木 克治	休 休 み	小・中学校部会協議 「「道徳の時間」の充実を図るた めに」 【授業づくりの要点4】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、 授業改善への視座を得る	演習3 「道徳の授業づくり（教材・活動と評価）とその評価」 ◎目的：魅力ある教材の開発と活用等、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある 指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る						
高校部会	9:00	10:15	10:30	11:30	12:30	14:00	14:15	15:45	16:00	17:00
	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き 方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：高等学校における道徳教育 の在り方について理解を深める	休 休 み	事例発表・協議 「人間としての在り方生き 方に関する教育の実践と 課題」 長崎県立西彼杵高等学校 校長 太田 武則 ◎目的：具体的事例を通して、高 等学校における道徳教育の充実 に向けた新たな視点を学ぶととも に、課題をもつ	休 休 み	演習5 「学校の教育活動全体を通じて 行う人間としての在り方生き方 に関する教育の展開」 (指導助言者) 兵庫教育大学大学院教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学教授 秋山 博正 文京学院大学教授 小泉 博明 ◎目的：全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習6 「人間としての在り方生き方 に関する各教科等における具体的 な教材研究・実践」	全体会・演習のまとめ			

第4日目

6月6日 (木)	9:00	12:15	13:15	13:45	17:00
	演習4 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅰ—学習指導案の作成・検討—」 ◎目的：「道徳の時間」における学習指導案作成等に取り組むことを通じて、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り 方を学ぶ	休 休 み	模擬授業・協議1 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅱ—模擬授業の発表・協議—」 (指導助言者) 明星大学特任准教授 大原 龍一 (財)総合初等教育研究所室長 馬場 喜久雄 世田谷区立池之上小学校校長 北村 博 さいたま市立芝川小学校校長 藤澤 美智子 文教大学教育学部講師 山西 実 高知大学教育学部准教授 田邊 廉任 元相模原市立相模丘中学校校長 藤村 公三郎 宇都宮海星女子学院校長 齋藤 直子 ◎目的：各分科ごとに模擬授業を行い、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深め る		
高校部会	9:00	12:00	13:00	14:45	15:00
演習7 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 (指導助言者) 兵庫教育大学大学院教授 谷田増幸 くらしき作陽大学教授 秋山博正 文京学院大学教授 小泉博明 ◎目的：全体計画等の検討および発表を通して、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る	休 休 み	休 休 み	発表・講評		

第5日目

6月7日 (金)	9:00	12:00	13:00	14:40
	模擬授業・協議2(代表班発表) 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅱ—模擬授業の発表・協議—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 (小中部会)◎目的：各分科会の代表班が模擬授業を行い、「道徳の時間」の充実に向けた指 導の展開方策について理解を深める (高校部会)◎目的：小・中学校における「道徳の時間」の授業の実態について理解を深める	休 休 み	課題協議5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道 徳教育についての理解を深め各自が本研修の成果等をまと める	閉 講 式

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成25年7月29日（月）～平成25年7月31日（水）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	84	人	参加率	※
開催場所	仙台国際センター（宮城県仙台市）							

※ 全体受講定員 770 人、受講者数 743 人、参加率 96.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	64 76.2	19 22.6	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	84
	83	98.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の根幹に関わる重要な講義が多く、参考になった。4回の演習で、他県の先生方と意見交換できたことも意義深いものであった。 ・道徳教育改訂の経緯を再確認することで、全体計画や年間指導計画など実行力のあるものに改善する必要があると感じた。 ・教科化についての正しい捉え方がわかった。根拠となること、やるべきことを教えていただけたので、理解が深まった。 ・全校種混合での演習ということで、戸惑いもあったが、そのことが却って、道徳教育の連続性を確認することにつながった。 ・1日目の課題協議・演習の内容を受けて、どの講師の発表もそれと合致する、一貫性が感じられ、理解が深まった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1において、課題様式を受講生がより書きやすい内容に改めた。 ・演習1において、受講生がより課題を共有しやすい環境となるよう、班割方法を改めた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の課題様式の作成方法が不明瞭という意見があるため、さらに受講生に配慮した内容に改める。 ・小中学校部会の演習について、受講生にとってより実践的で理解を深める内容（指導助言者の模擬授業を聴講する方法から、受講生本人が指導案を作成する方法）に改める。 ・道徳の教科化に関する中教審の審議状況や、心のノート改訂版「わたしたちの道徳」の活用方策等について、行政説明や有識者による講義において、タイムリーな情報を提供していく。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度道徳教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック指導者研修）

日程表

7月29日（月）	9:30	10:00	10:40	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:20	17:00
		受付	開講式	オリエンテーション	行政説明	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	屋休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 初学官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の種類の発生から道徳教育の意義や役割について理解する	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について理解を深める

7月30日（火）	8:50	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
受付	事例発表・協議 「学校教育全体を通して行う道徳教育の実践と課題」 盛岡市立河北小学校 教諭 高橋 伸 気仙沼市立津谷小学校 教諭 谷内 幸絵 潟上市立天王南中学校 教諭 工藤 香苗 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を学ぶ	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の構築と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 東松島市立鳴瀬桜花小学校 教頭 石母田 裕 大和町立小野小学校 教頭 村田 富美子 加美町立宮崎中学校 教頭 菊池 晃子 宮城県北部教育事務所栗原地域事務所 次長 佐々木 利佳子 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	屋休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 東松島市立鳴瀬桜花小学校 教頭 石母田 裕 大和町立小野小学校 教頭 村田 富美子 加美町立宮崎中学校 教頭 菊池 晃子 宮城県北部教育事務所栗原地域事務所 次長 佐々木 利佳子 ◎目的：特別活動の種類の発生から道徳教育の意義や役割について理解する	休憩	発表・協議	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方に関する教育の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について理解を深める

7月31日（水）	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
受付	課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 京都市教育委員会 指導部長 柴原 弘志 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休憩	演習4 「道徳教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の活かし方について理解を深める	屋休み	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方に関する教育の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について理解を深める	

※日割等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成25年8月19日（月）～平成25年8月21日（水）					3日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	119	人	参加率	※
開催場所	大宮ソニックシティ（埼玉県さいたま市）							

※ 全体受講定員 770 人、受講者数 743 人、参加率 96.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	82	34	0	0	3	0	119
割合(%)	68.9	28.6	0.0	0.0	2.5	0.0	
	116						
	97.5						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・小中学校の道徳が中心となった内容もあったが、高校でも応用できる内容だった。小中からの学びが多かった。
- ・各県の推進教師等の方々と意見交換をしたり、指導法についての協議を重ね有意義な研修であった。
- ・初めて推進教師となり不安でいたが、学びが多くあり、講師の先生方にはすばらしい講義をしていただいた。
- ・日々、実践を積み重ねる先生方の話や資料は明日の自分の授業に即生かせるものだった。理論と実践がともなった研修だと思った。
- ・演習のテーマを更に絞っていくと深い話ができたとする。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・演習1において、課題様式を受講生がより書きやすい内容に改めた。
- ・演習1において、受講生がより課題を共有しやすい環境となるよう、班割方法を改めた。

次年度に向けて

- ・演習1の課題様式の作成方法が不明瞭という意見があるため、さらに受講生に配慮した内容に改める。
- ・小中学校部会の演習について、受講生にとってより実践的で理解を深める内容（指導助言者の模擬授業を聴講する方法から、受講生本人が指導案を作成する方法）に改める。
- ・道徳の教科化に関する中教審の審議状況や、心のノート改訂版「わたしたちの道徳」の活用方策等について、行政説明や有識者による講義において、タイムリーな情報を提供していく。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【関東・甲信越ブロック】

日程表

8月19日(月)	9:30	10:00	10:40	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:20	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	昼休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 國學院大學教授 元文部科学省初等中等教育局視学官 宮川 八岐	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	17:00
					◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める		◎目的：特別活動の種別を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について理解を深める	

8月20日(火)	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00		
受付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 宮代町立須賀小学校 教諭 中里 佳美 教諭 野村 純一 久喜市立菫浦中学校 校長 梓澤 恒夫	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の構築と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 ＜指導助言者＞ 越谷市立千間台小学校 校長 島方 勝弘 深谷市立深谷小学校 主幹教諭 本多 高士 久喜市立菫浦中学校 校長 梓澤 恒夫 久喜市教育委員会 指導主事兼教育部学務課主幹 堀内 俊吾	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）」とその評価」 ＜指導助言者＞ 越谷市立千間台小学校 校長 島方 勝弘 深谷市立深谷小学校 主幹教諭 本多 高士 久喜市立菫浦中学校 校長 梓澤 恒夫 久喜市教育委員会 指導主事兼教育部学務課主幹 堀内 俊吾	休憩	演習2 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 埼玉県立白岡高等学校 教諭 野口 真澄 教諭 早乙女 和宏	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 文京学院大学 教授 小泉 博明	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	17:00
	高等学校部会 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を共有する									

8月21日(水)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
受付	課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 東京学芸大学大学院教育学研究科 (教職大学院) 特命教授 福田 富美雄	休憩	演習4 「道徳教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼休み	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式		
	◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める		◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の活かし方について理解を深める		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる			

※日指等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成25年10月21日（月）～平成25年10月23日（水）			3日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	115	人	参加率	※
開催場所	ホテル ルブラ王山（愛知県名古屋市）							

※ 全体受講定員 770 人、受講者数 743 人、参加率 96.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	86	24	0	0	4	1	115
割合 (%)	75.4	21.1	0.0	0.0	3.5	0.9	
	110	96.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育、道徳の時間、心のノートなど、よくわからなかったところが、理解できた。 ・道徳の重要性、必要性について、根拠や実践事例などを交えながら、具体的に学ぶことができ、意義ある3日間であった。 ・3日間の研修の流れが、スムーズで一つひとつのことを理解・納得しながら次の研修へと進むことができた。講義、演習、協議のバランスも良かった。疑問も協議の場で、教えていただき、ありがたかった。 ・あらためて学習指導要領の趣旨を知ることができ、それを踏まえた上、実践していかねばならないと実感した。 ・協議の進行をしたが、どこに焦点を当てればよいか、わかりづらいことがあった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1において、課題様式を受講生がより書きやすい内容に改めた。 ・演習1において、受講生がより課題を共有しやすい環境となるよう、班割方法を改めた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の課題様式の作成方法が不明瞭という意見があるため、さらに受講生に配慮した内容に改める。 ・小中学校部会の演習について、受講生にとってより実践的で理解を深める内容（指導助言者の模擬授業を聴講する方法から、受講生本人が指導案を作成する方法）に改める。 ・道徳の教科化に関する中教審の審議状況や、心のノート改訂版「わたしたちの道徳」の活用方策等について、行政説明や有識者による講義において、タイムリーな情報を提供していく。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【東海・北陸ブロック】

日程表

	9:30	10:00	10:30	10:40	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:20	17:00
10月21日(月)		受付	開講式	オリエンテーション	行政説明	休憩	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	昼休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田 洋	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達の段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行
						◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。			◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
10月22日(火)	受付	小・中学校 事例発表・協議 「学校教育全体を通して行う道徳教育の実践と課題」 東郷町立音良小学校 教諭 香川 哲範 高田 由紀 稲沢市立明治中学校 教諭 香川 哲範	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり」(体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて) <指導助言者> 岐阜市立西郷小学校 校長 河合 宣昌 小牧市立小牧小学校 教頭 後藤 修 愛知県総合教育センター 研究指導主事 田中 基明 豊田市立末野原中学校 教頭 仲田 英成	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価」 <指導助言者> 岐阜市立西郷小学校 校長 河合 宣昌 小牧市立小牧小学校 教頭 後藤 修 愛知県総合教育センター 研究指導主事 田中 基明 豊田市立末野原中学校 教頭 仲田 英成	休憩	発表・協議
10月22日(火)	高等学校 高等学校 事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 新潟県立新潟南高等学校 豊浦分校 教頭 高橋 周之 新潟県立新潟商業高校 教諭 菅原 正文	休憩	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	昼休み	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	

	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00
10月23日(水)	受付	課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩	演習4 「道徳教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼休み	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式

※日割等について変更することがあります。

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（近畿ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成25年8月21日（水）～平成25年8月23日（金）					3日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	77	人	参加率	※
開催場所	ホテル ルビノ京都堀川（京都府京都市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 770 人、受講者数 743 人、参加率 96.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	59 76.6	15 19.5	0 0.0	0 0.0	3 3.9	0 0.0	77
	74	96.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領が施行されてから、どのような実践が行われているのか等の学びができて有意義だった。 ・参考になる取組、学校で即実践できそうなものも多く、文部科学省の先生方、講師の方々のお話もすばらしかった。 ・色々なグループ編成で、各校の実践などを情報交換でき、自校の現状を再認識し、課題にも気づくことができた。 ・高校における道徳教育について、今まで意識せず実践してきた事柄が道徳教育の観点で整理することができ、有意義だった。 ・講義と演習のバランスが良く、主体的に研修に参加することができた。普段聞けない、調査官、視学官の話も貴重だった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1において、課題様式を受講生がより書きやすい内容に改めた。 ・演習1において、受講生がより課題を共有しやすい環境となるよう、班割方法を改めた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の課題様式の作成方法が不明瞭という意見があるため、さらに受講生に配慮した内容に改める。 ・小中学校部会の演習について、受講生にとってより実践的で理解を深める内容（指導助言者の模擬授業を聴講する方法から、受講生本人が指導案を作成する方法）に改める。 ・道徳の教科化に関する中教審の審議状況や、心のノート改訂版「わたしたちの道徳」の活用方策等について、行政説明や有識者による講義において、タイムリーな情報を提供していく。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【近畿ブロック】

日 程 表

8月21日(水)	9:30	10:00	10:40	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:20	17:00
		受付	開講式	オリエンテーション	行政説明	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	昼休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 初学官 杉田 洋	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について理解を深める

8月22日(木)	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00
受付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 京都市立嵯峨野小学校 教諭 麻理恵 教諭 中江 玄己 京丹後市立培良中学校 教諭 田村 知史 教諭 沖田 未来 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を学ぶ	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の構築と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 ◎指導助言者> 大阪市立豊仁小学校 校長 服部 敬一 京丹後市立大宮第一小学校 教頭 川戸 久美子 京都市立音羽中学校 教頭 鈴木 克治 京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 小林 園	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 ◎指導助言者> 大阪市立豊仁小学校 校長 服部 敬一 京丹後市立大宮第一小学校 教頭 川戸 久美子 京都市立音羽中学校 教頭 鈴木 克治 京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 小林 園	休憩	発表・協議	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方に関する教育の充実に向けて」

8月23日(金)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
受付	課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 京都市教育委員会 指導部長 柴原 弘志 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休憩	演習4 「道徳教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼休み	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式		

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成25年8月26日（月）～平成25年8月28日（水）					3日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	109	人	参加率	※
開催場所	パークウエストンホテル（徳島県徳島市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 770 人、受講者数 743 人、参加率 96.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	74 67.9	31 28.4	1 0.9	0 0.0	3 2.8	0 0.0	109
	105	96.3					

2. 研修内容に関する主な意見

・県外の先生方と演習を行い、様々な取組事例をお聞きすることができ、参考になった。特に校内体制づくりについて聞いたのが有意義だった。
 ・総論、各論、他県の取組などじっくりと道徳教育に関して研修ができた。学習指導要領や解説書等の背景にある文科省の思い等も理解できた。
 ・小中、公立高の様子を知ることができた。私学として建学の精神とからめ、いかに道徳教育を推進していくか、参考になった。
 ・小グループに分かれての協議など人数も適切で、十分に交流出来た。講義もわかりやすかった。
 ・高校では道徳教育について十分に認識されていない部分もあったが、研修を通して、特別なものでなく、日頃の教育活動の中で道徳的視点を持ち、実践することが大切であるとわかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・演習1において、課題様式を受講生がより書きやすい内容に改めた。
- ・演習1において、受講生がより課題を共有しやすい環境となるよう、班割方法を改めた。

次年度に向けて

- ・演習1の課題様式の作成方法が不明瞭という意見があるため、さらに受講生に配慮した内容に改める。
- ・小中学校部会の演習について、受講生にとってより実践的で理解を深める内容（指導助言者の模擬授業を聴講する方法から、受講生本人が指導案を作成する方法）に改める。
- ・道徳の教科化に関する中教審の審議状況や、心のノート改訂版「わたしたちの道徳」の活用方策等について、行政説明や有識者による講義において、タイムリーな情報を提供していく。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【中国・四国ブロック】

日程表

8月26日(月)	9:30	10:00	10:40	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:20	17:00
		開講式	オリエンテーション	行政説明	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	昼休み	課題協議2 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	
		受付			◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める		◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について議論を深める	

8月27日(火)	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00	
		事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 津野町立中央小学校 教諭 森田 麻里 加西市立善防中学校 教諭 三村 尚彦	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 <指導助言者> 徳島市八万南小学校 教頭 池本 一彦 松茂町立松茂小学校 教諭 笹田 葉子 阿波市立土成中学校 教諭 三橋 和博 鳴門市第二中学校 教諭 福井 英子	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）」とその評価」 <指導助言者> 徳島市八万南小学校 教頭 池本 一彦 松茂町立松茂小学校 教諭 笹田 葉子 阿波市立土成中学校 教諭 三橋 和博 鳴門市第二中学校 教諭 福井 英子	休憩	発表・協議	
		高等学校協会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 元鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 兼松 儀郎	休憩	◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を学ぶ					
		高等学校協会							

8月28日(水)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
		課題協議3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田 洋	休憩	演習4 「道徳教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼休み	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式	
		◎目的：特別活動の特徴を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の活かし方について理解を深める		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる		

※日程等について変更することがあります

平成25年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【九州ブロック】

日程表

10月23日(水)	9:30	10:00	10:40	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:20	17:00
		受付	開講式	オリエンテーション	行政説明	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	昼休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 類学官 杉田 洋	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について理解を深める

10月24日(木)	9:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:50	16:00	17:00	
		事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 那覇市立城東小学校 教頭 松田 敦子 南城市立大里中学校 教諭 酒屋 毅	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 ◎指導助言者> 沖縄県立総合教育センター 研究主事 福嶺 盛久 東京学芸大学附属大泉小学校 教諭 和井内 良樹 うるま市立与勝中学校 校長 斉藤 美喜夫 文教大学教育学部 講師 山西 美	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）」とその評価」 ◎指導助言者> 沖縄県立総合教育センター 研究主事 福嶺 盛久 東京学芸大学附属大泉小学校 教諭 和井内 良樹 うるま市立与勝中学校 校長 斉藤 美喜夫 文教大学教育学部 講師 山西 美	休憩	発表・協議	
10月25日(金)	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	15:45	16:00	17:00	
		高等学校協会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ◎指導助言者> 兵庫教育大学大学院 増幸 教授 谷田 増幸	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 長崎県立西彼杵高等学校 教頭 松尾 宏之	昼休み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ◎指導助言者> 兵庫教育大学大学院 増幸 教授 谷田 増幸	休憩	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の名教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」

10月25日(金)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00
		課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休憩	演習4 「道徳教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼休み	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式

※日割等について変更することがあります

I 研修概要

研修名	平成25年度学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）					
担当グループ	教育課題研修 教育課題第一グループ					
研修目的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者 					
開催期日	平成25年11月18日（月）～平成25年11月21日（木）				日間	
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	57	人
参加率					※	
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 110 人、受講者数 130 人、参加率 118.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	48 84.2	9 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	57
	57	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 多くの分野について、活躍されている先生方のお話を直接いただけたことは何より、本研修会に参加した成果だと思う。多くの資料を活用しながら本県の推進の力になりたいと思う。 講義だけでなく、事例発表や演習がバランスよく盛り込まれた研修方法や充実した研修環境等により、研修目的がおおむね達成できたと感じている。講義資料をデータとして持ち帰りができることは大変ありがたく思う。今後最大限活用できるようにしたいと思う。 国の最新の情報をもとに、情報化の進め方についてご指導いただいたことが大変ありがたかった。また、iPadを使用して具体的に実感を持って研修できたことは、今後の整備につなげていきたい。 他県等の情報が聞けたり、研修の進め方、学び方など勤務地へもどった際、すぐに活用できる内容が多くあった。多く学んだことを、再度自分で整理し、分かりやすく学んだことを還元していく。 私の学校のように私学の教員もどんどん参加を促していただき、日本全体として、学校教育の情報化を推進していく必要を感じた。 iPadを使っただけのデータの共有や、活用は大変よかった。個人的に使ったこともなかったけれど、4日目には充分使えるようになった。これは学校のICT機器についても言えると思うので、率先して導入・利用していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講生の理解を深める為に「情報活用能力の育成」、「情報モラル」、「教科指導におけるICT活用」の順番を「教科指導におけるICT活用」、「情報活用能力の育成」、「情報モラル」の順番に変更した。 アンケート結果を踏まえ「教科指導におけるICT活用」をより充実させるために、講義時間を拡大した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 一日目午後の講義2「国内外における学校教育の情報化の取組」の廃止を検討し、もし、廃止する場合は、その空き時間を他の講義に充てることを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第1回） 日程表

第1日目	11月18日 (月)	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00	
		受付	開講式	オリエンテーション	<p>【座席表①】 講義1 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 水野 晴央</p> <p>◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。</p>	昼休み	<p>【座席表②】 講義2 「国内外における学校教育の情報化の取組」 講師 玉川大学教授 堀田 龍也</p> <p>◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、強弱を広く見比べて情報化推進の参考になるポイントを理解する。</p>	休憩	<p>【座席表③】 演習1 ＜教育委員会・学校別①＞ 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 島内 教員研修センター 主任指導主事</p> <p>◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。</p>	【座席表④】
					12:00	13:00	14:30	15:00	17:00	
第2日目	11月19日 (火)				12:00	13:00	14:45	15:00	17:00	
					昼休み	<p>【座席表①】 講義・事例発表・演習1 ＜教科別＞ 「教科指導におけるわかりやすい授業づくりのためのICT活用」 講師 富山大学准教授 高橋 純 岡山県総合教育センター 指導主事 片山 淳一 山形県米沢市立第二中学校教諭 金 陸子</p> <p>◎目的：各教科等の学習目標を達成するために、ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を検討する。</p>	休憩	<p>【座席表②】 講義・事例発表 ＜学校種別①＞ 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学教授 新地 辰朗 鹿児島市立学習情報センター 指導主事 木田 博 北海道教育庁教育政策課主査 藤井 一志</p> <p>◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。</p>	【座席表④】	
					12:00	13:30	14:30	15:15	17:00	
第3日目	11月20日 (水)				12:30	13:30	14:30	15:15	17:00	
					昼休み	<p>【座席表⑤】 講義・事例発表・演習2 ＜学校種別②＞ 「情報教育による情報活用能力育成のための指導」 講師 東北学院大学准教授 稲垣 忠 宮城県大崎市立清滝小学校教頭 遠藤 麻由美</p> <p>◎目的：情報教育によって児童生徒に身につけさせる「情報活用能力」を理解し、情報活用能力を身につけさせるためにどのような学習活動を行えばいいのかについて検討する。</p>	昼休み	<p>【座席表③】 講義・事例発表・演習3 ＜学校種別③＞ 「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」 講師 和歌山大学准教授 豊田 充崇 京都府亀岡市立南つじヶ丘小学校教諭 広瀬 一弥</p> <p>◎目的：情報モラルに関する指導のあり方を理解し、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。</p>	【座席表⑥】	
					12:00	13:00	14:30	15:15	17:00	
第4日目	11月21日 (木)				12:00	13:00	14:30	15:15	17:00	
					全体発表・協議	<p>【座席表⑦】 課題協議 「研修講師となるために」 島内 教員研修センター 指導主事</p> <p>◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのためのICT活用の戦略について発表する。</p>	閉講式			

I 研修概要

研修名	平成25年度学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者 							
開催期日	平成26年1月27日（月）～平成26年1月30日（木）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	73	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 110 人、受講者数 130 人、参加率 118.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	65	8	0	0	0	0	73
割合 (%)	89.0	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	73	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修で得たことを活かし、本県の教育の情報化の推進に取り組んでいきたいと思う。 ・講義、演習、事例発表のバランスが良く、今後の研修運営に役立つ内容であった。タブレット端末を使つての、ペーパーレス研修は学校のICT活用を促進していくうえでもヒントになるものが多くあった。 ・4日間の研修において、学校教育の情報化について、国の動向や理論的な内容、事例、演習等多くのことを学ぶことができた。本研修で学んだことは、今後研修を企画したり、研修等で指導助言の際に大変参考になった。タブレットPCを使用しての研修についても新しい研修の方法として参考にさせていただきたいと思う。大変勉強になった。 ・これまで進めてきたことが再確認できたとともに、落ちている部分に気づくことができたので良かった。「教育の情報化」について全てを網羅した内容で新たな視座に立つことができた。今後の取り組みへの期待が膨らむと同時に責任を感じている。地域、学校に持ち帰り、少しでも地域の情報化に貢献できるように取り組んでいきたい。 ・研修前に高校国語は人数が少ないので社会科と一緒に、と連絡をいただいたが、かえっていろいろな校種、いろいろな教科の方々とワークショップができて、大変有意義であった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生の理解を深める為に「情報活用能力の育成」、「情報モラル」、「教科指導におけるICT活用」の順番を「教科指導におけるICT活用」、「情報活用能力の育成」、「情報モラル」の順番に変更した。 ・アンケート結果を踏まえ「教科指導におけるICT活用」をより充実させるために、講義時間を拡大した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日目午後の講義2「国内外における学校教育の情報化の取組」の廃止を検討し、もし、廃止する場合は、その空き時間を他の講義に充てることを検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）
日程表

第1日目 1月27日 (月)	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	【座席表①】 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 水野 晴央 ◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。	【座席表②】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 講師 玉川大学教授 堀田 龍也 ◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広げるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。	休憩	【座席表③】 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 鳥内 教員研修センター 主任指導主事 ◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。	【座席表④】
第2日目 1月28日 (火)	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00		
連絡事項	【座席表⑤】 「情報教育による情報活用能力育成のための指導」 講師 富山大学准教授 高橋 純 岡山県総合教育センター 指導主事 片山 淳一 山形県米沢市立第二中学校 教諭 金 陸子 ◎目的：各教科等の学習目標を達成するために、ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を検討する。	【座席表⑥】 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学教授 新地 辰朗 事例発表 熊本県教育庁教育政策課指導主事 山本 朋弘 和歌山県教育庁総務課政策推進員 藤田 勝範 ◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。	【座席表⑦】 「情報モラル教育と地域・家庭との連携」 講師 和歌山大学准教授 豊田 充崇 京都府亀岡市立南つじヶ丘小学校 教諭 広瀬 一弥 ◎目的：情報モラルに関する指導のあり方を理解し、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。	【座席表⑧】 「研修講師となるために」 鳥内 教員研修センター 主任指導主事 ◎目的：学校教育の情報化に関する研修講師となるための力量と意欲を高める。	【座席表⑨】	【座席表⑩】		
第3日目 1月29日 (水)	9:00	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00		
連絡事項	【座席表⑪】 「情報活用能力を身につけさせるための学習活動を行えばいいのか」について検討する。	【座席表⑫】 「情報活用能力を身につけさせるためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表 東京都野市立平山小学校長 五十嵐 俊子 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等の一丸となつて取り組む体制をどう構築するか戦略を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	【座席表⑬】 「情報活用能力を身につけさせるためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表 東京都野市立平山小学校長 五十嵐 俊子 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等の一丸となつて取り組む体制をどう構築するか戦略を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	【座席表⑭】 「情報活用能力を身につけさせるためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表 東京都野市立平山小学校長 五十嵐 俊子 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等の一丸となつて取り組む体制をどう構築するか戦略を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	【座席表⑮】	【座席表⑯】	【座席表⑰】	【座席表⑱】
第4日目 1月30日 (木)	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00	15:15	17:00	
連絡事項	【座席表⑲】 「情報活用能力を身につけさせるためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表 東京都野市立平山小学校長 五十嵐 俊子 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等の一丸となつて取り組む体制をどう構築するか戦略を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	【座席表⑳】 「情報活用能力を身につけさせるためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表 東京都野市立平山小学校長 五十嵐 俊子 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等の一丸となつて取り組む体制をどう構築するか戦略を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	【座席表㉑】 「情報活用能力を身につけさせるためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表 東京都野市立平山小学校長 五十嵐 俊子 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等の一丸となつて取り組む体制をどう構築するか戦略を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	【座席表㉒】 「情報活用能力を身につけさせるためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表 東京都野市立平山小学校長 五十嵐 俊子 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等の一丸となつて取り組む体制をどう構築するか戦略を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。	【座席表㉓】	【座席表㉔】	【座席表㉕】	【座席表㉖】

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【管理者用コース】							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者。							
開催期日	平25年6月11日（火）～平成25年6月12日（水）				2日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	37	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 110 人、受講者数 107 人、参加率 97.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	25 67.6	12 32.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	37
	37 100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国の先生方と意見交換できたことは、今後の財産となった。自校以外でも、別の形で、苦労されていることが分かり、もう一度、子どもの実態、地域の実態をよく見直して実践に生かしていきたいと思う。 ・外国人児童生徒教育は、多文化共生の教育の面からのアプローチも大切であることを学んだ。特別視することなく、学校全体での取組が必要ということが分かった。 ・文化間の移動をする子どもたちには学びの連続性を保証することの大切さを学んだ。また、日本語教育のコース設計を演習をとおして学んだ。現場に戻り、活用していきたいと思う。 ・他の自治体の取組を聞かせていただき、今後の参考にさせていただき、キーワードがいくつかあった。子どもたちの背景を知った上での指導ができるように、学校・支援者ときちんと話し合っていく場の設定を考えていきたいと思う。 ・他の自治体の実情やDLAの基本理念や構造等について知ることができ、今後の活動等に生かしていくことができると思う。管理者用コースなので、日程も短く仕方がないことかもしれないが、DLAの演習等もう少し詳しく知っておきたいことがあった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本語能力測定方法の理念と構成」の講義時間を設け、理念や構成について日本語指導にどう生かすかを学ばせた。 ・班別演習1を初日の午前に設け、また、管理者コースの班編制を全日程同じにする等、班内の円滑なコミュニケーションを促した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における日本語指導の現状と課題に応じた研修内容を加味したカリキュラムを検討する。 ・「特別の教育課程」による日本語指導についての研修内容を加える。 ・日本語指導の意義や必要性、マネジメントについての講義を行った後、それを受けた事例発表、演習、講評の順で行うカリキュラムを編成する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目		9:30	10:00	10:30	11:10	11:20	12:20	13:20	14:30	14:40	15:50	16:00	17:00
6月11日 (火)	向コース共通	受 付	開 講 式	施策説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 課長補佐 河村 裕美	休 憩	班別演習1 「情報交換による課題の共有」 ◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目からの研修に備える。	昼 食	課題協議1 「外国人児童生徒等の現状と課題」 東京学芸大学 教授 佐藤 都衛	休 憩	課題協議2 「学校における日本語教育プログラム1」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	休 憩	課題協議3 「日本語能力測定方法の理念と構成」 トロント大学 名誉教授 中島 和子	◎目的：理念や構成について知り、日本語指導にどう生かすか学ぶ。

第2日目		8:30	8:40	11:00	11:10	12:10	13:10	15:20	15:35	16:35	16:50
6月12日 (水)	管理者用コース	連 絡 事 項	事例協議1 「外国人児童生徒教育の先進的な取組～指導・支援体制における連携と協働～」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 徳島県教育委員会 指導主事 田村 康治 三重県鈴鹿市立椿小学校 校長 伊藤 嘉昭 神奈川県川崎市総合教育センター 指導主事 藤中 大洋 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れについて、先進的な地域の取組の理解を深める。	休 憩	班別演習2 「外国人児童生徒等受入れ体制1」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	昼 食	班別演習3 「学校における日本語教育プログラム2」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	休 憩	課題協議4 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 愛知県豊橋市立鷹丘小学校 校長 池崎 勇 ◎目的：管理者として外国人児童生徒等を受入れる際の留意事項等について学ぶ。	閉 講 式	
											日本語指導者用コース
	日本語指導者用コース	班別演習5 「J・S・Lカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 東京学芸大学 教授 齋藤ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教頭 佐々木 稔 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、J・S・Lカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。	班別演習6 「J・S・Lカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 東京学芸大学 教授 齋藤ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教頭 佐々木 稔 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：新たにJ・S・Lカリキュラムに則った指導案を作成し、J・S・Lカリキュラムに則った指導法を体得する。								
	日本語初期指導プログラム	課題協議6 「日本語初期指導の留意点」 ～教材と指導法の工夫～ 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 ◎目的：来日直後の外国人児童生徒等に日本語指導を行う際の留意点や、各習得段階における実践的な手法等について理解を深める。	班別演習5 「日本語初期指導の実践」 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 ◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成することにより、具体的な日本語初期指導について理解を得る。								

第3日目		8:30	8:40	10:00	10:10	11:50	12:50	17:00				
6月13日 (木)	日本語初期指導プログラム	連 絡 事 項	課題協議6 「日本語初期指導の留意点」 ～教材と指導法の工夫～ 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 ◎目的：来日直後の外国人児童生徒等に日本語指導を行う際の留意点や、各習得段階における実践的な手法等について理解を深める。	休 憩	班別演習5 「日本語初期指導の実践」 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 ◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成することにより、具体的な日本語初期指導について理解を得る。	昼 食	教科指導実践プログラム	班別演習6 「J・S・Lカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 東京学芸大学 教授 齋藤ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教頭 佐々木 稔 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、J・S・Lカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。	休 憩	班別演習7 「J・S・Lカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 東京学芸大学 教授 齋藤ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教頭 佐々木 稔 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：新たにJ・S・Lカリキュラムに則った指導案を作成し、J・S・Lカリキュラムに則った指導法を体得する。	休 憩	全体協議 「自主教材についての情報交換」 ◎目的：授業で使用している自作教材を紹介し合うことで、教材の在り方や工夫について考える。

第4日目		8:30	8:40	12:00	13:00	14:45	15:00
6月14日 (金)	向プログラム共通	連 絡 事 項	班別演習8 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：班別演習での成果をポスターセッション形式で発表し合うことにより、初期指導の授業及びJ・S・Lカリキュラムに則った指導法について理解を深める。	休 憩	課題協議7 「研修講師となるために」 東京学芸大学 教授 佐藤 都衛	昼 食	閉 講 式

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ②外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用し、外国人児童生徒等の教育の中心的な役割を担うことができる者。							
開催期日	平成25年6月11日（火）～平成25年6月14日（金）					4日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	70	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 110 人、受講者数 107 人、参加率 97.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	53 75.7	16 22.9	1 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	70
	69	98.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義に偏ることなく、演習を通じて実践的な指導力に着目し、研修を深めることができた。研修成果の伝達についても、研修会の企画・運営の段階から参加し効果的に実施したい。 ・全国で対象児童のいる学校、学級は全体の中では多くないものの、指導に悩む先生そして、今苦しんでいる子どもたちによりよい教育を進める力をつける研修としてたいへん有意義なものになった。 ・日本語指導担当になって3年目であるが、過去2年間はばたばたと日々を過ごすだけで、理論が十分でなかった。日本語能力測定法やJSLカリキュラムなど現場ですぐに活用できるものを学ぶことができた。この学んだことを地域や学校の先生方に伝え、子どものために生かしていきたい。 ・「4日間、大変だな」という重い気持ちで参加したが、参加して良かった。今までこんなに知識不足で子どもたちに接していたのかと思うと申しわけなく、明日から学んだことを生かして授業づくりをしていきたいと思った。 ・全国の先生方と情報交換できたことは、とても良かった。ただ高校向けではなかったため、自分が持ってきた学校での課題や悩みを解決できなかった。また自分のやっていることを発揮できず、受身的になってしまったのは残念だった。次年度は工夫されることを期待する。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本語能力測定方法の理念と構成」の講義時間を設け、理念や構成について日本語指導にどう生かすかを学ばせた。 ・班別演習1を初日の午前設け、班内の円滑なコミュニケーションを促した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における日本語指導の現状と課題に応じた研修内容を加味したカリキュラムを検討する。 ・演習の時間を十分確保するために、講義の内容及び時間配分を見直す。 ・「特別の教育課程」による日本語指導についての研修内容を加える。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目	9:30	10:00	10:30	11:10	11:20	12:20	13:20	14:30	14:40	15:50	16:00	17:00
6月11日 (火)	向コース共通											
受 付	開 講 式	施 策 説 明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 課長 補佐 河村 裕美	休 憩	班 別 演 習 1 「情報交換による課題の共有」 ◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目からの研修に備える。	休 憩	昼 食	課 題 協 議 1 「外国人児童生徒等の現状と課題」 東京学芸大学 教授 佐藤 都衛	休 憩	課 題 協 議 2 「学校における日本語教育プログラム1」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	休 憩	課 題 協 議 3 「日本語能力測定方法の理念と構成」 トロント大学 名誉教授 中島 和子	

第2日目	8:30	8:40	11:00	11:10	12:10	13:10	15:20	15:35	16:35	16:50	
6月12日 (水)	管理者用コース										
連 絡 事 項	事例協議1 「外国人児童生徒教育の先進的な取組～指導・支援体制における連携と協働～」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 徳島県教育委員会 指導主事 田村 康治 三重県鈴鹿市立椿小学校 校長 伊藤 嘉昭 神奈川県川崎市総合教育センター 指導主事 藤中 大洋 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れについて、先進的な地域の取組の理解を深める。	休 憩	班 別 演 習 2 「外国人児童生徒等受入体制1」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	休 憩	昼 食	班 別 演 習 3 「学校における日本語教育プログラム2」 愛知淑徳大学・愛知教育大学 非常勤講師 松本 一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	休 憩	課 題 協 議 4 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 愛知県豊橋市立鷹丘小学校 校長 池崎 勇 ◎目的：管理者として外国人児童生徒等を受入れる際の留意事項等について学ぶ。	休 憩	閉 講 式	
日本語指導者用コース											
連 絡 事 項	班 別 演 習 4 「日本語能力測定方法の演習」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎 トロント大学 名誉教授 中島 和子 東京外国語大学 教授 小林 幸江 東京外国語大学 准教授 菅長 理恵 大阪大学大学院 特別研究員 櫻井 千穂 ◎目的：開発された日本語能力測定方法について、実際に体験しながら理解を深める。	休 憩	課 題 協 議 5 「学校における日本語教育プログラム2」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ ◎目的：J・S・Lカリキュラムの考え方、使い方について理解を深める。	休 憩	昼 食	班 別 演 習 7 「J・S・Lカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 東京学芸大学 教授 齋藤ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教頭 佐々木 稔 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：新たにJ・S・Lカリキュラムに則った指導案を作成し、J・S・Lカリキュラムに則った指導法を体得する。	休 憩	事例協議2 「日本語指導の実践事例」 山形県教育委員会 外国人児童生徒支援課 長 藤 節子 啓明学園 多言語児童支援センター 島田 かおる 神奈川県立相模原丘陵高等学校 総括教諭 高橋 清樹 ◎目的：初期指導やJ・S・Lカリキュラムに則った日本語指導の実践事例から、効果的な日本語指導の授業の在り方について知識を得る。	休 憩	全 体 協 議 「自主教材についての情報交換」 ◎目的：授業で使用している自作教材を紹介し合うことで、教材の在り方や工夫について考える。	

6月13日 (木)	8:30	8:40	10:00	10:10	11:50	12:50	17:00				
連 絡 事 項	日本語初期指導プログラム 事例協議6 「日本語初期指導の留意点」 ～教材と指導法の工夫～ 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 ◎目的：来日直後の外国人児童生徒等に日本語指導を行う際の留意点や、各習得段階における実践的な手法等について理解を深める。		休 憩	班 別 演 習 5 「日本語初期指導の実践」 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 ◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成することにより、具体的な日本語初期指導について理解を得る。	休 憩	昼 食	教科指導実践プログラム 班 別 演 習 6 「J・S・Lカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 東京学芸大学 教授 齋藤ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教頭 佐々木 稔 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、J・S・Lカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。	休 憩	班 別 演 習 7 「J・S・Lカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 東京学芸大学 教授 齋藤ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教頭 佐々木 稔 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：新たにJ・S・Lカリキュラムに則った指導案を作成し、J・S・Lカリキュラムに則った指導法を体得する。	休 憩	17:00

第4日目	8:30	8:40	12:00	13:00	14:45	15:00
6月14日 (金)	向プログラム共通					
連 絡 事 項	班 別 演 習 8 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 波多野ファミリスクール 学監 大蔵 守久 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 京都市教育委員会 指導主事 大菅佐紀子 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 群馬県大泉町立北小学校 教諭 市川 昭彦 神奈川県横浜市立いちろう小学校 教諭 菊池 聡 ◎目的：班別演習での成果をポスターセッション形式で発表し合うことにより、初期指導の授業及びJ・S・Lカリキュラムに則った指導法について理解を深める。		休 憩	昼 食	課 題 協 議 7 「研修講師となるために」 東京学芸大学 教授 佐藤 都衛	閉 講 式

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ープ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	生徒指導は学校経営・運営を支える基盤となるものであり、児童生徒のよりよい成長を指導・援助する学校教育に不可欠な機能である。多くの生徒指導上の課題が表出する中、その対応には、学校をあげて児童生徒に真に向き合う組織的・体系的な取組が重要である。このため、生徒指導の理論や考え方、未然防止・問題対応の際の指導方法、マネジメント等について習得し、生徒指導上の今日的諸課題に対応するとともに、生徒指導を核とした学校運営の改善を実践する指導者を養成する。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成25年 6月24日（月）～平成25年 7月 9日（火）				16日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	121	人	参加率	110.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	116 95.9	5 4.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	121
	121	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・多岐に渡った生徒指導関連テーマの講義・演習は、とても勉強になった。 ・それぞれの分野のエキスパートの先生方の講義、事例研究、成果物作成の3本柱のバランスがとても良かった。 ・年度前半に受講できたので、今年度に使えて良い。 ・講義も良かったが、実習や事例研究が良かった。 ・有名な講師陣の講義も良かったが、全国から集まる先生方との協議・語り合いが大きな自信と違った意味での知見となった。ある種の「絆」のようなものも芽生え、充実した研修だった。 ・事例研究（班・グループ討議）にもっと時間を割いてもらえればと思うこともあった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域のリーダーとして活躍する指導者養成の性格を強めるために、「生徒指導の機能とそのはたらき」を「学校の生徒指導力を高めるために」に、「総括講義」を「生徒指導のリーダーとなるために」に改め、内容の充実を図った。 ・班やグループでの協議（「課題討議」「事例協議」）から学ぶことが多いという声を踏まえ、朝と夕方に行う「課題討議」のテーマを工夫するとともに、「課題討議」と演習「研修成果の発表」の関連づけを強め、研修全体を通して生徒指導について考えを深められるよう改善を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の生徒指導体制構築を目的とした「生徒指導のための体制づくりと人材育成」を新設した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成25年度生徒指導指導者養成研修日程表

平成25年6月24日(月)～7月9日(火)

独立行政法人教員研修センター

< 日程と講座内容 >

期 日(曜)	8:30	9:15	9:30	12:00	13:15	15:45	16:00	17:00
1	6月24日(月)		受付 (9:30～9:50)	オリエンテーション① (10:00～11:45) 教員研修センター	開講式 (13:00～13:20)	これからの生徒指導における重要課題(13:30～15:00) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長	特別講義(15:15～16:45) 神戸製鋼ラクビー部ゼネラルマネージャー兼総監督 平尾誠二	
2	6月25日(火)	オリエンテーション②	学校の生徒指導力を高めるために 文教大学教授 松田素行					班別協議①
3	6月26日(水)	事例協議① (グループ)	教育課程と生徒指導 文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導調査官 城戸 茂	望ましい学級集団づくり 広島大学大学院教授 栗原慎二		課題討議① (班)		
4	6月27日(木)	事例協議② (グループ)	心の教育と生徒指導 國學院大學教授 宮川八岐	特別支援の理解と生徒指導 FR教育臨床研究所長 花輪敏男		課題討議② (班またはグループ)		
5	6月28日(金)	事例協議③ (グループ)	不登校の予防と対応 鹿児島大学教授 大坪治彦	いじめの予防と対応 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇		課題討議③ (班またはグループ)		
6	6月29日(土)							
7	6月30日(日)							
8	7月1日(月)	オリエンテーション③	生徒指導と危機管理 高崎経済大学講師 飯野真幸	自殺予防に向けた取組 筑波大学医学医療系教授 高橋祥友		課題討議④ (班またはグループ)		
9	7月2日(火)	事例協議④ (グループ)	生徒指導事例研究(1)	生徒指導事例研究(2)		総括		
			1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 愛媛大学教授 平松義樹 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 京都教育大学大学院教授 桶谷 守 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇					
10	7月3日(水)	事例協議⑤ (グループ)	生徒指導事例研究(3)	生徒指導事例研究(4)		総括		
			1班(小) 愛媛大学教授 平松義樹 2班(中) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 3班(中) 京都教育大学大学院教授 桶谷 守 4班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 5班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇 6班(高) 文教大学教授 柳生和男					
11	7月4日(木)	課題討議⑤ (班またはグループ)	児童虐待防止に向けた取組 大正大学教授 玉井邦夫	選 択	不登校児童生徒の指導と課題 開善塾教育相談研究所長 金澤純三 性・薬物に関わる非行の予防と対応 京都大学准教授 木原雅子		課題討議⑥ (班またはグループ)	
12	7月5日(金)	課題討議⑦ (班)	生徒指導と関係法規 日本女子大学教授 坂田 仰	情報モラル教育の充実 NPO青少年メディア研究協会副理事長 下田太一		課題討議⑧ (班)		
13	7月6日(土)							
14	7月7日(日)							
15	7月8日(月)	オリエンテーション④	研修成果の発表・指導講評 文教大学教授 松田素行					班別協議② (振り返り)
16	7月9日(火)	班別協議③ (8:30～9:00)	生徒指導のリーダーとなるために ～生徒指導を核とした学校マネジメントの改革～(9:15～11:45) 文教大学教授 柳生和男		閉講式 (12:00～12:20)			

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を習得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者（人権教育担当者を含む） 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者）							
開 催 期 日	平成25年7月10日（水）～平成25年7月12日（金）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	141	人	参加率	128.2%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	116	23	2	0	0	0	141
割合 (%)	82.3	16.3	1.4	0.0	0.0	0.0	
	139	98.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・初日の講義では、活動を授業の中に位置づけることの意義を、演習を通して、深く考えることができた。知性・感性・諸機能をフルに働かせることで、自己発見につながる。自己の課題が見えた者は、セルフチェンジができる。自己を変えられることができる者は社会を変えることができる、という話にとっても感動した。 ・観念的なもの（優しさ、思いやり等）だけでは人権教育は進まない。具体的に教えられるあらゆる権利の集合体が、人権であることを認識し、誰もが絶対必要不可欠なものを正しく伝えることを進めていきたい。演習での手法は、とてもわかりやすく、研修で応用したい。 ・各地域、各学校の実態に応じた取組についてよく分かった。またグループの先生方が気にかけている課題についても知ることができ演習に向けての課題を明らかにすることができた。 ・グループ演習は、班員と協力して楽しく成果物を作成することができた。校内の人権教育推進体制が整えば、学校全体で取り組むことにつながり、それは、教師の資質の向上、子どもの人権感覚を高めることになるかと改めて実感した。 ・人権教育を進めるためには、学習者（生徒）が主体となるよう、教師がファシリテーターに徹することの大切さがよくわかった。知的理解と人権感覚の育成がどちらも同時に育てていかなければいけないのかがわかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日の流れを講義・課題協議・演習から行政説明につなぐように変更を行った。 ・最終日に研修全体を振り返り、研修で何を学んだのか受講者同士で共有する時間を設定した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「研修講師となるために」の講師に初日から、研修に参加して頂くようにする。 ・二日目の演習課題について、記述内容の見直しを行う。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者						
開催期日	平成25年6月17日（月）～平成25年 6月21日（金）				5日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	1人	受講者数	126	参加率	※
開催場所	教員研修センター						

※ 全体受講定員 220人、受講者数 262人、参加率 119.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	108	18	0	0	0	0	126
割合 (%)	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	126						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・様々な視点から専門の講師の方にお話しいただき、新たな気づきがたくさんあった、今回の研修を踏まえて、今後にかاشていきたいと思う。</p> <p>・凝縮された5日間、とても有意義で勉強になった。順序立てて、計画された講義や演習のプログラム、最新の情報、そして、調査官をはじめ講師の先生方や先進の実践をされている学校の生の声が聞けたことが大きな財産になった。</p> <p>・発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための手法（キャリア教育年間計画の立て方、縦と横の連携）について理解することができた。</p> <p>・専門的な講義を集中して受けることができ有意義であった。他県の多くの事例が紹介され参考になった。キャリア教育の課題協議では、他県、市町村も同じような悩みがあることがわかった。指導計画の評価改善では、具体例の使用しての演習でわかりやすくなった。</p> <p>・キャリア教育の重要なポイントがしっかりと理解できたとともに、県に戻って是非キャリア教育の推進の中心になってがんばってみたいという思いがわいてきた。今日学ばせていただいたことを、県内の市町の学校に伝えていきたいと思う。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生が5日間の研修全体の流れをきちんと理解した上で研修に臨み、理解に深まりが持てるよう、初日開始を30分早め研修全体の流れ（各コマの目的等）を受講生に改めて説明する時間を確保した。 ・経済産業省や厚生労働省でのキャリア教育の進め方についても知見を深められるよう講話内容に盛り込んだ。 ・「個別な支援・指導の在り方」では通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒への対応についての内容を盛り込んだ。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西ブロック開催を見直し全国を対象として、教員研修センター（つくば市）で開催する。 ・経営コース受講者を対象として実施していた「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」の事例発表を全受講者を対象に実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 キャリア教育指導者養成研修

第1日目

6月17日 (月)	9:30	10:00	11:15	11:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	開講式	課題協議 「キャリア教育の現状と本研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	休憩	11:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
					昼休み	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 国立大学法人東北大学名誉教授 菊池 武剌	休憩		
						事例発表 小学校：青森県むつ市立第二田名部小学校 教諭 西川 正之 中学校：岐阜県海津市立平田中学校 教諭 伊藤 諭一郎 高等学校：宮城県仙台第二高等学校 教諭 名倉 洋			【第二研修棟2F】 座席：②学校種別（1）（全）

第2日目

6月18日 (火)	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2～校種間連携の方策～」	10:30	10:45	12:15	13:15	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
	【小中連携】 講師 青森県西北教育事務所教育課 指導主事 工藤 圭介 事例発表 長野県飯田市立丸山小学校 教務主任 中原 秀樹			課題協議 「社会と協働して進めるキャリア教育」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼品質保証部長 清川 卓二	昼休み	休憩	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3～地域社会と学校の連携推進のために～」 座席：④⑤⑥学校種別（1）	休憩		
	【中高連携】 講師 国立大学法人お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 特任准教授 望月 由起 事例発表 青森県南部郡町立名川中学校 教諭 古里 直久									【第二研修棟1F】 講師 久留米市教育センター 指導主事 四ヶ所 清隆 事例発表 京都府綾部市立上林小学校 教頭 上柿 直人
										【食堂棟レセプションホール】 講師 国立大学法人上越教育大学 准教授 白木 みどり 事例発表 埼玉県越谷市立大袋中学校 主幹教諭 柿沢 英和
										【第二研修棟2F】 講師 中央大学文学部 教授 古賀 正義 事例発表 新潟県立高田高等学校 教頭 斎京 四郎

第5日目

経営コース		両コース共通	
9:00	10:30	12:45	15:15
6月21日 (金)	<p>10:30 休憩</p> <p>「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」</p> <p>文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 【研修棟 1F101 研修室】 座席：⑧学校種別 (継コース)</p>	<p>11:45 休み</p>	<p>12:45 課題協議 「研修講師となるために」</p> <p>文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子</p>
	<p>9:00 事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」</p> <p>講師 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 【第二研修棟 2F】 座席：⑨学校種別 (継コース)</p>	<p>10:30 10:45 休憩</p>	<p>15:15 閉講式</p> <p>【第二研修棟 2F】 座席：①都道府県別</p>

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者							
開 催 期 日	平成25年8月5日（月）～平成25年8月9日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	136	人	参加率	※
開 催 場 所	TKP心斎橋カンファレンスセンター（大阪市中央区）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 262 人、参加率 119.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	107 79.3	28 20.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.7	136
	135	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育について実践的に学ぶことができ、また各先生方とも交流を広げることができ、今後のキャリア教育の推進を行う上でこれ以上有意義な研修はないと思う。今回の研修内容を現場で活かしていきたい。 ・他府県の先生たちとのネットワークが広められたこと、また共通のテーマを話し合ったり、作成することで互いの課題や悩みを共有できたことはこのような研修を設定していただいているおかげであると思う。 ・研修内容及びその指導に当たる講師も大変充実しており、キャリア教育に係る研修を深めることができた。会場への交通アクセスも良く、環境も大変良かった。 ・講義と演習がうまく構成されていて、良かったです。全体演習と年間計画がじっくりと考えられていて、職場で実践したいと思った。もう少し、予習をして、自校のとり組みを紹介できれば良かった。 ・なんとなく感じていた自校の課題が明確になった。 ・今年度より県の推進事業の委託を市が受け、どのように進めたらよいか課題であったが、今回の研修により、たくさんヒントを得ることができた。特に他県の先生方との情報交換、先進事例等は役に立った。今後、キャリア教育の重要性を伝えるための計画を考え、市全体に広げられるよう努めたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生が5日間の研修全体の流れをきちんと理解した上で研修に臨み、理解に深まりが持てるよう、初日開始を30分早め研修全体の流れ（各コマの目的等）を受講生に改めて説明する時間を確保した。 ・経済産業省や厚生労働省でのキャリア教育の進め方についても知見を深められるよう講話内容に盛り込んだ。 ・「個別な支援・指導の在り方」では通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒への対応についての内容を盛り込んだ。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西ブロック開催を見直し全国を対象として、教員研修センター（つくば市）で開催する。 ・経営コース受講者を対象として実施していた「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」の事例発表を全受講者を対象に実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 キャリア教育指導者養成研修 西部ブロック

第1日目

	9:30	10:00	11:15	11:30	12:30	13:30	15:15	15:30	17:00
8月5日 (月)	開講式	課題協議 「キャリア教育の現状と本研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	休憩	休憩	休み	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1～発達段階に 応じたキャリア教育の在り方～」 講師 国立大学法人東北大学名誉教授 菊池 武烈	休憩	事例発表 小学校：鳥根県浜田市立雲雀丘小学校 教頭 岡田 憲明 中学校：滋賀県甲賀市立土山中学校 教諭 甲津 一彦 高等学校：長崎県創成館高等学校 教諭 清原 正子	【ホール7A】 座席：②学校種別(1)
			課題協議	課題協議					

第2日目

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
8月6日 (火)	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて 2～校種間連携の方策～」 【小中連携】 講師 大阪府教育委員会事務局人権教育企画課 同和教育グループ 竹中 重雄 事例発表 広島県福山市立柳中学校 校長 海野 隆博 【中高連携】 講師 国立大学法人お茶の水女子大学学生支援センター 准教授 望月 由起 事例発表 山梨県立甲府昭和高等学校 教諭 丸山 淳	休み	休憩	休憩	休み	課題協議 「社会と協働して進める キャリア教育」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役 兼 品質保証部長 清川 卓二	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化 に向けて3～地域社会と学校の連携推進のために～」 【小学校部会】 講師 久留米市教育センター 指導主事 四ヶ所 清隆 事例発表 山口県田布施町立麻郷小学校 校長 藤山 一夫 【中学校部会】 講師 品川区立荏原第六中学校 校長 佐藤 勝 事例発表 滋賀県長浜市立鏡岡中学校 教諭 大谷 俊朗 【高等学校部会】 講師 中央大学文学部 教授 古賀 正義 事例発表 京都府立東陵高等学校 教諭 西村 大輔	休憩	【ホール7A】 座席：③学校種混合	
			課題協議	課題協議						

第3日目

8月7日 (水)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
	課題協議 「キャリアアカウンセンシングの基 盤としてのコミュニケーション スキルの向上」	10:30	10:45	12:00	13:00	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
	高知県心の教育センター 指導主事 今西 一仁	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」	昼 休 み	休息						
	【ホール7A】 座席：⑦学校種別(2)	埼玉県富士見市立勝瀬中学校 教頭 堀川 博基								【ホール7A】 座席：⑦学校種別(2)

第4日目

8月8日 (木)	9:00	10:30	10:45	11:50	12:50	14:45	15:00	17:00		
	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展 開方策」	10:30	10:45	11:50	12:50	14:45	15:00	17:00		
	東京都荒川区立顧訪台中学校 校長 清水 隆彦	東京大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵	事例発表・課題協議 「地域や行政との協働体制の構築とキャリア教 育の創造」	休息	休息	休息	休息	休息		
	【ホール7C】 座席：⑧学校種別(経営コース)	国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵	【ホール7C】 座席：⑧学校種別(経営コース)	【ホール7C】 座席：⑧学校種別(経営コース)	【ホール7C】 座席：⑧学校種別(経営コース)	【ホール7C】 座席：⑧学校種別(経営コース)	【ホール7C】 座席：⑧学校種別(経営コース)	【ホール7C】 座席：⑧学校種別(経営コース)		
	推進コース	推進コース	推進コース	推進コース	推進コース	推進コース	推進コース	推進コース		
	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
	課題協議 「キャリア教育により身につけ る力」	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」	昼 休 み	休息						
	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 姫路市教育委員会 学校指導課長 西田 健次郎 大分県教育庁高等教育課 指導主事 小池 輔男	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹
	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)	【ホール7A】 座席：⑨学校種別(推進コース)

第5日目

8月9日 (金)	経営コース		両コース共通	
	9:00	10:30	10:45	11:45
	演習	休憩		
	「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」		「研修講師となるために」	
	文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹		文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	
	国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之		国立大学法人筑波大学 人間系 教授 藤田 晃之	
	関西大学社会学部 教授 川崎 友嗣		関西大学社会学部 教授 川崎 友嗣	
	【ホール7C】		【ホール7C】	
	座席：⑧学校種別(経営コース)		座席：⑨学校種別(経営コース)	
	推進コース			
9:00	10:30	10:45		
事例発表・課題協議	休憩			
「個別的な支援・指導の在り方」				
国立大学法人三重大学 教育学部 准教授 瀬戸 美奈子		国立大学法人三重大学 教育学部 准教授 瀬戸 美奈子		
【ホール7A】		【ホール7C】		
座席：⑨学校種別(推進コース)		座席：①都道府県別		
		閉講式		
		15:15 15:30		

I 研修概要

研 修 名	教育相談指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において教育相談を担当する指導主事及び教諭に対し相談体制の充実等の教育相談における今日的諸課題について高度な見識を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等での教育相談研修を受講修了した者、又それに相当する資質を備えた指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成25年 9月24日（火）～平成25年 9月27日（金）				4日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	78	参加率	130.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	67	11	0	0	0	0	78
割合 (%)	85.9	14.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	78						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修全般において大変有意義であり、今後の教育相談等において積極的に活用していきたいと考えている。また、グループ演習や情報交換の場を設けて頂いたことにより、全国各地の先生方と意見を交換し一緒に学べたことは、大変貴重な経験となった。 ・教育相談体制の見直しから、効果的に推進するところまで、具体的な内容であり、今後役に立っていききたいと考えている。また、事例集についても多くの事例から学び、より効果的な方策を探っていきたいと思う。 ・自分のもので終わらせるのではなく、現在の職場への伝達、若手の人材育成につなげていきたい。また、他県への出張は殆どないので、他県の情報をたくさん得ることができ、大変有意義な研修であった。 ・講義のみではなく協議があったことで、受け身でなく自分の考えも発言できる機会もあり、有意義だった。 ・教育相談の果たす役割について再確認できたとともに、自らの課題を見つめ直すことで、今後の取り組みについて考えることができた。 ・わかりやすい内容だった。生徒指導提要からの引用はありがたかった。 ・学校現場における教育相談の取組、教育委員会の推進する教育相談の取組、そして、海外の取組と実践発表は非常にバランスが取れていたと思う。 ・各理論を基に、学校の中で教育相談をいかに効果的にマネジメントするか講義を具体的にさらに聴きたかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ対策総合推進事業」（文部科学省）におけるスクールカウンセラーの大幅増員も受け、「教育相談を効果的に推進するために」において、スクールカウンセラーの効果的な活用とピアサポートの実践についての講義・演習を実施した。 ・海外における効果的な取組を国内の課題解決に役立てる観点から、「事例演習1 教育相談体制の見直し」において、海外における取組（教育課題指導者海外派遣プログラムの参加者による）発表を実施した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例として、受講者のニーズの高いスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携体制の構築を取り上げる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【北海道・東北ブロック】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成25年 5月20日（月）～平成25年 5月22日（水）					3日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	99	人	参加率	※
開 催 場 所	フォレスト仙台（宮城県仙台市）							

※ 全体受講定員 600 人、受講者数 551 人、参加率 91.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	89 89.9	10 10.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	99
	99	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・どの講義・演習も充実した素晴らしい内容であった。自分自身の心に響き、尚一層、いじめ問題に真剣に取り組んでいきたいと感じた。 ・いじめの問題に関して、今後の県全体での活動について改めて何をすべきか、明確にさせていただいたと思う。 ・講師の方の実体験に基づいた講演内容で、改めていじめの恐さを実感して、いじめのない学校づくりに努力していきたいと感じた。 ・いじめられている児童生徒とその保護者に対してはもとより、いじめている児童生徒とその家庭に対してしっかりと向き合うことの大切さを改めて確認することができた。(いじめている子どもへの対応を見直したい) ・いじめ問題についての国の動向を詳しく説明いただいた。 ・事例研究を通じて、具体的ないじめ対策の立案や、どのような情報が必要となるか、協議の中で発見することができた。 ・これまでの研修で、学校の体制づくりが大切と学んだが、全職員の力と智慧を引き出すブレインライティングは極めて効果的であると感じた。 ・もっと互いの県や教育委員会が持つ施策などの情報交換や討議があってもよかったかと思った。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前中に文部科学省からの行政説明を行う。 ・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行う。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

北海道・東北ブロック【仙台】 5月20日(月)～5月22日(水)

9:00	9:30	10:00	10:30	12:30	13:00	13:30	16:30	17:00
第1日	受付	開講式	講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 作家 大沼 えり子	昼食・休憩	講演・ワークショップ 「いじめの問題に関する実態と取組」 文部科学省 等	オリエンテーション①		
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	昼食・休憩	講義・事例研究 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	オリエンテーション③			
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	閉講式					

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【関東・甲信越ブロック】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成25年 5月13日（月）～平成25年 5月15日（水）					3日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	109	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 600人、受講者数 551人、参加率 91.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	93 85.3	15 13.8	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	109
	109	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義だけではなく、協議や演習を取り入れ、大変分かり易い研修であった。 ・いじめ問題に携わっている私にとって、今すぐにでも実践できる有意義な研修だった。いじめ問題の第一人者である講師の話を市に持ち帰って、多くの同僚・先生方に広めていきたいと考えている。 ・いじめ問題に取り組み姿勢や考え方、未然防止、早期対応、対応の仕方を再確認すると同時に他の地域や学校の取組から新たな発見をすることができた。 ・各地域・学校での取組について情報交換することができた。いじめ対応の方法や教員研修の方法を学ぶことができ有意義であった。 ・他の参加者の持参資料に関する意見、または質疑応答の時間を少しでも取れると、より良かった気がする。 ・もう少しグループで討議し、議論を深めたかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前中に文部科学省からの行政説明を行う。 ・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行う。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

関東・甲信越ブロック【つくば】5月13日(月)～5月15日(水)

	9:00	9:30	10:00	10:30	12:30	13:00	13:30	16:30	17:00
第1日		受付	開講式	講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 東京都児童相談センター 児童心理司 山脇 由貴子	昼食・休憩	講義・ワークショップ 「いじめの問題に関する実態と取組」 文部科学省 等			オリエンテーション①
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇		講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	昼食・休憩				オリエンテーション③
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	閉講式						

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修【東海・北陸ブロック】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成25年 5月29日（水）～平成25年 5月31日（金）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	72	人	参加率	※
開催場所	タナベ名古屋研修センター（愛知県北名古屋市）							

※ 全体受講定員 600人、受講者数 551人、参加率 91.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	61	10	0	0	0	1	72
割合 (%)	85.9	14.1	0.0	0.0	0.0	1.4	
	71	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・この研修を通して「いじめとは何か」「いじめの何が問題なのか」という本質を考えることができた。 ・全体を通して、高レベルの講義内容でとてもためになった。 ・悲惨ないじめに正対されてきた方の生の声を聞くことができ、また、他県・他校種の方との情報交換、いじめ問題に対する具体的な取組等、どれも自分にとって得がたい貴重な財産・経験となった。 ・実体験を通したリアルな講演内容を通して、いじめの悲惨さを再認識し、本研修の意義を理解できた。指導主事として、各学校へしっかりと助言していく必要性を感じた。 ・他の県での取り組みを教えてもらい、自分のところでも生かせるものなど、有効な情報をもらうことができてよかった。 ・具体的な事例を引用し、根拠や原理に基づいて説明してもらえたのでよく理解できた。 ・他の地域の方々と情報交換できる時間があると良かった。 ・いじめ問題に対する対応などを考え直すきっかけとなった。ただ、小・中学が中心だったので、高校にも生かせるものがあったら、と思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p>
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前中に文部科学省からの行政説明を行う。 ・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

東海・北陸ブロック【名古屋】 5月29日(水)～5月31日(金)

	9:00	9:30	10:00	10:30	12:30	13:00	13:30	16:30	17:00
第1日		受付	開講式	講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 弁護士 坪井 節子	昼食・休憩	昼食・休憩	講義・ワークショップ 「いじめの問題に関する実態と取組」 文部科学省 等		オリエンテーション①
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 松田 素行	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 松田 素行	講義・事例研究 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 松田 素行	昼食・休憩	昼食・休憩			オリエンテーション③
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 鳴門教育大学大学院 教授 山崎 勝之 鳴門教育大学予防教育科学センター専任講師 内田 香奈子	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式			

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修【近畿ブロック】							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成25年 5月27日（月）～平成25年 5月29日（水）			3日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	90	人	参加率	※
開催場所	新梅田研修センター（大阪府大阪市）							

※ 全体受講定員 600 人、受講者数 551 人、参加率 91.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	67	23	0	0	0	0	90
割合 (%)	74.4	25.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に関する指導者（エキスパート）として、取り組んでいく自信を付けて頂くことができた。 ・今まで何となく（経験から）いじめ問題に当たってきたが、今回の研修をとおして、いじめとは何か、対応の仕方、新しい教育（予防教育）を知ることと、他校の情報を交換することにより沢山の収穫があった。 ・いじめの概念を整理できた。今までの経験だけでなく、理論や行政の姿勢がわかった。 ・グループ内や他府県の人との交流ができ、取り組みなどのお話が聞けたことがとても有難かった。自分自身の中での考えを深めるきっかけとなった。今後の教育活動に生かせるよう、努力したい。 ・事例を挙げての研修等、もっと多くあれば、更に研修が深まると思う。 ・3日目の内容はよかったが、発達段階に応じた別室での講義・演習があると良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前に文部科学省からの行政説明を行う。 ・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

近畿ブロック【大阪】 5月27日(月)～5月29日(水)

	9:00	9:30	10:00	10:30	12:30	13:00	13:30	16:30	17:00
第1日		受付	開講式	講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 東京都児童相談センター 児童心理司 山脇 由貴子	昼食・休憩	講義・ワークショップ 「いじめの問題に関する実態と取組」 文部科学省 等			オリエンテーション①
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 松田 素行		講義・事例研究 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 松田 素行	昼食・休憩				オリエンテーション③
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 鳴門教育大学大学院 教授 山崎 勝之 鳴門教育大学予防教育科学センター専任講師 内田 香奈子	閉講式						

I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修【中国・四国ブロック】							
担当課	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成25年 6月 3日（月）～平成25年 6月 5日（水）			3日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	94	人	参加率	※
開催場所	TKPガーデンシティ広島（広島県広島市）							

※ 全体受講定員 600人、受講者数 551人、参加率 91.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	83	11	0	0	0	0	94
割合 (%)	88.3	11.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	94	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・このような研修の機会をいただき、3日間「いじめ問題」について様々な角度から考えることができた。この成果を自分だけのものにせず、伝えていきたいと思う。 ・1日目のお話を聞いて大変衝撃を受けた。我が子を亡くして悲しい思いをする保護者を一人も出してはいけないという気持ちを強く持った。 ・講演・講義・ワークショップなどの演習も含め、これからの自分が行う講義に参考となるものが多く、実り多い研修になったと思う。 ・他県の取組やいろいろな経験談を聞くことができ、参考になった。話し合いの中で改めて気づいたこともあり、得るものが大きかった。 ・具体的な事例を基に、感性のポイントを分かりやすく学ぶことができた。改めていじめの問題性について考え直すことができた。 ・事例研究の時間をもっと欲しかった。 ・今、取り組むべきと考えていた「予防」の部分の大切さを再確認することができた。もう少しプログラムのことを伺えればよかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p>
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前中に文部科学省からの行政説明を行う。 ・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

中国・四国ブロック【広島】 6月3日(月)～6月5日(水)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日	受付	開講式	講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 ジェントルハートプロジェクト 理事 小森 美登里	昼食・休憩	講義・ワークショップ 「いじめの問題に関する実態と取組」 文部科学省 等	オリエンテーション①	第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 松田 素行	昼食・休憩	講義・事例研究 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 松田 素行	オリエンテーション③	第3日	閉講式	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	オリエンテーション④

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【九州ブロック】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成25年 6月 5日（水）～平成25年 6月 7日（金）					3日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	87	人	参加率	※
開 催 場 所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）							

※ 全体受講定員 600人、受講者数 551人、参加率 91.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	73 83.9	12 13.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.3	87
	85	97.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな県や立場の方から、他種多様な事例や意見を交換できたことが良かった。研修の内容も理論的なものから、インシデントを使った対応の演習など幅広く、しかも充実したものであった。 ・いじめが死につながる重大さを改めて認識した。 ・いじめ問題に対してはいかに早期に対応することが大事か、またそれを怠れば、命をも奪うようなことになる危険感を持たなければならないこと、そして、この研修を通して学んだことを是非、私の所属する地域の学校へ広めていく研修会を実施していきたいと考えている。 ・他校のいじめに対しての取り組みは参考になった。そして、同じような悩みや不都合があり、前向きに解決しようとしている姿勢に元気をもらった。 ・いじめ問題について、いじめが起きる背景やその構造、最近のいじめの変質等、様々ないじめに関するお話を聞くことができた。大変丁寧に説明して頂き、分かりやすい内容だった。 ・もう少し演習の時間を多く入れて欲しかった。 ・「未然防止」が何より大切であると考えている。今回の研修でもその点で学ぶことが多かったと思う。更に、いじめを防ぐための、より具体的な取組や方策等の研修を受けたいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前に文部科学省からの行政説明を行う。 ・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

九州ブロック【福岡】 6月5日(水)～6月7日(金)

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	開講式	講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 ジェントルハートプロジェクト 理事 小森 美登里	昼食・休憩			講演・ワークショップ 「いじめの問題に関する実態と取組」 文部科学省 等	オリエンテーション①								
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教科大学大学院 教授 新井 肇	昼食・休憩			講義・事例研究 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	オリエンテーション③										
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	閉講式														

I 研修概要

研修名	子どもの体力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	子どもの体力が低い水準で推移していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子どもの運動意欲を高める取組が求められている。本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子どもの体力向上を図るための手法を習得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 ※ 本研修は、子どもの体力向上を図るための指導者養成を目的としており、受講者の推薦にあたっては、開設する部会・コースにおける専門性を問うものではない。							
開催期日	平成25年5月21日（火）～5月24日（金）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	234	人	参加率	※
開催場所	かでの2・7（北海道立道民活動センター）（北海道札幌市） 他							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 380人、受講者数 479人、参加率 126.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	210 90.1	22 9.4	1 0.4	0 0.0	0 0.0	1 0.4	234
	232	99.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・様々な具体的なアイデアや、学習指導要領に即した指導など、今まで以上に、大切にしていかなければいけないことを学ぶことができた。</p> <p>・1つの領域について、深く追求できる研修であったと思います。実技があり、また講義もあり、模擬授業、ポスターセッションなど、バラエティーにとんだ内容であったと思います。</p> <p>・幼児、小・中・高との連携を考えたとき、幼児期の運動経験が基となるので、どの校種においても体づくり運動を中心に研修を計画、推進する際、とても役立つ内容であった。また、他県の先生方と情報交換できたことも、大変有意義だった。</p> <p>・講義、実技をバランスよく御指導いただき、大変有意義な研修となった。勉強させていただいた理念や授業づくりの様々なアイデアを広めていくことで、還元していきたい。</p> <p>・系統性、技術的課題性、習熟段階を踏まえた指導方法が具体的に理解できた。（理論的な部分まで）模擬授業においてグループで検討する時間と、授業についてお互いに意見や感想を交流する時間が多く取れると、より実りのある活動になったと思う。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期運動指針を受けて、「基礎的な動きづくりをとおして体力の向上を図る部会」を新設した。 ・最終日の各部会・各コースによる発表をポスターセッション形式にした。 ・講師の研修内容に対する理解や講師相互間の連携をより深めるため、事前協議会の時間をこれまでより長く設定した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の体力の現状・課題等を踏まえて、部会・コースの全面的な見直しを行う。 ・児童生徒の体力向上を学校組織全体で効果的に進めるため、「学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方について」の講義・演習を新設する。 ・運動部活動における体罰が問題となっていること等を踏まえて、「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」の講義・演習を新設する。 ・事前提出課題を効果的に活用し、班別協議を更に充実させるための手立てを検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 子どもの体力向上指導者養成研修(東部ブロック) 日程

5月21日(火)	9:00	受付	12:00	オリエンテーション	13:00	14:00	17:00
	部会・コース別演習		部会・コース別演習		部会・コース別演習		
					子どもの体力向上を図るための指導者の役割	研究協議 体力向上に向けた取組の工夫について ・運動の習慣化に向けた体力向上の取組の分析及び事前課題に関する班別協議	

5月22日(水)	9:00	部会・コース別演習	10:30	部会・コース別演習	12:00	13:00	14:30	17:00
	部会・コース別演習		部会・コース別演習		部会・コース別演習			
		体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方① (演習・協議)		体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方② (演習・協議)	食	体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方① (演習・協議)	体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方② (演習・協議)	

5月23日(木)	9:00	部会・コース別演習	10:30	部会・コース別演習	12:00	13:00	14:30	17:00
	部会・コース別演習		部会・コース別演習		部会・コース別演習			
		運動の意欲を高めるための学習指導の在り方① (演習・協議)		運動の意欲を高めるための学習指導の在り方② (演習・協議)	食	指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方① (演習・協議)	指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方② (演習・協議)	

5月24日(金)	9:00	部会・コース別演習	10:30	部会・コース別演習	12:00	13:00	14:00	14:50	15:00
	部会・コース別演習		部会・コース別演習		部会・コース別発表		14:00	14:50	15:00
		指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方③ (演習・協議)		指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方④ (演習・協議)	食	体力の向上に向けた取組の工夫について ・部会別演習の発表	研修講師となるために	閉講式	
							全体会		

I 研修概要

研修名	子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	子どもの体力が低い水準で推移していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子どもの運動意欲を高める取組が求められている。本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子どもの体力向上を図るための手法を習得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 ※ 本研修は、子どもの体力向上を図るための指導者養成を目的としており、受講者の推薦にあたっては、開設する部会・コースにおける専門性を問うものではない。							
開催期日	平成25年5月14日（火）～平成25年5月17日（金）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	245	人	参加率	※
開催場所	浦添市てだこホール（沖縄県浦添市） 他							

※ 全体受講定員 380 人、受講者数 479 人、参加率 126.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	202	42	0	0	1	0	245
割合 (%)	82.4	17.1	0.0	0.0	0.4	0.0	
	244	99.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 単なる実技の講習だけではなく、理論を伴った計画の立て方、評価の仕方などを教えてもらいながらの講習だったので自分も楽しみながら、納得できることがとても多かった。また、講師の先生方をはじめ多くの先生方と交流する場があったのが自分にとってよい刺激になった。 実技指導だけでなく、学習指導要領の改訂等、単元計画、本時案、段階的な指導方法等、内容が豊富であった。また、ペア、グループ活動を取り入れ、受講者が議論する場もあり、わからないことについて考えを練り上げることもできた。 技術を身につけさせていくには、それなりの理論・系統など、きちんとした知識をもって指導するのと、そうでないのとでは、大きな違いがあることがよく分かった。実技と理論を分かりやすく教えていただいたことに感謝している。 これまで「自分が学ぶ」という視点から、人（各県の受講者）に伝える目的という本事業に参加して、新しい視点で様々なことを学ぶことができ、もちろん自分の大きな学びになった。地元に戻り、本事業で学んだことを存分に生かし、受講者に伝え、子どもの体力づくりに向けて取り組んでいきたい。 班別協議の時間がどうしても短くなり、事前課題の交流が十分できなかったことが残念だった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児期運動指針を受けて、「基礎的な動きづくりをとおして体力の向上を図る部会」を新設した。 最終日の各部会・各コースによる発表をポスターセッション形式にした。 講師の研修内容に対する理解や講師相互間の連携をより深めるため、事前協議会の時間をこれまでより長く設定した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の体力の現状・課題等を踏まえて、部会・コースの全面的な見直しを行う。 児童生徒の体力向上を学校組織全体で効果的に進めるため、「学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方について」の講義・演習を新設する。 運動部活動における体罰が問題となっていること等を踏まえて、「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」の講義・演習を新設する。 事前提出課題を効果的に活用し、班別協議を更に充実させるための手立てを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修 健康コース（東部ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を習得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開催期日	平成25年12月17日（火）～平成25年12月20日（金）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	187	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720 人、受講者数 704 人、参加率 97.8%
 ※ 健康コース受講定員 330 人、受講者数 321 人、参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	162	25	0	0	0	0	187
割合 (%)	86.6	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	187	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・最新の重要かつ基本的な知識を得ることができ、とても勉強になった。また、2日目以降のコース別研修で他県の熱意あふれる先生方とディスカッション、成果物を作成できたことは大変有意義で、あっという間の4日間であった。 ・普段学校にいととなかなか研修をする機会はとれないので、とても有意義であった。講義と演習がバランスよく組みこまれていて、とても勉強になった。 ・研修の内容が精選されているのと、どの講義、演習で何を学ぶかという目標が明確に示されていたので、学ぶ側としてやりやすかった。 ・養護教諭としての知識を深める機会になっただけでなく、学校保健マネジメントという新たな分野についても学ぶことができ、大変有意義であった。地区のリーダーとなれるよう、研修したことをまとめ、伝えていきたい。 ・養護教諭の割合が多いように思う。養教はすでに健康教育への関心も高く積極的に推進しようと思っている方がほとんど。むしろ、管理職や教育委員会、一般教員の先生などにこの研修を受けていただき、養教とうまく連携しながら組織的に健康教育をすすめていく立場になってほしいと思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「講義・演習4 A 学校における性に関する指導の在り方」では、演習の時間を拡充した。 ・部会別演習では、パソコンを各班に2台配置するなどして研修環境を整えた。 ・研修全体のイメージを明確にもって受講させるために、研修初日のオリエンテーションや教科調査官による講義の中で、本研修のねらいや構成等をより詳細に説明した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西ブロック開催を見直し全国を対象として、教員研修センター（つくば市）で開催する。 ・引き続き、養護教諭と保健主事との密接な連携による健康教育の充実に資する観点から、研修内容・方法の検討を行う。 ・演習における時間確保と、効果的・効率的に進めるための手立てを検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 健康教育指導者養成研修 健康コース 日程

日程 東部ブロック(つくば) : 平成25年12月17日(火)~20日(金)

	9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
12/17(火)	受付	オリエンテーション	講義1(55分)	講義2(55分)	昼食・休憩	講義3(55分)	講義4(55分)	休憩	講義・演習1(105分)		
第1日目			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方	子供の心のケアのために		保健教育の在り方	学校保健マネジメント		児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		
			◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する	◎目的: 災害や事件・事故発生時における子供の心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める		◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を円った保健教育の進め方について理解を深める	◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める		◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ		
			文部科学省 教科調査官 森良一	文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子		宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝	日本女子体育大学 教授 畑攻 栃木県教育委員会 副主幹 岡村安将		京都大学 教授 十一元三		

	9:00	12:00	13:00	17:00
12/18(水)	受付	講義・演習2-1(180分)		講義・演習2-2(240分)
第2日目		①保健教育の在り方		①保健教育の在り方
		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ
		生活習慣病 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生		生活習慣病 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生
		感染症 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 副主幹 岩村康朗		感染症 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 副主幹 岩村康朗
		②学校保健マネジメント		②学校保健マネジメント
		◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ		◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ
		日本女子体育大学 教授 畑攻 栃木県教育委員会 副主幹 岡村安将		日本女子体育大学 教授 畑攻 栃木県教育委員会 副主幹 岡村安将
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(個別の保健指導)		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康相談の進め方)
		◎目的: 心身の健康問題に関する個別の課題に対応した指導の在り方について理解を深める		◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ
		名古屋学芸大学 教授 采女智津江		I 浜松市立花川小学校 教頭 福川秀子 II 真岡市立龜山小学校 教頭 青山直己 III 焼津市立大井川東小学校 教頭 薬科順子 IV 鳥取県立鳥取東高等学校 養護教諭 西尾美由紀

	9:00	12:00	13:00	14:40	14:55	17:00
12/19(木)	受付	講義・演習2-3(180分)		講義・演習2-4(100分)	講義・演習3(125分)	
第3日目		①保健教育の在り方		①保健教育の在り方	児童虐待への対応	
		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ		◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める	◎目的: 児童虐待への気付きのポイント、その後の対応、支援について学ぶ	
		生活習慣病 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生		生活習慣病 横浜国立大学 物部博文 鳴海高校 丸山洋生	横浜市中央児童相談所 子ども青少年局担当部長兼医療担当課長 金井剛	
		感染症 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教育委員会 副主幹 岩村康朗		感染症 宇都宮大学 和唐正勝 栃木県教委 岩村康朗		
		②学校保健マネジメント		②学校保健マネジメント		
		◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ		◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める		
		日本女子体育大学 教授 畑攻 栃木県教育委員会 副主幹 岡村安将		日本女子体育大学 畑攻 栃木県教育委員会 岡村安将		
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(事例検討の進め方)		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実際)		
		◎目的: 学校における事例検討の進め方や指導助言の在り方を学ぶ		◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ		
		【小学校】真岡市立真岡西小学校 校長 小高邦夫 【中学校】跡見学園女子大学 教授 松壽くみ子 【高等学校】FR教育臨床研究所 所長 花輪敏男		仙台市教育委員会 指導主事 松本宏子		

	9:00	12:00	13:00	15:00	15:15
12/20(金)	受付	講義・演習4(180分)		講義・演習5(120分)	閉講式
第4日目		A 学校における性に関する指導の在り方		研修講師となるために	
		◎目的: 性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える		◎目的: 本研修を振り返り、研修成果をまとめる中で、研修講師となるための力を身に付ける	
		京都大学 准教授 木原雅子		文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子	
		B 学校における感染症対策の在り方			
		◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える			
		国立感染症研究所感染症疫学センター 第二室長 砂川富正			

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修 健康コース（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を習得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開催期日	平成25年11月25日（月）～平成25年11月28日（木）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	134	人	参加率	※
開催場所	アクロス福岡（福岡県福岡市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720 人、受講者数 704 人、参加率 97.8%
 ※ 健康コース受講定員 330 人、受講者数 321 人、参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	110	23	0	0	1	0	134
割合(%)	82.1	17.2	0.0	0.0	0.7	0.0	
	133	99.3					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 保健主事の役割とその重要性を再認識することができた。部会別演習では、保健主事の立場で参加したが、養護教諭のご苦労や思いを身近に感じることができ、より健康教育の大切さを理解することができた。 どの講義も、ていねいな説明と具体的な事例等を交えての内容で大変わかりやすく、とても参考になった。演習も、班員と協力して、日常の課題を明確にし、対策まで時間をかけて作りあげていく過程が、とても楽しく充実していた。 どの内容も現代の健康課題についてであり、専門知識を深めることができた。単に自分の力量を高めるだけでなく指導者として、この研修をどのように生かしていくのかを意識しながら受講した。 生徒の思考力を重視した保健学習同様、演習中心の研修内容は大変有意義であった。また日々の執務の裏付け、根拠、展開について改めて確認することができた。ここはとても大事にしていきたいところである。養護教諭の資質向上、健康教育の推進、充実を目指した研修会を企画し、還元したいと思う。 全体的に演習の時間が短いような気がする。時間がとれない場合、もう少し手を入れて（助言を）いただくとよかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「講義・演習 4 A 学校における性に関する指導の在り方」では、演習の時間を拡充した。 部会別演習では、パソコンを各班に2台配置するなどして研修環境を整えた。 研修全体のイメージを明確にもって受講させるために、研修初日のオリエンテーションや教科調査官による講義の中で、本研修のねらいや構成等をより詳細に説明した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 東西ブロック開催を見直し全国を対象として、教員研修センター（つくば市）で開催する。 引き続き、養護教諭と保健主事との密接な連携による健康教育の充実を図る観点から、研修内容・方法の検討を行う。 演習における時間確保と、効果的・効率的に進めるための手立てを検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 健康教育指導者養成研修 健康コース 日程

日程 西部ブロック(福岡) :平成25年11月25日(月)～28日(木)

	9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
11 /25 (月) 第1日目	受付	オリエンテーション 開講式	講義1(55分) 健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する 文部科学省 教科調査官 森良一	講義2(55分) 子供の心のケアのために ◎目的: 災害や事件・事故発生時における子供の心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子	昼食・休憩	講義3(55分) 保健教育の在り方 ◎目的: 体育、保健体育を中心として、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める 聖心女子大学 教授 植田誠治	休憩	講義4(55分) 学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 筑波大学 准教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利	講義・演習1(105分) 児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 京都大学 教授 十一元三	休憩	

	9:00	12:00	13:00	17:00
11 /26 (火) 第2日目	受付	部会別演習	部会別演習	
	講義・演習2-1(180分)	講義・演習2-2(240分)		
	◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学 教授 植田誠治 長崎県教育委員会 係長 宮田幸治 喫煙・飲酒 茨城大学 准教授 上地勝 薬物乱用 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和	◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学 教授 植田誠治 長崎県教育委員会 係長 宮田幸治 喫煙・飲酒 茨城大学 准教授 上地勝 薬物乱用 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利	◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ I 佐川町立斗賀野小学校 教頭 中野靖子 II 安来市立母里小学校 校長 荊尾玲子 III 愛媛県教育委員会 指導主事 西尾しき IV 佐賀県教育委員会 指導主事 坂井規子
	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利
	◎目的: 心身の健康問題に関する個別の課題に対応した指導の在り方について理解を深める 名古屋学芸大学 教授 采女智津江	◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ I 佐川町立斗賀野小学校 教頭 中野靖子 II 安来市立母里小学校 校長 荊尾玲子 III 愛媛県教育委員会 指導主事 西尾しき IV 佐賀県教育委員会 指導主事 坂井規子	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利	◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ I 佐川町立斗賀野小学校 教頭 中野靖子 II 安来市立母里小学校 校長 荊尾玲子 III 愛媛県教育委員会 指導主事 西尾しき IV 佐賀県教育委員会 指導主事 坂井規子
	名古屋学芸大学 教授 采女智津江			

	9:00	12:00	13:00	14:40	14:55	17:00
11 /27 (水) 第3日目	受付	部会別演習	部会別演習	移動・休憩		
	講義・演習2-3(180分)	講義・演習2-4(100分)	講義・演習3(125分)			
	◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学 教授 植田誠治 長崎県教育委員会 係長 宮田幸治 喫煙・飲酒 茨城大学 准教授 上地勝 薬物乱用 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和	◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 心の健康 聖心女子大学 植田誠治 長崎県教委 宮田幸治 喫煙・飲酒 茨城大学 上地勝 薬物乱用 伊万里中学校 福井宏和	◎目的: 児童虐待への気付きのポイント、その後の対応、支援について学ぶ 福岡市子ども総合相談センター 緊急支援課長 河浦龍生			
	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利	◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 筑波大学 柳沢和雄 群馬県教育委員会 山田知利	◎目的: 児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実際) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 鳥根県教育センター 指導主事 下岡光子			
	◎目的: 学校における事例検討の進め方や指導助言の在り方を学ぶ 【小学校】名古屋市立中小田井小学校 校長 山口純枝 【中学校】高知県心の教育センター チーフ 大城由美 【高等学校】跡見学園女子大学 教授 松崎くみ子					

	9:00	12:00	13:00	15:00	15:15
11 /28 (木) 第4日目	受付	コース別演習	昼食・休憩	閉講式	
	講義・演習4(180分)	講義・演習5(120分)			
	A 学校における性に関する指導の在り方 ◎目的: 性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える 京都大学 准教授 木原雅子	研修講師となるために ◎目的: 本研修を振り返り、研修成果をまとめる中で、研修講師となるための力を身に付ける 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子			
	B 学校における感染症対策の在り方 ◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える 国立感染症研究所感染症疫学センター 第三室長 多屋馨子				

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修 食育コース（推進コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受講対象	ア 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 イ 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（栄養教諭を除く） ウ その他、上記ア、イに準ずる者							
開催期日	平成25年7月9日（火）～平成25年7月12日（金）					4日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	66	人	参加率	※
開催場所	教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720 人、受講者数 704 人、参加率 97.8%
 ※ 食育コース受講定員 170 人、受講者数 163 人、参加率 95.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	50	14	0	0	0	2	66
割合(%)	78.1	21.9	0.0	0.0	0.0	3.0	
	64	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・現在の立場において、食育を推進するために自分に何が不足しているか、何をしていけばよいのか課題を見つけることができた。このような内容の濃い研修を受けることができたことに感謝したいと思う。この研修をすぐに生かす場面がたくさんあるので助言者、講師、企画者としても食育を推進していきたいと思う。 ・多くの先生方の講義、実践発表を聞き、改めて食育の重要性を認識できた。今後、指導者としての立場になった時のことを考え、さらに深めていきたい。 ・栄養職員として授業に参画することはあったが、今回のように1つの指導に対し、指導主事の先生や教諭の方と長時間話し合うことはなかったので、とても勉強になった。また全体計画や年間指導計画をしっかりとるために全職員で話し合いたいと思う。どの先生の講義も大変勉強になった。他県の方々と交流で見聞が広がった。 ・食育に関わる様々な立場の方と同じ課題解決に向けて研修を行うことができ自身の見聞を深めることができた。また、講師の先生方から何う話をもとに実際に自分たちでも考えるという演習形式は、頭だけでなく心もはたらき納得できることが多く、大きな収穫を得ることができた。 ・研修のための勉強不足を感じたが、その分得るものも多く指導者研修という名の通りこれから、帰ってどのように伝えていくかが一番大切なことだと感じた。よい研修であった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校給食管理および給食の時間における食に関する指導の在り方」の講義を「学校における食育の推進」に統合した。 ・「食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて」、「各教科等における食に関する指導のポイント」の時間を増加し、内容の充実を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進コース（指導主事、教諭、学校栄養職員等対象）と専門コース（栄養教諭対象）を実施していたが、職種によるコース分けをせず、第1回・第2回として実施する。 ・第1回を「標準的な内容」、第2回を「発展的な内容」として実施する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 健康教育指導者養成研修 食育（推進）コース 日程

7月9日 (火)	9:30	受付	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00		
	オリエンテーション		講義1 学校における食育の推進 ～学校給食の充実及び食に関する指導への活用について～ 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 江口 陽子 学校教育全体における健康教育および食育の果たす役割を理解する とともに食育を推進するための基本的な考え方を理解する		休食	講義・演習1 食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	講義・演習2 学校全体で取り組む食に関する指導にかかるとともに、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等について理解を深める 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希	休食	講義・演習3-1 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) ※講師については、講義・演習3-2を参照 特別活動 文部科学省 初等中等教育局 視学官 杉田 洋	講義・演習3-2 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習3-3 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習4 食に関する指導案の発表 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習5 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希	事例発表・協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希 南島原市立口之津小学校 教諭 福田 泰三 先行事例を通して、学校の特色を生かした教育課程の編成と運用方法を学ぶとともに自地域や自校の現状と課題を明確にする	休食	講義・演習3-1 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) ※講師については、講義・演習3-2を参照 特別活動 文部科学省 初等中等教育局 視学官 杉田 洋	閉講式		
7月10日 (水)	8:30	受付	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	講義・演習2 学校全体で取り組む食に関する指導にかかるとともに、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等について理解を深める 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希		講義・演習3-2 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛		休食	講義・演習3-3 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習4 食に関する指導案の発表 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習5 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希	事例発表・協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希 南島原市立口之津小学校 教諭 福田 泰三 先行事例を通して、学校の特色を生かした教育課程の編成と運用方法を学ぶとともに自地域や自校の現状と課題を明確にする	休食	講義・演習3-1 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) ※講師については、講義・演習3-2を参照 特別活動 文部科学省 初等中等教育局 視学官 杉田 洋	閉講式							
7月11日 (木)	8:30	受付	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	講義・演習2 学校全体で取り組む食に関する指導にかかるとともに、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等について理解を深める 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希		講義・演習3-2 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛		休食	講義・演習3-3 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習4 食に関する指導案の発表 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習5 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希	事例発表・協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希 南島原市立口之津小学校 教諭 福田 泰三 先行事例を通して、学校の特色を生かした教育課程の編成と運用方法を学ぶとともに自地域や自校の現状と課題を明確にする	休食	講義・演習3-1 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) ※講師については、講義・演習3-2を参照 特別活動 文部科学省 初等中等教育局 視学官 杉田 洋	閉講式							
7月12日 (金)	8:30	受付	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	講義・演習2 学校全体で取り組む食に関する指導にかかるとともに、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等について理解を深める 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希		講義・演習3-2 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛		休食	講義・演習3-3 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習4 食に関する指導案の発表 特別活動 徳島県立総合教育センター 班長 小泉 雅彦 生活、総合的な活動の時間 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 体育、保健体育 宇都宮市教育委員会 指導主事 横嶋 剛	講義・演習5 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希	事例発表・協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 文部科学省スポーツ・青少年局 調査官 濱田 有希 南島原市立口之津小学校 教諭 福田 泰三 先行事例を通して、学校の特色を生かした教育課程の編成と運用方法を学ぶとともに自地域や自校の現状と課題を明確にする	休食	講義・演習3-1 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) ※講師については、講義・演習3-2を参照 特別活動 文部科学省 初等中等教育局 視学官 杉田 洋	閉講式							

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修食育コース（専門コース）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受 講 対 象	食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成25年11月5日（火）～11月8日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	97	人	参加率	※
開 催 場 所	教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720 人、受講者数 704 人、参加率 97.8%
 ※ 食育コース受講定員 170 人、受講者数 163 人、参加率 95.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	88	9	0	0	0	0	97
割合 (%)	90.7	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	97	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修で、食育と道徳のつながりを少しではあるが理解できたことは、今後の自分の仕事に大きく反映させることができる。今までは特活・家庭科・保健領域の中で指導を展開してきたが、道徳にも広く道が開けたと感じた。県に帰り、他者にも十分伝えたい。 ・基本的な栄養教諭に求められる役割から始まり、食に関する指導計画の作成、食物アレルギーの対応、各教科における食に関する指導についてまで、なかなか、研修を受けられない。実践的な内容であったことが、とても勉強になった。特に教科別の指導案の検討では、身近に専門の先生のアドバイスをいただけての研修となったことが、他ではなかなか経験できない有意義な研修となった。 ・難しい内容もあったが、食育と栄養教諭の向かう方向がはっきりした。効果の上がる食育となるように、自分の活動を見直し、学んだ事を栄養教諭の仲間や、学校の職員に伝えたいと思う。 ・盛り沢山の研修であったが、どれも学ぶことが多く、実のりのあるものであった。今回の研修で習得したことを、本校はもとより、本市、本県の食育の向上に役立てていき、まずは、来年度の全体計画を見直し、全職員が共通理解のもと実行できるものを作成する。 ・それぞれの分野の第一線で指導されている先生方の講義を受けることができ、大変勉強になった。又、各地域の栄養教諭と情報交換することで、地域の実状や取り組みを知ることができた。ここでの研修内容を本市において復講していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校給食管理の在り方」、「給食の時間における食に関する指導の在り方」の講義を「栄養教諭に求められる役割」に統合した。 ・「食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて」、「個別的相談指導の在り方」、「各教科等における食に関する指導のポイント」の時間を増加し、内容の充実に図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進コース（指導主事、教諭、学校栄養職員等対象）と専門コース（栄養教諭対象）を実施していたが、職種によるコース分けをせず、第1回・第2回として実施する。 ・第1回を「標準的な内容」、第2回を「発展的な内容」として実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 健康教育指導者養成研修 食育（専門）コース 日程

	9:00	9:30	10:00	11:30	12:30	14:00	14:10	15:10	15:20	17:00
11月5日(火)	9:00	9:30	10:00	11:30	12:30	14:00	14:10	15:10	15:20	17:00
	受付	オリエンテーション	講義1 栄養教諭に求められる役割 ～学校給食管理及び給食の時間 における食に関する指導について 文部科学省スポーツ・青少年局 学校給食調査官 江口 陽子 学校教育全体における健康教育お よび食育の果たす役割を理解する とともに食育を推進するための基 本的な考え方を理解する	講義2 食育を効果的に推進するための特 色ある教育課程の編成に向けて 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	休憩	協議 学校教育全体を通して た食育を実践するに あたっての現状と課 題 文部科学省スポーツ・青少年局 学校給食調査官 江口 陽子	休憩	講義・演習1 学校全体で取り組む食に関する指導に かかる全体的な指導計画の作成	休憩	文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希
11月6日(水)	8:30	9:00	10:10	11:45	12:45	15:30	15:45	17:00		
	受付	講義・演習1 学校全体で取り組む食に 関する指導にかかる全 体的な指導計画の作成 文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希	休憩	講義・演習2 個別的相談指導の在り方 昭和大学 講師 今井 孝成	休憩	講義3 各教科等における食に関する指導のポイント 特別活動 家庭・家庭 技術・家庭 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 筒井 恭子	休憩	講義・演習3-1 各教科等における食に関する 指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) ※講師については、講義・ 演習3-2を参照 ※講師については、講義・ 演習3-2を参照 ※講師については、講義・ 演習3-2を参照 ※講師については、講義・ 演習3-2を参照 ※講師については、講義・ 演習3-2を参照	休憩	文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希
11月7日(木)	8:30	9:00	12:00	13:00	17:00					
	受付	講義・演習3-2 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 宗像市立玄海東小学校 校長 脇田 哲郎 家庭・技術・家庭 桐生市立桜木中学校 教頭 伏見 和枝	休憩	講義・演習3-3 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 宗像市立玄海東小学校 校長 脇田 哲郎 家庭・技術・家庭 桐生市立桜木中学校 教頭 伏見 和枝	休憩	講義・演習3-3 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 宗像市立玄海東小学校 校長 脇田 哲郎 家庭・技術・家庭 桐生市立桜木中学校 教頭 伏見 和枝	休憩	講義・演習3-3 各教科等における食に関する指導案の検討 (各教科等別に講義・演習) 特別活動 宗像市立玄海東小学校 校長 脇田 哲郎 家庭・技術・家庭 桐生市立桜木中学校 教頭 伏見 和枝	休憩	文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希
11月8日(金)	8:30	9:00	12:00	14:30						
	受付	講義・演習4 食に関する指導案の発表 特別活動 宗像市立玄海東小学校 校長 脇田 哲郎 桐生市立桜木中学校 教頭 伏見 和枝	休憩	講義・演習5 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希	休憩	講義・演習5 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希	閉講式			

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修 学校安全コース（東部ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 第二グループ							
研修目的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開催期日	平成25年10月15日（火）～平成25年10月18日（金）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	107	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720人、受講者数 704人、参加率 97.8%

※ 学校安全コース（受講定員） 220人、受講者数 225人、参加率 102.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

（人、％）

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	89	18	0	0	0	0	107
割合 (%)	83.2	16.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

・他校種、他県の熱心な取組に接することができ、意欲を高めることができた。また、今後の伝達についても様々な資料を得ることができた。

・子供の命を預かっている学校において、学力の向上を図ることも大切であるが、子供の命を守る学校安全の充実を図ることの重要性を痛感した。そして、本研修を通して、具体的にどのように推進していけばよいかについても理解できた。

・講義及び実践演習を通して考え方やポイントが明確となり大変勉強になった。また、多くの県の方々と交流ができ、情報を少ないながら得ることができ、活用につなげる一材料となった。時間設定等密でありましたが内容がわかりやすく、大変良かった。

・異校種の発表を聞くことで、発達段階の様子がわかりやすく理解できた。また、アイデア豊かな指導案も大変参考になった。小・中・高・特支の流れがよくわかった。

・最近の学校現場は学力向上、体力向上に重点が置かれているが、様々な教育活動において、一番重要視すべきことは学校安全だと感じた。自分で自分の命を守って行けるような知識をベースに思考・判断できるようにしていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「交通安全」「生活安全」をより充実するために、講義だけでなく演習の時間も設けた。
- ・文部科学省で作成したDVDを活用した。
- ・基調講演をなくし、演習時間を増やして、より充実した演習とした。

次年度に向けて

- ・災害安全、生活安全及び交通安全それぞれをより充実するため、研修日程を4日間から5日間に拡充し、演習時間等を確保する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修 学校安全コース（西部ブロック）				
担当課 グループ	教育課題研修課 第二グループ				
研修目的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。				
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 				
開催期日	平成25年12月3日（火）～平成25年12月6日（金）			4日間	
受講人数	受講定員 (計画人数)	※ 人	受講者数	113 人	参加率 ※
開催場所	TKP大阪梅田ビジネスセンター（大阪市）				

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720 人、受講者数 704 人、参加率 97.8%

※ 学校安全コース（受講定員） 220人、受講者数 225人、参加率 102.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	72	39	1	0	0	1	113
割合 (%)	64.3	34.8	0.9	0.0	0.0	0.9	
	111						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修全体を通じて質・量ともに大変素晴らしく、大変有意義であったと思う。また、一教員として、様々な立場の方々と交流させていただけたことは、ありがたく思っている。本研修で学ばせていただいたことを活かせるよう、取組んでいきたいと思う。 ・講義を通して得られた知識や心構えと共に、演習を通して得られた成果物も今後の防災教育を進めていく上での財産となった。また、他県の方とのネットワークもでき、これも大きな財産である。 ・指導者としての心構えについて具体的に教えていただいた。「生き方を学ぶ安全教育」を頭に入れて現場で取り組みたい。 ・研修講師としての自覚を持ち、今回、学び、考えたことが無駄にならないよう努力したい。「命を守り日本人として生きる」ことを教える教育を推進したい。 ・授業づくりのポイントを押さえていただいた上での他県の先生方のいろいろな経験をふまえた上での交流しながらの指導案づくり、また、その途中での講師からの直接指導も大変勉強になった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交通安全」「生活安全」をより充実するために、講義だけでなく演習の時間も設けた。 ・文部科学省で作成したDVDを活用した。 ・基調講演をなくし、演習時間を増やして、より充実した演習とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害安全、生活安全及び交通安全それぞれをより充実するため、研修日程を4日間から5日間に拡充し、演習時間等を確保する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研修目的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手(ALT)に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。(JETプログラムにより日本に招致した外国語指導助手(ALT)に対する来日直後オリエンテーション(財団法人自治体国際化協会主催)の一環として実施)						
受講対象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムにより招致した外国語指導助手(ALT)						
開催期日	(4月期)平成25年4月11日(木)				1日間		
	(A日程)平成25年7月29日(月)～平成25年7月30日(火)				2日間		
	(B日程)平成25年8月5日(月)～平成25年8月6日(火)				2日間		
	(第2次)平成25年8月22日(木)				1日間		
受講人数	定員 (計画人数)	4月期	1,500人	受講者数	34人	参加率	—
		A日程			693人		—
		B日程			751人		—
		第2次			27人		—
	計	1,500人	計	1,505人	計	100.3%	
開催場所	4月期=ルポール麹町(東京都千代田区) A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル(東京都新宿区)						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義 なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
4月期	21 70.0	9 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 11.8	34
	30 100.0						
A日程	203 43.8	230 49.7	15 3.2	0 0.0	15 3.2	230 33.2	693
	433 93.5						
B日程	214 46.7	209 45.6	18 3.9	2 0.4	15 3.3	293 39.0	751
	423 92.4						
第2次	4 20.0	16 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 25.9	27
	20 100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演では我々に期待されていることが理解できた。日本の英語教員の経験を聞くことができたのが特に良かった。ビデオを見ることでより理解できた。 ・小学校訪問でのデモンストレーション、活動紹介ともに役に立つものだった。 ・高等学校の表現活動ではディベートに特化しすぎの感があった。タイトルを変更したら良いと思う(内容とタイトルが合致していなかった) ・たくさんのアイデアがもたらえた。素晴らしいティームティーチングデモンストレーションだった。 ・講師のエネルギーが伝わった。どのようにティームティーチングに関わるか理解できた。 ・有益な情報が含まれていたがあいまいな部分も残った。いかに授業を進め、生徒がどう反応し、どのように授業計画をすればよいか理解できた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ 本年度は受講者へのアナウンスを徹底するとともに、「アンケート記入時間」を設けたことによって、アンケートの回収率が上がった。</p> <p>次年度に向けて 次年度は研修プログラム・会場ともに変更が見込まれるので、文部科学省・財団法人自治体国際化協会との連携を更に密にして、円滑な事前準備・当日運営が実施できるようにする。</p>
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり(太枠部分が教員研修センター実施部分)

平成25年度来日直後オリエンテーション(4月期)プログラム

会場:ホテルルポール麹町

4月10日(水)	新規招致者来日 会場チェックイン→資料配布・オリエンテーション概要説明					
4月11日(木)	9:30-9:50	開会式				
		中国・韓国・ブラジル		オセアニア		
	10:00-10:30	JETプログラム説明等		10:00-10:30 JETプログラム説明等		
	10:30-12:00	パネルディスカッション		10:30-11:00 サポートシステム等について (JETの経験を最大限に)		
				11:00-12:00 パネルディスカッション		
	12:00-13:00	昼食		12:00-13:00 昼食		
		CIR	ALT(非英語圏・中国語)	(非英語圏・韓国語)	ALT(英語圏)	
	13:00-14:00	CIRロールプレイ (CIRになってみよう!)	13:00-13:45	歓迎挨拶・基調講演: 文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室 専門職 藤田 輝之	13:00-13:45	歓迎挨拶・基調講演: 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子
	14:10-15:40		13:55-14:45	日本における中国語教育の現状: 神奈川県立弥栄高等学校 教諭 永田 千里子	13:55-14:45	MEXTプレゼンテーション1: 京都市立京都御池中学校 教諭 池田 あゆみ 京都市教育委員会 ALT マシュー 平川
			14:55-15:45	先輩ALTからの体験談及び指導助言: 長崎県立佐世保商業高等学校 ALT 劉 純子		14:55-15:45
	15:50-16:20	取りまとめ団体別ミーティング (中・韓・ブラジル)		15:55-16:55	TOAプレゼンテーション(オセアニア)	
	16:30-17:30	国別ミーティング(中・韓・ブラジル)		17:00-17:30	取りまとめ団体別ミーティング (オセアニア)	
18:30-20:00	歓迎夕食会					
4月13日(金)	各取りまとめ団体に向け出発					

※太枠部分が教員研修センター実施部分

平成25年度来日直後オリエンテーション A日程、B日程

A日程	B日程	時間	内容		
7月29日(月)	8月5日(月)	9:00 - 10:00	事前説明(都道府県別・政令都市別)		
		10:00 - 11:00	開会式・JETプログラムに関する重要事項の説明		
		11:00 - 12:00	基調講演		
		12:00 - 13:15	昼食		
		ALT分科会			
		13:15 - 13:45	文部科学省(MEXT)基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕(A日程) 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明(B日程)		
		13:45 - 14:45	文部科学省(MEXT)プレゼンテーション日本における外国語教育 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子(A・B日程) 石井町立石井中学校 教諭 武知 一誠(A・B日程) 宮城県石巻高等学校 教諭 今野 敦子(A日程) 京都府立東舞鶴高等学校 教諭 大槻 裕代(B日程)		
		15:00 - 15:45 16:00 - 16:45	小学校訪問分科会(MEXT) 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子(A・B日程) 京都府教育委員会 ALT Matthew Hirakawa(A・B日程)		
		16:00 - 16:45 17:00 - 17:45	(高等学校における表現活動の効果的な指導のしかた(MEXT)) 茨城県立竹園高等学校 Anthony Paxton(A・B日程)		
		17:00 - 17:45	CLAIR分科会 AJET分科会		
		12:00 - 13:15 15:15 - 18:00	AJETインフォメーション		
		18:30 - 20:00	夕食会		
		7月30日(火)	8月6日(火)	09:00 - 10:30	パネルディスカッション
				10:45 - 11:35	チームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画①(MEXT) 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子(A・B日程) 京都府教育委員会 ALT Matthew Hirakawa (A・B日程) 豊橋市立東陽中学校 教諭 山田 直也(A・B日程) 上越市教育委員会 ALT Jonathan Wheatcroft (A・B日程) 天草市立河浦中学校 教諭 岡崎 卓(A・B日程) 天草市立河浦中学校 ALT Zachary Johnson (A・B日程) 名古屋市教育センター 指導主事 植田 則康(A日程) 本部町教育委員会 ALT Kathryn Strong (A日程) 広陵町立真美ヶ丘中学校 教諭 立松 大祐(B日程) 広陵町教育委員会 ALT Michael Meyer(B日程) 千葉県立長生高等学校 教諭 百瀬 美帆(A日程) 千葉県立長生高等学校 ALT Jason H. Raymond (A日程) 京都府立東舞鶴高等学校 教諭 大槻 裕代(B日程) 京都府立東舞鶴高等学校 ALT Orrin Heath (B日程) 千葉県成田国際高等学校 教諭 戸村玲子(A・B日程) 千葉県成田国際高等学校 ALT Vincent Mazelr(A日程) 千葉県成田国際高等学校 ALT Shelby Brennan Alcott (B日程)
11:35 - 12:50	昼食				
12:50 - 13:40	チームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画②(MEXT) 座間市立南中学校 教頭 直井 恵子(A・B日程) 京都府教育委員会 ALT Matthew Hirakawa (A・B日程) 豊橋市立東陽中学校 教諭 山田 直也(A・B日程) 上越市教育委員会 ALT Jonathan Wheatcroft (A・B日程) 天草市立河浦中学校 教諭 岡崎 卓(A・B日程) 天草市立河浦中学校 ALT Zachary Johnson (A・B日程) 名古屋市教育センター 指導主事 植田 則康(A日程) 本部町教育委員会 ALT Kathryn Strong (A日程) 広陵町立真美ヶ丘中学校 教諭 立松 大祐(B日程) 広陵町教育委員会 ALT Michael Meyer(B日程) 千葉県立長生高等学校 教諭 百瀬 美帆(A日程) 千葉県立長生高等学校 ALT Jason H. Raymond (A日程) 京都府立東舞鶴高等学校 教諭 大槻 裕代(B日程) 京都府立東舞鶴高等学校 ALT Orrin Heath (B日程) 千葉県成田国際高等学校 教諭 戸村玲子(A・B日程) 千葉県成田国際高等学校 ALT Vincent Mazelr(A日程) 千葉県成田国際高等学校 ALT Shelby Brennan Alcott (B日程)				
13:55 - 14:45	中学校における表現活動の効果的な指導のしかた(MEXT) 佐賀市立成章中学校 教諭 芦原奈津子(A・B日程) 唐津市教育委員会 ALT Jordan Vaughan (A・B日程)				
15:00 - 15:50	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング				
16:05 - 16:55	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング				
17:15 - 20:00	取回への出発準備				

※太枠部分が教員研修センター実施部分

平成25年度来日直後オリエンテーション 第2次(C)日程

日付	時間	内容
8月22日(木)	9:30 - 9:45	開会式
	9:45 - 10:20	CLAIR情報提供・AJET紹介
	10:30 - 11:30	基調講演
	11:30 - 12:30	昼食
	12:30 - 14:00	全体会
	ALT分科会	
	14:10 - 14:55	MEXT基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕
	14:55 - 15:05	休憩
	15:05 - 15:55	MEXTプレゼンテーション1 千葉県立長生高等学校 教諭 百瀬 美帆 千葉県立長生高等学校 ALT Jason H. Raymond
	15:55 - 16:05	休憩
	16:05 - 16:55	MEXTプレゼンテーション2 千葉県立長生高等学校 教諭 百瀬 美帆 千葉県立長生高等学校 ALT Jason H. Raymond
	17:10 - 17:40	都道府県別ミーティング
	18:30 - 20:00	夕食会

※太枠部分が教員研修センター実施部分

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1 [アメリカ]：学校経営の改善）									
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ									
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。									
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者									
開催期日	平成25年10月27日（日）～平成25年11月7日（木）				12日間					
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	1	人	受講者数	16	1	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり									

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	15	0	0	0	1	0	16
割合 (%)	93.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	
	15	93.8					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・連邦機関→州→学区→学校という順に訪問させていただいたことで、次第に教育の流れが理解できた。
- ・シニアアドバイザーが、現地に精通されていたので、常に適切な助言をいただき、スムーズに進めることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。
- ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。
- ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。

次年度に向けて

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2 [イギリス] : 学校経営の改善）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開 催 期 日	平成25年11月18日（月）～平成25年11月29日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	15	0	0	0	0	1	16
割合 (人) (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの学校教育について学べた。学んできたことを自校に取り入れるばかりでなく、広く周囲にも広め、活用していけるようにしたいと思う。 ・大変有意義であった。現地に実際行ってみて気づくことも多々あり、もっと勉強しておけばよかったと思った。 ・訪問学校が、高い評価を受けている学校に集中していた。学校運営の改善ということを考えると、そうではない、課題を解決しようと努力している学校も、訪問校にあっても良いのではと思った。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1 [オーストリア]：言語力・コミュニケーション力の育成）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年11月11日（月）～平成25年11月22日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	22	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	19	3	0	0	0	0	22
割合(%)	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	22	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・学校現場の視察時間や校数を増やせると良いと思う。また、校長先生だけではなく、実際に授業を行っている先生方との研究、協議の時間が持てると良い。
- ・派遣中に成果・課題をまとめる時間が設定されていてとても良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。
- ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。
- ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。

次年度に向けて

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-2 [ドイツ]：言語力・コミュニケーション力の育成）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年10月27日（日）～平成25年11月7日（木）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	18	6	0	0	0	0	24
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ドイツの教育制度を知り、教育現場を目のあたりにすることで、ドイツの教育から学ぶべき点、日本の教育の優れている点を比較検討することができた。
- ・コミュニケーション力を育てる工夫もあり、参考となった

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。
- ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。
- ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。

次年度に向けて

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1 [フィンランド] :PISA型学力の育成）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年10月21日（月）～平成24年11月1日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	23	2	0	0	0	0	25
割合 (%)	92.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	25	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修中の疑問等にはすぐにアドバイザーの先生から指導があり、役立った。
- ・他校種の先生方と交流でき、刺激を受け、教育に向かう熱意を新たにした。
- ・海外研修期間中に「まとめ」等を行う時間を設定していただいたことは大変良かった。記憶や印象が新鮮なうちに振り返ることができ、効果的であったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。
- ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。
- ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。

次年度に向けて

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-2 [フィンランド] :PISA型学力の育成）									
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ									
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。									
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者									
開催期日	平成25年10月28日（月）～平成25年11月8日（金）				12日間					
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	1	人	受講者数	23	1	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり									

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	20	3	0	0	0	0	23
割合 (%)	87.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	23	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーからの講義は、事前に学習した内容を補完してくれるものであり、大変参考になった。 ・普段経験できない、外国の授業、教育事情等に触れることができ、大変充実した研修だった。 ・「百聞は一見に如かず」 より多くの教員にこの様な機会が与えられると良いと思った。教員研修においても、参加・体験型が大変有効であると再認識した。 ・授業者との協議ができると、より充実した視察になると思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-1 [ニュージーランド]：学校安全・防災教育の推進）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開 催 期 日	平成25年11月18日（月）～平成25年11月29日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	10	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	10
	9	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・今回の研修で、日本と海外の教育を比較することができ、日本の教育の問題点を自覚することができた。今回の研修で学んだことを生かしていきたい。
 ・今回の研修では通訳の方が訪問先国の教育事情に精通してみえたおかげで、訪問だけでは分からない部分を説明していただいた。通訳の方の力量が研修に大きく左右すると思った。
 ・日本と海外の教育システムから大きく違うところが多い。海外で得た調査結果をすべて日本に活用することは難しい面もある。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-1 [オランダ]：生徒指導・教育相談の充実）				
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ				
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。				
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者				
開催期日	平成25年11月18日（月）～平成25年11月29日（金）			12日間	
受講人数	受講定員 （計画人数）	※ 1 人	受講者数	16 1 人	参加率 ※
開催場所	別紙のとおり				

※ 全体受講定員（全体計画人数） 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

（人、%）

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	14 93.3	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	16
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修において他地域からの参加者から刺激を受け、さらに海外で同じ目標に向かって研修を受けることで、考えを深めることができた。
 ・学校での研修について、レベルが高い学校や同じような学校が多く、もっと異なる学校での研修が必要と思われる。
 ・視察後にグループごとに時間をとり、自主的にまとめを作成していた。それを全体で共有するためにも、研修のまとめについては、しっかりと時間を確保すべきであった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。
- ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。
- ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。

次年度に向けて

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-2 [イギリス]：生徒指導・教育相談の充実）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年11月6日（水）～平成25年11月16日（土）				11日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	18	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	12	6	0	0	0	0	18
割合(%)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	18	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・テーマに沿った研修が出来た。先進国イギリスの教育を学び、大変勉強になった。今後に活かしていきたいと思う。大変有意義な研修だった。
- ・2日間という短く限られた時間での事前研修会であるため、時間配分等については、今回のような形になると思われる。参加する者が、事前の勉強をして臨めば、更に質が高い研修となる。
- ・シニアアドバイザーのとてもためになる講義や指導助言でしっかりとした目的を見失わず研修を進めることができた。
- ・教育課題について、海外の先進的な内容を視察して日本の教育に生かすことは良い。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。
- ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。
- ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。

次年度に向けて

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-2 [アメリカ] : キャリア教育の充実）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年10月21日（月）～平成25年11月1日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	12	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	10	2	0	0	0	0	12
割合 (%)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	12	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修会で細かくテーマを決めてしまうと、行ってみて知ったこと、報告したいこととの間にずれが生じるため、現地に行って感じた疑問、追求してみたい興味も大切にしたい。
 ・実際に行ってみて、同じ年代の児童・生徒がIT機器によるわかりやすい授業を受けながら、自らの目標をしっかりと持ちながら学んでいる姿に危機感を感じた。この経験をできるだけ多くの方に伝えていきたいと思う。
 ・たいへん有意義で充実した研修であった。訪問先でのインタビューも満足のいくまで十分に行うことができ、たいへん有難かった。今後、研修成果の還元に努めたいと思う。
 ・校長先生、教務主任、大学教授、教育委員会等の方の話がほとんどで、組織的なことはよく分かったが、現場の教師や子どもたちの様子や意見をもう少し聞くことができるとよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-1 [イギリス] :スポーツ・健康教育の推進）									
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ									
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。									
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者									
開催期日	平成25年10月7日（月）～平成25年10月18日（金）				12日間					
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	1	人	受講者数	10	1	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり									

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	9	1	0	0	0	0	10
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・海外の教育の様子がわかり、大変参考になった。日本の良さも発見でき、視野が広がった。
- ・シニアアドバイザーの先生がいらっしゃるおかげで、協議もスムーズにできたと思う。
- ・もう少し授業を見たかった。学校の様子を案内してくれたのは大変勉強になったが、1単位をじっくりと見ることで得られることも多いのではないかと感じた。
- ・訪問の順番が、現地での情報収集の上で大切になると感じた。イギリスの教育事情やこちらの調査したい課題についてきちんとした情報提供をしてくれる行政機関を訪問した後、現場である学校を訪問するというような形にすると、情報が点ではなく線として広がりをもつと感じる。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。
- ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。
- ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。

次年度に向けて

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1 [アメリカ]：学校教育の情報化・ICTの活用）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年10月28日（月）～平成25年11月8日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	16	0	0	0	0	0	16
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの先進的な情報事情やICTによる授業の取組等、視察でき、大変有意義な研修を行うことができた。 ・文献からも想像はつきますが、実際に自分の肌で感じたことは大きい経験であったと思う。 ・渡航先の情報を、さらに詳しく説明してほしい。自分なりに調査はしたが、戸惑うこともあった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1 [イタリア] :特別支援教育の充実）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年11月4日（月）～平成25年11月15日（金）					12日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	18	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	17 94.4	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18
	18	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修会では、団ごとのテーマに沿った協議時間がたっぷり確保されており、調査・研究への見通しを大分明確に持つことができた。特に、団長やシニアアドバイザーの先生方による、現地における情報は、調査、研究テーマの方向性を考える上で、大変有効だった。

・イタリアの教育について見聞できたことはもちろん、同じ団の先生方と知り合えたことで他県の教育についての交流もできた。

・実際の現場、子どもたちの様子、先生方の生の声を聞いた。そして、今後私達がなさねばならぬことの使命について考えさせられた。

・支援学校の実態調査だったが、訪問先に支援の必要な生徒達が、実際に行った就職先（地元企業等）を見学できればよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-1 [オランダ]：学校と地域等の連携）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開催期日	平成25年9月30日（月）～平成25年10月11日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	15	4	0	0	0	0	19
割合 (%)	78.9	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	19	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他の都道府県の教員の方たちとつながりが持てるという点では、プラスアルファの部分が大変大きい機会だと実感した。何より、自己の視野が広がること、考え方や見方も明らかに研修前に比べてポジティブになっていると感じる。経済的な負担は大きいですが、それ以上の収穫があったと思う。早速、先日は地域の学校運営協議会の方々を対象に研修会が開催でき、多くの学びや新たな視点を共有することができた。 ・海外派遣研修は教員の視野を広めたり、モチベーションを高めるのに最適であると思う。今後も継続されることを希望する。 ・オランダは、一人一人の脳の発達に合わせた教育を施し、高等職業訓練学校があったり、反抗期でまともに勉強できなかった子に対し、後から学校に行けるバイパスが制度として用意している等、キャリア教育としてとても優れた国であると思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー一名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-2 [イギリス] :学校と地域等の連携）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者							
開 催 期 日	平成25年11月11日（月）～平成25年11月22日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 266 人、参加率 88.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	19	2	0	0	0	0	21
割合 (人) (%)	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大変だったけれど、それだけの成果はあったと思う。受入先の選定が重要だと思った。どんな所へ行くかによって、成果は大きく変わると思う。今回はとても良かった。 ・大変有意義な研修で、非常に充実していた。異校種の教員と異校種の学校を訪問できたことはもちろん有益であったが、教育課題によっては、校種ごとの訪問団の方が、焦点を絞れるのではないかと思う。 ・現地校の教職員宅にホームステイさせてもらうなど、もう少し時間をかけて交流が深められればよいと感じた。学校教育を取り巻く本音の部分の部分を少し知った上で、先進的な取組の情報を受け取ることができれば、帰国してからの活用につながるものと思われる。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の協議内容のさらなる充実を図る観点から、参加者決定時に、事前学習のための情報として、所属する派遣団のシニアアドバイザー名と訪問予定都市を明示するなど、早期の情報提供を行った。 ・各地域内での研修成果の活用を図るため、報告書をセンターのホームページ上に掲載した。 ・「事後研修会」について、研修内容の見直し、参加者の経費負担等の改善を図るため、廃止した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、派遣テーマの見直しを行う。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム

派遣テーマ	回数	派遣 団名	人数	派遣国	派遣期間	日数	事前研修会
学校経営の改善	2	A-1	16	アメリカ	10/27 ~ 11/7	12	8/22～23 大阪
		A-2	16	イギリス	11/18 ~ 11/29	12	8/15～16 東京
言語力・コミュニケーション力の育成	2	B-1	22	オーストリア	11/11 ~ 11/22	12	8/22～23 大阪
		B-2	24	ドイツ	10/27 ~ 11/7	12	8/20～21 東京
P I S A 型学力の育成	2	C-1	25	フィンランド	10/21 ~ 11/1	12	8/22～23 大阪
		C-2	23	フィンランド	10/28 ~ 11/8	12	8/22～23 大阪
学校安全・防災教育の推進	1	D-1	10	ニュージーランド	11/18 ~ 11/29	12	8/20～21 東京
生徒指導・教育相談の充実	2	E-1	16	オランダ	11/18 ~ 11/29	12	8/15～16 東京
		E-2	18	イギリス	11/6 ~ 11/16	11	8/15～16 東京
キャリア教育の充実	1	F-2	12	アメリカ	10/21 ~ 11/1	12	8/20～21 東京
スポーツ・健康教育の推進	1	G-1	10	イギリス	10/7 ~ 10/18	12	8/20～21 東京
学校教育の情報化・ICTの活用	1	H-1	16	アメリカ	10/28 ~ 11/8	12	8/15～16 東京
特別支援教育の充実	1	I-1	18	イタリア	11/4 ~ 11/15	12	8/20～21 東京
学校と地域等の連携	2	J-1	19	オランダ	9/30 ~ 10/11	12	8/22～23 大阪
		J-2	21	イギリス	11/11 ~ 11/22	12	8/15～16 東京

15 団 266 名

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員とする。							
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）				日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	37	人	参加率	37.0%
開 催 場 所	国立大学法人宇都宮大学ほか							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	34 91.9	3 8.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	37
	37	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・自分の研究以外にも、教授が参加する授業研究会（栃木県内の小中学校）に連れていっていただき、それがとても勉強になった。
 ・研究した教材を電子情報科3年の課題研究の授業で活用し、生徒の理解度に応じて、改良を加えていく予定である。
 ・私自身の場合、縁もゆかりもない大学へ内地留学をしたことが大変刺激となった。特に教員を目指す学生の様子がわかり、有意義であった。
 ・職業観について大変役立つ。仕事に対する考え方や、進め方、上司とのやり取り、お客様対応など、ビジネスマナーのノウハウが身に付き、生徒に指導することができた。
 ・スーパーサイエンスハイスクール指定校として数学分野でどう活動すればよいか、下地を作ることができた。又、教科指導法の研究のための計画をたてることができた。特に人間関係が広がったのが大きい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
 ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて
 ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		
			所 属	機関名	派遣時期	期間	
1	栃木県	12	真岡市立東沼小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 10. 1 ~ H26. 3. 31	6 ヶ月	
2			真岡市立真岡東中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 4. 1 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
3			壬生町立壬生中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 10. 1 ~ H26. 3. 31	6 ヶ月	
4			栃木市立藤岡第二中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 4. 1 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
5			佐野市立城北小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 4. 1 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
6			佐野市立三好小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 10. 1 ~ H26. 3. 31	6 ヶ月	
7			栃木市立大平南中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 4. 1 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
8			佐野市立常盤中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 4. 1 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
9			宇都宮市立泉が丘中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 4. 1 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
10			栃木県立宇都宮工業高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 10. 1 ~ H26. 3. 31	6 ヶ月	
11			栃木県立宇都宮商業高等学校	大原簿記情報ビジネス専門学校	H25. 10. 1 ~ H26. 3. 31	6 ヶ月	
12			栃木県立栃木商業高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H25. 10. 1 ~ H26. 3. 31	6 ヶ月	
13	群馬県	1	群馬県立前橋清陵高等学校	群馬医療福祉大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
14	長野県	1	長野県岡谷工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H25. 5. 1 ~ H26. 3. 31	11 ヶ月	
15	愛知県	4	愛知県立知立東高等学校	愛知教育大学	H25. 4. 1 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
16			愛知県立安城農林高等学校	石川植物園	H25. 5. 14 ~ H25. 8. 13	4 ヶ月	
17			愛知県立一宮商業高等学校	ブレーションコンピューター株式会社	H25. 4. 15 ~ H25. 9. 30	6 ヶ月	
18			愛知県立知立高等学校	愛知大学	H25. 9. 2 ~ H25. 11. 29	3 ヶ月	
19	京都府	3	京都府立桃山高等学校	国立大学法人 京都大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
20			相楽東部広域連立和東小学校	大阪大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
21			福知山市立桃映中学校	大阪大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
22	和歌山県	1	和歌山県立紀北工業高等学校	国立大学法人 和歌山大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
23	岡山県	1	岡山県立津山商業高等学校	国立大学法人 岡山大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
24	高知県	1	高知県立高知農業高等学校	高知県農業技術センター	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
25	福岡県	1	福岡県立若松商業高等学校	中村学園大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
26	佐賀県	3	佐賀県立牛津高等学校	学校法人永原学園 西九州大学佐賀調理製菓専門学校	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
27			佐賀県立高志館高等学校	学校法人永原学園 西九州大学佐賀調理製菓専門学校	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
28			佐賀県立佐賀商業高等学校	麻生情報ビジネス専門学校	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
29	熊本県	1	熊本県立玉名工業高等学校	崇城大学	H25. 10. 1 ~ H26. 3. 31	6 ヶ月	
30	宮崎県	2	宮崎県立宮崎農業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H25. 10. 1 ~ H25. 12. 27	3 ヶ月	
31			宮崎県立宮崎工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H25. 12. 2 ~ H26. 2. 28	3 ヶ月	
32	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	H25. 9. 15 ~ H25. 12. 15	4 ヶ月	
33	熊本市	1	熊本市立田底小学校	国立大学法人 熊本大学	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
34	大阪府	1	大阪府立佐野工科高等学校	ワタナベ忠電株式会社	H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31	12 ヶ月	
35	山口県	3	山口県立宇部工業高等学校	独立行政法人国立高等専門学校機構宇部工業高等専門学校	H25. 8. 1 ~ H25. 10. 31	3 ヶ月	
36			山陽小野田市立竜王中学校	国立大学法人 山口大学	H25. 6. 1 ~ H25. 8. 31	3 ヶ月	
37			周南市立岐陽中学校	国立大学法人 山口大学	H25. 7. 1 ~ H25. 9. 30	3 ヶ月	
		37					

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業A-1）「生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成25年8月5日（月）～平成25年8月9日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	15	人	参加率	75.0%
開 催 場 所	静岡県立静岡農業高等学校（静岡県静岡市）							

※ 全体受講定員 240人、受講者数 221人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	12 80.0	3 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容が順序だてて組み立てられており、整理しやすい構成であった。他の科目との関連性などについても理解が深められるとよかった。各実践例は研修内容に即しており理解を深めるには適切であった。講義を段階的に踏まえながらプログラムづくりができたのは実践的で今後に生かせる自信を持てた。 ・各講義の講師の先生方の話が、それぞれ個性的でしたが、自分に合うコミュニケーション技術が高く、大変理解しやすく、参考になった。また、それぞれの中身に情報が多く、熱意も高く、個人的に引き込まれ一ファン的な感動を感じた。 ・教科の在り方や評価方法等を理解する事が出来て非常によかった。このような研修がある事が、今年初めて知ったので、多くの先生方が参加して欲しいと感じた。現場では本研修内容を報告し充実した教科内容にして授業を展開したい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修は、毎年度実施予定であり、平成25年度の実施団体に引き続き委託する予定であったが、同団体から、平成26年度は、実施不可の回答があった。そのため、文部科学省とも相談したが、他に適当な委託先がなかったため、平成26年度は、休止する。 ・次回は、平成27年度実施予定である。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B－1）「技術者倫理・法令遵守・安全教育等に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成25年8月20日（火）～平成25年8月24日（土）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	29	人	参加率	145.0%
開 催 場 所	金沢工業大学（石川県野々市市）							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	25 86.2	4 13.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29
	29	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・様々な知識を身に付けることができ、大変有意義な研修だった。今後、更に深めるとともに、しっかりと活用し、社会に還元していきたい。</p> <p>・5日間の研修を通して、知見の範囲が広がった。「安全教育」については、本校に持ち帰り、導入を誠みたいと考えている。技術者倫理については、生徒の力量を見ると、容易に導入判断できるとは考えにくく、カリキュラムマップなどを見極めながら、今後の参考としたい。</p> <p>・金沢工業大学の安全・整理・整頓への取組みは本校でも見習うべきだと感じた。科学技術者倫理についてもチャレンジャー事故の実例やケースメソッドの体験的な討議をとおして気がついたら討議にのめりこんでいた。今回の研修を活かし、福島県の高校生または本県、教職員への安全教育・技術者倫理教育に役立てて行くつもりである。</p> <p>・安全ではなくリスクについて細かい所から実践まで多くの事が学べた。リスクアセスメントなどもっと上の方が聞いておいた方が良いのではと思う話も多々あった。自分は機械科長なのでまずは自分の科から少しずつでも実践していきたいと思う。今回の講義は一部に留めるものでなく全学校に広めていかなければならないと思った。</p>
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 25 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工 業 : B - 1)

団体名 : 金 沢 工 業 大 学

時 限	1 時限 8:40~10:10	2 時限 10:30~12:00	昼休み	3 時限 13:00~14:30	4 時限 14:50~16:20	自主活動時間 16:40~18:00				
日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8 月 20 日 (火)	開講式・ オリエン テーション	(講義) 安全① 教育機関に おける安全	(講義) 安全② 企業における安全の 取り組みと 5 S	(講義・演習) 安全③ 安全と関係法令ならびに 法令遵守	(講義・演習) 安全④ 危険予知訓練					
8 月 21 日 (水)	(講義・演習・見学) 安全⑤ 安全パトロールと 危険要因抽出	(講義・演習) 安全⑥ 作業事故未然防止策の 検討と F T A (1)	(講義・演習) 安全⑦ 作業事故未然防止策の 検討と F T A (2)	(講義・演習) 安全⑧ 作業事故未然防止策の 検討と F T A (2)	(講義・演習) 安全⑨ 安全と 5 S の関係	(グループ協議)				
8 月 22 日 (木)	(講義・演習) 安全⑩ 安全と 5 S の関係	(講義・演習) 技術者倫理④ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (1)	(講義・演習) 技術者倫理⑤ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (2)	(講義・演習) 技術者倫理⑥ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (3)	(講義) 技術者倫理① 技術者倫理の概要	(グループ協議)				
8 月 23 日 (金)	(講義) 技術者倫理③ 技術者倫理の考え方と 近年の国際的動向	(講義) 技術者倫理⑦ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (4)	(講義) 技術者倫理⑧ 技術者の社会的責任 (2) と まとめ	(講義・演習) 技術者倫理② 技術者の社会的責任 (1)	(講義・演習) 技術者倫理③ 技術者の倫理の概要	(グループ協議)				
8 月 24 日 (土)	(講義・演習) 技術者倫理④ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (1)	(講義) 技術者倫理⑤ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (2)	(講義) 技術者倫理⑥ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (3)	(講義・演習) 技術者倫理⑦ 倫理的問題解決のための 具体的技法 (4)	(講義) 技術者倫理⑧ 技術者の社会的責任 (2) と まとめ	(グループ協議)				

実施会場 : 金 沢 工 業 大 学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C－1）『教科「商業」における授業改善に関する講義と実習』							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成25年7月29日（月）～平成25年8月2日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	40	人	受講者数	47	人	参加率	117.5%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	47
	47	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な講習を通して、私自身の授業改善に大変有意義なものばかりであった。また、指導上の留意点や評価の観点等も具体的に例示され、とても分かりやすかった。 ・新学習指導要領を踏まえた講義ばかりだったのでとても勉強になった。イメージがもてなかったものももてるようになった。また、自分自身の意識もかわった。 ・とても有意義な時間が過ごせた。なかなか体験できないので、参加させていただきよかった。商業教育の課題については、学校へ持ち帰り、また商業科全体で話し合い、良い方向性を見出していきたいと思う。 ・日本各地の商業の先生方と情報を交換できた事、そして何より、先進的な取り組みをされている学校の先生の講義を受けることができ、非常に刺激になった。先生方の行動力に圧倒されたが、今、危機的状況にある商業教育を行う教員に一番求められているのはこれではないかと思った。学校へ戻り、研修内容を職員へ報告し、実践していけるよう率先して頑張っていこうという気持ちを持つことができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式 1)

平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(商業, C-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月29日 (月)	受付	開講式 (講義) 「商業科における授業改善と学習評価」 西村調査官	(講義) 「高等学校における起業家教育とケースメソッドについて」	(グループ研究) 「魅力ある商業教育①課題と解決策」	昼休み	(講義) 「商品開発と知的財産権」	(講義) 「高等学校における商品開発」		
	7月30日 (火)				昼休み	(講義：見学) 東京デイズニージーと経営管理			
7月31日 (水)	(講義) 「商業高校における会計教育の意義と期待」	(講義) 「起業家教育とケースメソッドについて」	(講義) 「グループ研究」 「高等学校におけるケースメソッド教育の取組」	(講義) 「グループ研究」 「魅力ある商業教育①課題と解決策」	昼休み	(講義) 「グループ研究・協議」 「魅力ある商業教育③」	(講義) 「グループ研究・協議」 「魅力ある商業教育④」	(グループ研究・講義) 「魅力ある商業教育②」 「課題と解決策」	
	8月1日 (木)	(講義と実習) ネットワーク管理入門 ①			昼休み	(講義と実習) ネットワーク管理入門 ②			
8月2日 (金)	(講義) 「思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導」	(講義) 「ビジネス情報教育の指導」	(講義) 「グループ研究・協議」 「魅力ある商業教育③」	(講義) 「グループ研究・協議」 「魅力ある商業教育④」	昼休み	(グループ研究・協議) 「魅力ある商業教育③」	(グループ発表) 「魅力ある商業教育④」	閉講式	

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産D－1）「6次産業化に向けた水産技術に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成25年8月5日（月）～平成25年8月9日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	12	人	参加率	80.0%
開 催 場 所	東京海洋大学（東京都港区）							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12
	12	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・多くの先生方に熱意を持って指導していただき、勉強になった。・活用できる内容については、勤務校に帰って実践したいと考えている。
・スキルアップできた。内地留学したいと思うほど多彩な内容で新しいことを学べた。他県の先生や大学の先生とのつながりが強くなった。先生方が水産について深い思い入れを持っておられることを知り、心強く思った。
・すばらしい協議、演習等の数々であった。
・全体を通して、実に意義のある内容で、勉強になった。自分の知識が化石の様に古い物であり、新しい情報を常に仕入れる必要も感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修は、隔年実施で、本来、平成26年度が実施予定であったが、平成25年度に前倒し実施しているので、平成26年度は実施しない。 ・次回は、平成28年度実施予定。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(水産：D-1)

団体名：東京海洋大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月 5日 (月)	午前1 (9:00 ~ 10:30)	午前2 (10:45 ~ 12:15)	午後1 (13:15 ~ 14:45)	午後2 (15:00 ~ 17:00)					
担当講師					開講式	(講義) はじめに 13:45~15:15 文部科学省教科調査官 瀧田 雅樹	(講義) 水産と海洋科学(物理) 15:30~17:00 東京海洋大学名誉教授 松山 優治		情報交換会 (生協食堂)
8月 6日 (火)	(講義) 海洋科学(生物と放射能) 9:00~10:30 東京海洋大学特任教授 石丸 隆	(講義) 海洋科学(化学) 10:45~12:15 東京海洋大学大学院教授 神田 穰太	屋休み	(実習) 海洋観測実習-1,2(ひよどり乗船) 13:15~17:00 東京海洋大学大学院教授 神田 穰太	屋休み				
担当講師									
8月 7日 (水)	(講義) 漁船一般 9:00~10:30 東京海洋大学大学院教授 武田 誠一	(講義) 資源管理 10:45~12:15 東京海洋大学大学院教授 田中 栄次	屋休み	(講義) 食品工学 13:15~14:45 東京海洋大学大学院教授 鈴木 徹	(実習) 食品工学に関する実験 15:00~17:00 東京海洋大学大学院教授 鈴木 徹				
担当講師									
8月 8日 (木)	(講義) 養殖 9:00~10:30 東京海洋大学大学院教授 竹内 俊郎	(講義) 経済・経営・流通・水産法規 10:45~12:15 東京海洋大学大学院教授 馬場 治	屋休み	(講義) 漁業 13:15~14:45 東京海洋大学大学院教授 有元 真文	(実習) 漁業科学に関する実験 15:00~17:00 東京海洋大学大学院教授 有元 真文				
担当講師									
8月 9日 (金)	(講義) 食資源利用化学 9:00~10:30 東京海洋大学大学院准教授 石崎 松一郎	(講義) 食の安全・安心 10:45~12:15 東京海洋大学大学院教授 濱田 奈保子	屋休み	(講義) マリンスポーツ 13:15~14:45 東京海洋大学大学院准教授 千足 耕一	閉講式				
担当講師									

実施会場：品川キャンパス 白鷹館 会議室

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E-1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービスなどの生活産業に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成25年8月5日（月）～平成25年8月8日（木）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	28	人	参加率	140.0%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区）他							

※ 全体受講定員 240人、受講者数 221人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	27 96.4	1 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	28
	28	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・期待をはるかに越える充実した内容に研修の意義を実感した。4日間とも学ぶことは楽しい、もっと学んでみたいという気持ちにさせる、教える側の指導法、情報提供や教材準備など学び、自己の指導を省えりみることもできた。</p> <p>・全部は無理かもしれませんが、今回学んだことを自分なりにアレンジして授業に活用していきたいと思う。</p> <p>・今後の長い期間で考えていくべき事と、すぐに生徒に還元できる、すぐに授業で使える事の両方を得ることができた。多くの他県の先生方との交流もできた。頑張りたい、やってみたいと思う気持ちが高まった。最後には、授業への活かし方、評価の仕方もあることができ、この研修を県の家庭料の先生方に伝えていきたいと思う。</p> <p>・私は食物系出身であるが免許のため大学で被服と住居も半々学んだ。当時学んだことから時代の変化もあり、どの分野も新しい情報を得られとても満足している。通信時代の専門を含め5科目、フードデザイン、子どもの発達と保育、服飾文化、家庭総合、家庭基礎をやったのでそれらすべてに必要なものばかりであり大変参考になった。4月から特別支援学校に転勤したが自立を目標としている生徒に役立てたいと思う。</p> <p>・最初は、とまどうことも多かった授業工夫や評価の観点も、今回の研修を受けて、たくさんの情報を得ることができた。授業で使える教材や、最新の情報など、今回の研修に出席していなければ得られないこともあり、有意義な研修であった。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程 家庭E-1

全国高等学校長協会家庭部会

月日 (曜日)	午前1 (9:30~11:00)		午前2 (11:00~12:30)		昼休み		午後1 (13:30~15:00)		午後2 (15:00~16:30)		会場
	9:30	10:00	11:00	12:00	12:30	13:30	15:00	15:30			
1 8月5日 (月)	【開講式】	【講義】 「家庭科における 授業改善の視点」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【講義】 「家庭科は生徒を育て、学校を変え る！」 一家庭クラブ活動と地域連携」 秋田大学教育文化学部 准教授 佐々木信子 (前秋田県立雄物川高等学校長)				【講義】 授業実践事例① 「思考力・判断力・表現力を はぐくむ指導の工夫」 茨城県立太田第二高等学校 校長 柴田 京子	【講義】 授業実践事例② 「子どもと関わる力を高める指導の 工夫 保育技術検定の進め方など」 埼玉県立鴻巣女子高等学校 教諭 須田 敦子			全国高等学校 長協会家庭部 会事務局 (千代田区)
2 8月6日 (火)	【講義】 「ファッショントレンド」 杉野服飾大学 教授 織田 晃	【講義】 「現代衣服の黎明期 —ウオルトとドゥーゼー—」 見学」 杉野服飾大学 教授 北折 貴子 教授 吉川 玲子	【体験】 「衣装博物館 見学」 杉野女子大学 教員 鈴木美和子			【講義】 「ファッションカラーコーディネート」 演習 —色彩の基本と応用— 杉野服飾大学 教授 樽松 次郎 教授 肉丸 美香子	【講義】 「新素材紹介」 杉野服飾大学 准教授 軽部 幸恵	【講義】 「ドレス構成 (教育環境見学)」 杉野服飾大学 教授 水野 真由美			杉野服飾大学 (品川区)
3 8月7日 (水)	【講義】 「思春期の栄養と生活習慣病一次 予防の食生活」 東京栄養食糧専門学校 校長 石井國男	【講義】 「思春期の食事摂取基準と健康的な 食生活へのアプローチ」 東京栄養食糧専門学校 講師 脇村 智子				【講義】 「テーブルコーディネート概論」 ～日々の暮らしは食卓から～ 東京栄養食糧専門学校 講師 和崎 恵子	【講義・実習】 「季節の彩り」はお花で」 東京栄養食糧専門学校 講師 井越 和子 講師 高橋ひろみ 助手 1名				東京栄養食糧 専門学校 (世田谷区)
4 8月8日 (木)	【講義】 「家庭科における消費者教育 を推進するためには」 消費者教育支援センター 総括主任研究員 柿野 成美	【講義】 「安全・安心な住居をデザインする」 日本女子大学家政学部 住居学科 教授 平田 京子				【まとめ・研究協議】 「授業の工夫」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【閉講式】				全国高等学校 長協会家庭部 会事務局 (千代田区)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F-1）「看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成2年7月30日（火）～平成25年8月2日（金）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	19	人	参加率	95.0%
開 催 場 所	川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	16 84.2	3 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	19
	19	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 平成12年度の参加から2回目の受講であったが、新しい内容もあり、知識も広がった。講義・見学・演習と内容も盛り沢山で時間が足りない位熱心に指導して頂き、ありがたかった。環境設定にも配慮して頂き、集中して講義を受けることができた。今後、専門領域の先生方にも学校、県単位での研修会にも協力、助言頂ければ幸いである。 あらゆる視点からの研修をさせていただき、学び得ることが多くあった。実際に院内の教育体制や設備等も拝見し、自校に戻り他教員にも伝えていきたいと思う。 講義の内容はとてよかったと思う。日頃の業務で疑問に感じることや考えていることに近く、勉強になった。資料についても分かりやすく、話の内容も充実していた。最先端の医療や教育設備について学ぶことができてよかったと思う。素晴らしい施設、教員の方々だと感じた。 指導者養成研修ということで、教育学から、現代の学生の特性をふまえた指導方法、事例を通して教材化することの意義など、本当に多くのことを学べた。まだまだ勉強不足で、分からないこともあったが、ここで感じたこと、学んだことを伝えていきたいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修内容を見直しつつ、研修実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 25 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

看護 (F-1)

1. 期 間 平成 25 年 7 月 30 日 (火) ～平成 25 年 8 月 2 日 (金)
2. 会 場 学校法人 川崎学園 川崎医療福祉大学
〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288 番地
電 話：086-462-1111 (担当：波川 内線：54903)、F A X：086-464-1109

3. 講義内容

日時	9:00	10:00	10:15	10:30	11:30	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	16:30
7 月 30 日 (火)		受付	開講式	(講義) 「看護基礎教育 の動向」	昼食および交流会	(講義) 「看護教育の課題」	休憩	(講義) 「看護理論から看護 実践へ」	休憩	(講義) 「臨地実習を支え る取り組み」		
7 月 31 日 (水)	(講義) 「院内感染の最近 の動向とその予防 対策」	休憩	(講義・見学) 「災害時における DMAT (災害派遣医療チーム) の 活動」	昼食	(講義) 「看護管理と卒後 教育のあり方」	休憩	(実習) 「川崎医科大学附属 病院卒後臨床研修セ ンター実習」	休憩	(講義・実習) 「医療情報の包括 的管理および実習 指導における電子 カルテの活用の実 際」			
8 月 1 日 (木)	(講義) 「医療福祉専門職 の育成」	休憩	(講義・演習) 「臨地実習指導 - 臨地場面の教材化から指導のアプローチと評価 -」 <★昼食は適宜>									
8 月 2 日 (金)	(講義) 「看護実践の意味」	休憩	研修全体の振り返り 返り・総括	閉講式								

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G-1）「ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成25年7月29日（月）～平成25年8月2日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	15	人	参加率	75.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	12 80.0	3 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修全般的に、進度が早くもなく遅くもなく、余裕を持って研修ができた。また、実技研修においては、PCの設備・環境を研修のために整備していただき、素晴らしい環境の中で、実技研修をさせて頂いた。 ・これまで経験のある技術については論理的に理解でき、さらに新たな知識・技術を習得できたと思う。また、授業の実践例、様々な学校の先生方の活動をお聞きすることもでき、大変貴重な体験であった。今後の教育活動にいかしていきたいと思う。 ・情報教育を推進していく中で、大変有用な研修であった。今後の教育活動を展開していく中での大きな指針となった。また、他の先生方との交流の中で、他校の状況や取り組み等、多くの事を知る事ができた。この研修を機会として、今後も交流を深めていきたい。 ・部分的に授業で直接使えそうなネタが拾えた。もう少し自分なりに勉強をしてスキルアップにつなげるとともに、周囲の先生方にも伝達していこうと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(情報, G-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月29日 (月)	受付	開講式 文部科学省 視学官 講話	(講義) ネットワークの基礎 ①(LAN作成)	昼休み	(講義実習) ネットワークの基礎 ②(LAN接続)③(無線LAN)	(講義実習) ネットワークの基礎 ① (IP)	(講義実習) ネットワークの基礎 ②(無線LAN)	(講義実習) ネットワークの基礎 ③ (IP)	(講義実習) ネットワークの応用
	7月30日 (火)	(講義実習) ネットワークの応用 ② (ファイル共有)	(講義実習) Webサーバーの構築とHTML①	昼休み	(講義実習) Webサーバーの構築と HTML ②	(講義実習) Webサーバーの構築と HTML ③	(講義実習) Webサーバーの構築と HTML ②	(講義実習) Webサーバーの構築と HTML ③	(講義実習) Webサーバーの構築と HTML ③
7月31日 (水)		(講義実習) ダイナミックHTML①	昼休み	(講義実習) ダイナミック HTML②	(講義実習) Webアプリケーション ①	(講義実習) Webアプリケーション ①	(講義実習) Webアプリケーション ①	(講義実習) Webアプリケーション ①	(講義実習) Webアプリケーション ①
	8月1日 (木)	(講義実習) Accessによるシステム設計	昼休み	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計
8月2日 (金)		(講義) 授業実践例	(講義実習) Webアプリケーション②	昼休み	(講義実習) Webアプリケーション③	(講義実習) Webアプリケーション③	(講義実習) Webアプリケーション③	(講義実習) Webアプリケーション③	(講義実習) Webアプリケーション③

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-1）「これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価」							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成25年8月5日（月）～平成25年8月9日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	17	人	参加率	85.0%
開催場所	宮城教育大学(宮城県仙台市)							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりに大学に足を運び、学ぶことを通して、知識や技能を身に付ける楽しさ、学習することのおもしろさを実感することができた。また常日頃、目の前の問題にのみ対応し、本来指導者としてあるべき姿が自分には欠けていた事にも気付かせていただいた。さらに各地区から集まった先生方とつながりができたことも財産である。この機会を生かし、今後も技術科教諭としての力量を高めることに尽力していきたい。 ・授業の題材選定は、技術科の学習において大変重要である。日頃よりどのような題材で何を教えればいいのか考え、悩んでいたが、本研修に参加することで、たくさんの魅力的で可能性の広がる教材に触れることができた。本研修で学んだ内容を授業で生かすだけでなく、地域の技術科教育に還元していきたいと思う。 ・新しいこと、再認識、再確認できたことなど、新鮮さと使命感をより一層もつことができた。今回学んだことを自分のものだけにせず、他に広げ、また、自分自身成長したいと思えた。 ・4領域をあらためて、学び直したという印象だった。適度な緊張感があり、自分の甘さにも気付くことができたと思う。今後は学んだことを、学校はもとより、管内の学校に還元できたらと思う。 ・実習を中心とした研修内容と、その中には、確かな理論の裏づけがあり、どの講義も自分にとって大変勉強になるものであった。材料と加工、エネルギー変換情報、生物育成を、すべての内容について最先端の技術教育の知識と技術が学べたことは、今後の技術科教育として必ず、プラスになると感じている。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修は、平成25年度より、隔年実施となったので、平成26年度は実施しない。 ・次回は、平成27年度実施予定。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙1)

平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭：I-1)

団体名 国立大学法人 宮城教育大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
8月5日 (月)	受付 9:00-	開講式 9:30- 9:50	(講義 (実習を含む)) 新しいものづくり教材 と技術科教育 10:00-11:30	(実習) 材料加工 (鉋の刃 研ぎ治具・木材加 工小作品の製作) 11:40-12:40	昼休み	(実習) 材料加工 (鉋の刃研ぎ 治具・木材加工小作品 の製作) 13:30-15:00	(実習) 材料加工 (鉋の刃研ぎ 治具・木材加工小作品 の製作) 13:30-15:00	(実習) 材料加工 (鉋の刃研ぎ 治具・木材加工小作品 の製作) 15:10-17:10		
	8月6日 (火)	(講義 (実習を含む)) 電気の基礎知識と LED 9:00-10:30	(講義 (実習を含む)) システムの授業設計の方 法 10:40-12:10	昼休み	(講義 (実習を含む)) 動機付けモデルによる授業の仕掛 けづくり 13:00-15:00	(講義 (実習を含む)) 技術教育における ICT の活用 15:10-17:10				
8月7日 (水)	(講義) 風車の形式とエネルギー 一変換機構 9:00-10:30	(実習) 風車の設計と製作 10:40-12:10	昼休み	(実習) 製作した風車の評価 13:00-14:30	(講義 (実習を含む)) 省エネルギー 一照明としての LED の活用 14:40-15:40	(講義 (実習を含む)) 色々な素材を使った LED の インテリア工作1 15:50-17:20				
	8月8日 (木)	(講義) 生物育成の教育 内容と教材の選択 9:00-10:30	(実習) 短期間や狭い場所 でも実践できる作物栽培の 体験(ペットボトル・袋栽 培、水耕栽培、棚仕立て栽 培) 10:40-12:10	昼休み	(実習) 短期間や狭い場所でも実 践できる作物栽培の体験(ペット ボトル・袋栽培、水耕栽培、棚仕 立て栽培) 13:00-15:00	(講義) 生物育成における新しい技 術とその活用 (農薬・肥料・植物工 場・バイオテクノロジー) 15:10~17:10				
8月9日 (金)	(講義 (実習を含む)) 色々な素材を使った LED のインテリア工作2 9:00-10:30	(講義 (実習を含む)) ロ ボットを活用したコンピュ ータ制御学習 10:40-12:10	昼休み	(講義 (実習を含む)) ロボットを 活用したコンピ ュータ制御学習 13:00-14:00	(講義) 将来世代育成のための技 術教育 14:10-15:40	閉講式 15:50-16:20				

実施会場：国立大学法人宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-2）「これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成25年8月5日（月）～平成25年8月9日（金）				5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	10	参加率	40.0%
開 催 場 所	鳴門教育大学(徳島県鳴門市)						

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	8 80.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10
	10	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・知識として多少知っていることや、まったく知らないことについて、研修をさせていただき、今後の授業について生かせるような内容もあり、興味をもって取り組むことができた。 ・全てを理解することはできなかったが、本当に勉強になった。また、他府県の技術科教員と交流する事ができ、大変有意義な研修期間であった。5日間、実習中心の講座を開いていただき、現場で即使える体験もさせていただき、研修を受けて良かった。 ・改めて学ぶべき点（自分の課題）を知り、さらなる研究が必要であると感じた。 ・将来的に活用できそうな内容も多く、得るものがあった。 ・研修で、得た内容を子どもたち及び、地域の技術科教員に普及していきたいと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(技術：I-2)

団体名 鳴門教育大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成25年 8月5日(月)	開講式	(講義) これからの技術・家庭(技術分野)と評価	昼休み	昼休み	(講義) 計算機器の変遷	(実習) 技術教材の利用			
8月6日(火)	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク	昼休み	昼休み	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク				
8月7日(水)	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工	昼休み	昼休み	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工				
8月8日(木)	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御	昼休み	昼休み	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御				
8月9日(金)	(研究協議) 第1・2・3班： 技術教育ディスカッション (各班での協議)	昼休み	昼休み	(研究協議) 技術教育ディスカッション (全体発表)	(研究協議) 技術教育ディスカッション (全体発表)	閉講式			

実施会場： 鳴門教育大学

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）「学校における食育の推進：教科「技術・家庭」における食に関する指導（講義と実習）」							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成25年8月19日（月）～平成25年8月22日（木）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	16	人	参加率	64.0%
開催場所	横浜国立大学(神奈川県横浜市)							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	15	1	0	0	0	0	16
割合 (%)	93.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の先生方に講義して頂いたり、他の先生方と一緒に演習に取り組んだり、地区の研修ではできない研修の機会になった。今回学んだ内容を自分なりに整理して、自分の地区の先生方と、情報を共有していきたいと思う。様々な先生方とのネットワークも広がり研修に参加でき、良かった。 ・自分の県でもこれまで積極的に研修に参加していたが、今回の研修では食品群と食事バランスガイドの違いや、「調理実習を通して」「比較する活動」など新たに大切な知識をたくさん得ることができた。研究会等で指導・助言、実践発表を行うことも多く、自己流の解釈で話をしまっていた部分もあり、自分の実践も含めて再度見直していく必要性を感じた。今回学んだことを、多くの先生方に還元できるよう努めたいと思っている。 ・家庭科教育の第一線で、活躍されている先生方のお話を、直接うかがうことができたこと…大変貴重な研修となった。また全国の先生方と交流できたことも、これからの実践につながる刺激となった。今回学んだことをこれからの実践にかすとともに、地域の研究会等でも広めていきたいと思う。 ・多くの気づきを与えてくれた研修であった。他府県の先生方を交流できたことも今回の研修での収穫である。研修のスタイルも講義、ワークショップ、実習、場所を変えての実習等、バラエティに富んでいてよかった。今回の研修で学び得たことを学校現場での実践につなげたいと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭 : J-1-1)

団体名 : 横浜国立大学

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00	17:30
8月19日 (月)		受付	開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会 オリエンテーション 10:15-10:25	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における学習指導と評価」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:30-12:00	昼食	(講義)「ワークシopp)「技術・家庭科における食の授業デザイン」」 (担当)堀内かおる(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			(演習) 「学習指導案立案作業」① 16:10-17:30	
8月20日 (火)		(講義・演習) 「献立作成の指導 -食品群と食事バランスガイドについて-」 (担当)金子佳代子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 9:00-12:00			昼食	(実習)「環境を考えた調理実習の実践について」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 東京ガス株式会社 横浜ショールーム 13:30-16:30				
8月21日 (水)		(実習)「食品選択能力を高める調理実習指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 第1研究棟 312室 調理学実験実習室 9:00-12:00			昼食	(講義)「新学習指導要領における食に関する指導の充実」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告)「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 30分×2人、質疑応答30分 (担当)青柳幸恵(東京都文京区立茗台中学校教諭) 穴原典子(群馬県桐生市立新里中学校教諭) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			(演習) 「学習指導案立案作業」② 16:10-17:30	
8月22日 (木)		(講義)食の現代的問題1 「食育における食品安全性」 (担当)山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 研究員) 教育文化ホール 中集会室 9:00-10:25	休憩十分	(講義)食の現代的問題2 「食をテーマに考える消費生活と環境」 (担当)松葉口玲子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 10:35-12:00	昼食	(ディスカッション) 「技術・家庭科での食に関する学習指導案発表」 (担当)金子佳代子、杉山久仁子(横浜国立大学教授) 13:00-14:30	閉講式 14:40 開会 14:42 挨拶 14:50 修了証授与 15:00 閉会 アンケート回収 諸連絡			

実施会場 : 横浜国立大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-2）「幼児触れ合い体験と幼児理解に関する指導（講義と演習、実習）」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成25年8月20日（火）～平成25年8月23日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	13	人	参加率	86.7%
開 催 場 所	東京学芸大学【東京都小金井市】							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 221 人、参加率 92.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13
	13	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他県の先生方のすばらしい考えや取り組みを聞くことができ、大変有意義だった。専門ではない幼児の学習を改めて知識として学習し、保育園等で実習までさせていただけたことは今後生徒へ授業をする上で、役立つと思う。学校へ戻り、ふれあい体験がより充実するように工夫していきたい。 ・4日間、様々な視点からの講義・演習をしていただき、今後の教員生活に役立てることをたくさん得ることができた。 ・特に2日目、3日目の保育観察では、子どもたちと実際にかかわりながら発達段階のちがひ、異年齢クラスのよさなど、自分自身も体験する中で、理解を深めることができた。ふれあい体験のあり方、など、今後、地域の中でも実践を広めていきたい。 ・大学を修了して、学ぶことに自然と飢えていたのだと、驚いた。どの講義も興味深く、少しも無駄にしたくないとの意欲を持って受講することができた。また新しい気持ちで、採用されたときのようにフレッシュな気持ちに返り、子どもたちの教育にかかわれそうである。 ・講義はもちろん、全国の先生方との交流の中でも、とても学ぶことが多く、これからふれあい体験を行う、意欲が向上した。よい学びになるよう、私も努力をしたいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修は、隔年実施のため、前年度は実施していない。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修は、隔年実施であるので、平成26年度は実施しない。 ・次回は、平成27年度実施予定。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別添 1)

平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修日程
 一 幼児触れ合い体験と幼児理解に関する指導（講義と演習） —

(技術・家庭, J-2)

団体名：東京学芸大学

日 時	9	10	10:30	11	12	13	14	15	16	17
8月20日(火)		受付	開講式 ガイダンス	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における学習指導と評価」	昼休み	(講義)「新学習指導要領における幼児との触れ合いに関する指導の充実」 (事例発表)ふれあい体験を中核とした事前事後の授業の展開の仕方について、授業者報告と協議を行う。	(講義)「幼児の生活について被服面から学ぶ。」	(講義)「幼児の生活 I」幼児の生活について被服面から学ぶ。	(講義)「幼児の生活 II」保育観察に必要な予備知識を学ぶ。	
8月21日(水)	(実習)「保育観察 II」約5名ごとに5グループに分かれ、適宜保育所で観察を行う。乳幼児の発達、保育園について理解を深める。					(演習)「実習事例発表と協議」人と関わる力を高める幼児理解に関する指導—幼児ふれ合い体験にどう取り組むか—(パネルディスカッション) 保育観察をふまえ、ふれあい体験を事後の授業の中でどのように共有化し学びに転換していくか、話し合う。実際に受講者にナラティブを作成してもらい、体験後の授業を検討する資料とする。	(講義)「幼児の生活 III」幼児の生活を食面から学ぶ。			
8月22日(木)	(実習)「保育観察 III」約5名ごとに5グループに分かれ、適宜保育所で観察を行う。乳幼児の発達、保育園について理解を深める。					(演習)「保育観察 IV」観察した内容について保育の専門家を交えてグループディスカッションを行う。観察したことを幼児理解に結びつける。			(講義)「幼児の生活 III」幼児の集団保育での生活を学ぶ。	
8月23日(金)	(講義)「幼児理解 I」保育学習に必要な幼児理解について幼児の遊びから学ぶ。			(講義)「幼児理解 II」保育学習に必要な幼児理解について幼児の仲間関係から学ぶ。		(講義)「幼児理解 III」保育学習に必要な幼児理解について、家族の側面から学ぶ。	閉講式			

実施会場：東京学芸大学 総合教育科学研究棟3号館501

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業）『教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習』							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成25年8月26日（月）～平成25年8月30日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	25	人	参加率	125.0%
開 催 場 所	足利工業大学(栃木県足利市)							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	22 88.0	3 12.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	25
	25	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段関わらない授業内容が新鮮で、地球環境、建築、建築史を楽しく受けさせて頂いた。この知識を学校に持ち帰り、数学の重要性の例として、話す事が出来そうである。専門分野以外の話を聞く事は、自分のモチベーションを上げ、今後の授業内容向上につながる事を実感した。 ・ 自分の専門分野だけでなく、内容が多岐に分かれていたので、普段は興味を持つこともなかった事柄を勉強出来て良かったと思う。 ・ 専門の分野は、確認・補填ができ良かった。また、自分が取り組んでいなかった内容や、現在どのような研究が行われているか知る事が出来た事も、現場に帰った際に役に立つ研修であった。 ・ 様々な分野の講義を受けられ、専門以外の話しを聞く事が出来、とても有意義だった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度産業教育実習助手研修日程

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月26日(月)	9:00～ 受付	9:15～ 開講式	9:30～11:00(講義) ものづくり① 工業科教育 (工業科学習指導要領)	11:10～12:40(講義) 環境とエネルギー① 環境問題と自然エネ ルギー	休憩	13:30～15:00(講 義) 環境とエネルギー② 水の力、人の知恵	15:10～16:40(講 義) 環境とエネルギー③ 環境とライフスタイル	16:50～18:20(講 義) 環境とエネルギー④ 光触媒の環境保全への 応用		
8月27日(火)		9:30～11:00(講義) 環境とエネルギー⑤ 先端材料設計・制御	11:10～12:40(演習) 環境とエネルギー⑥	休憩	13:30～15:00(講 義) 環境とエネルギー⑦ 電磁誘導加熱(IH)	15:10～16:40(演 習) 環境とエネルギー⑧	16:50～18:20(演 習) コンピュータの活用法① 電磁誘導の制御			
8月28日(水)		9:30～11:00(講義) ものづくり② 建築構造	11:10～12:40(講 義) ものづくり③ 橋梁	休憩	13:30～15:00(講 義) ものづくり④ 建築史	15:10～16:40 (講義・演習) ものづくり⑤ 測量数値処理	16:50～18:20(講 義) ものづくり⑥ 建築環境			
8月29日(木)		9:30～11:00(講義) ものづくり⑦ CAD/CAMを利用した「も のづくり」体現	11:10～12:40(演 習) ものづくり⑧ CAD/CAMを利用した「も のづくり」体現	休憩	13:30～15:00(講 義) コンピュータの活用法② マイコンボードを用いた システム制御	15:10～16:40(演 習) コンピュータの活用法③ マイコンボードを用いた システム制御	16:50～18:20(演 習) コンピュータの活用法④ マイコンボードを用いた システム制御			
8月30日(金)		9:30～11:00(講義) コンピュータの活用法⑤ コンピュータの表計算ソ フトによるデータ処理	11:10～12:40(講 義) コンピュータの活用法⑥ コンピュータの表計算ソ フトによるデータ処理	休憩	13:30～15:00(演 習) コンピュータの活用法⑦ コンピュータの表計算ソ フトによるデータ処理	15:10～16:40(演 習) コンピュータの活用法⑧ コンピュータの表計算ソ フトによる処理	16:40～17:00 閉講式			

I 研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ							
研 修 目 的	組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的とした学校評価を円滑に推進するため、第三者評価の観点を含めた自己評価、学校関係者評価の生かし方等について、必要な知識及び技能を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 							
開 催 期 日	平成25年 7月16日（火）～平成25年 7月19日（金）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	153	人	参加率	139.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	136	17	0	0	0	0	153
割合 (%)	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	153	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の生かし方と手法の演習において、評価対象の焦点化から改善策の検証までの過程について、実際に取り組むことで見えてくるものもあり、とても有意義な時間だった。 ・講義では、学校評価の意義や役割について再確認できた。事例発表では、その先進性と実効性に圧倒された。演習では、探究すればするほど新しい課題が見えてきて、学校評価の可能性を再認識できた。 ・研修講師としての意識が大変高まった。また、研修講師としての課題点、方法を教授していただき、ありがとうございました。 ・学校評価について、改めて考える機会をもつことができてよかった。経験知に少しでも理論知を加えることができた。学校評価は学校づくりであり、その先にある子どもたちの笑顔のために大事なことだと感じた。 ・要項の中にあった準備資料の説明が不親切である。どのような使い方をするのか分かれば、内容や提示方法を考えて準備、持参することができた。（イメージが持ちにくかった。）
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習に入る前に、センター主事から、本研修全体における演習の内容及び方法等について、60分程度説明を行い、受講生に演習全体のイメージや目標等をもたせるようにした。 ・受講生同士のコミュニケーションを図り、演習にスムーズに入れるように、初日にアイスブレイキングの時間を設定した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習を効果的・効率的に進めるために、要項の記載内容及びセンター主事の説明内容・方法等をより吟味する。さらに、演習時間を十分確保するために、研修の開始時刻や終了時刻等を検討する。 ・事例発表については、平成25年度の受講生が、本研修を受けて、各学校・地域でどのような取組を行ったのかを発表し、その効果を検証する時間を設定する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	<p>学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。</p> <p>このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者となることを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者としての活動を行う予定である者</p>							
開 催 期 日	平成26年2月17日（月）～平成26年2月21日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	141	人	参加率	88.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 割合 (人) (%)	136 96.5	5 3.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	141
	141	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの基本知識を学ぶとともに、言語活動、道徳教育、キャリア教育、総合的な学習の時間との関連性にも触れることができ、大変理解しやすかった。評価や分析についても、実際に体験することができ、理解が深まった。最終的にこの研修を生かして自分が研修するときの資料を作成することによって5日間の研修内容が整理され、たくさんの成果物が得られた。 ・数値データや理論に基づいた講義は、どれも贅沢な講師による分かりやすい内容であった。演習も多く設定していただき、自ら学ぶことの素晴らしさを再認識することができた。 ・講義や演習をとおして、共に同じ目標に向かってスクラムを組むメンバーとの貴重な時間を過ごせたことが、今後の教員人生の大きな財産となった。 ・「カリマネで授業改善、生きる力の育成へ」この意識が研修対象者にとって、実践の力となるよう、研修講師としての務めを果たしていきたい。 ・調査官への質問コーナーを設定してはどうか。いくつかさらに教えていただきたいことがあった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの基本（意義やその必要性、学校運営における役割とその方法等）について、初日の講義の中で取り上げ、受講生の理解を深め、それ以降の講義・演習の基盤とした。 ・事例発表において、事例ごとに協議及び質疑応答の時間を設けた。 ・演習においては、パソコンを1つの班に2台設置するなど、研修環境を整えた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域別の部会（言語活動、道徳教育、キャリア教育、総合的な学習の時間）のテーマを見直す。 ・2日目のプログラム（事例発表・協議・講義）について、内容及び方法等を見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成25年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程

2月17日(月)	9:30	10:00	10:30	12:00	14:50	15:05	17:00
第1日目	受付	オリエンテーション	講義1 これからの学校教育 ～カリキュラム・マネジメントの観点から～ ◎目的:カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する	風食・休憩	講義2 カリキュラム・マネジメントの基本とその役割 ◎目的:カリキュラム・マネジメントとは何か、学校運営における役割とその方法について具体的な理解を深める	演習1 各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組 ◎目的:各地域の取組を知るとともに、課題を共有する	休憩
	文部科学省 視学官 太田 光春	文部科学省 教科調査官 富山 哲也	文部科学省 教科調査官 赤堀 博行	中村学園大学 准教授 田村 知子	中村学園大学 准教授 藤田 晃之	鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	【全体講評】 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 中村学園大学 准教授 田村 知子
2月18日(火)	8:30	10:10	10:25	12:05	13:05	14:45	15:00
第2日目	事例発表・協議 講義	講義4	講義5	風食・休憩	演習2	【Cキャリア教育】	【D総合的な学習の時間】
	◎目的:先行事例をとおして、学校の特色を生かしたカリキュラムの編成とその適正なマネジメントによる学校改善の手法等について学ぶとともに、課題をもつ	カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の手法の展開 ◎目的:各校においてカリキュラム・マネジメントを実行するための研修手法及びその効果についての知識・理解を得る	◎目的:カリキュラム・マネジメントの観点から～カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する	【B道徳教育】 練馬区立中村西小学校 校長 福田 純子 文部科学省 教科調査官 赤堀 博行	【Cキャリア教育】 仙台市教育委員会 指導主事 小田 暁 筑波大学 教授 藤田 晃之	カリキュラム・マネジメントの実際 (部会別演習:A言語活動、B道徳教育、Cキャリア教育、D総合的な学習の時間) ◎目的:各部会におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討をとおして必要な視点を学ぶ 中村学園大学 准教授 田村 知子(言語) 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威(道徳) 筑波大学 教授 藤田 晃之(キャリア) 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘(総合)	【D総合的な学習の時間】 岩手県立盛岡第三高等学校 指導教諭 鈴木 徹 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘
2月19日(水)	8:30	10:10	10:25	12:05	13:05	14:45	15:00
第3日目	講義3	講義4	講義5	風食・休憩	演習2	【Cキャリア教育】	【D総合的な学習の時間】
	カリキュラム・マネジメントによる評価と改善 ◎目的:学校づくりを生かすカリキュラム評価の考え方・進め方について学ぶ 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 中村学園大学 准教授 田村 知子	カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の手法の展開 ◎目的:各校においてカリキュラム・マネジメントを実行するための研修手法及びその効果についての知識・理解を得る	◎目的:カリキュラム・マネジメントの観点から～カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する	【B道徳教育】 練馬区立中村西小学校 校長 福田 純子 文部科学省 教科調査官 赤堀 博行	カリキュラム・マネジメントの実際 (部会別演習:A言語活動、B道徳教育、Cキャリア教育、D総合的な学習の時間) ◎目的:各部会におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討をとおして必要な視点を学ぶ 中村学園大学 准教授 田村 知子(言語) 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威(道徳) 筑波大学 教授 藤田 晃之(キャリア) 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘(総合)	【Cキャリア教育】 仙台市教育委員会 指導主事 小田 暁 筑波大学 教授 藤田 晃之	【D総合的な学習の時間】 岩手県立盛岡第三高等学校 指導教諭 鈴木 徹 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘
2月20日(木)	8:30	10:10	10:25	12:00	13:05	14:45	15:00
第4日目	演習3-1	講義4	講義5	風食・休憩	演習2	【Cキャリア教育】	【D総合的な学習の時間】
	カリキュラム・マネジメントを推進するために～研修成果の活用に向けた資料作成～ (学校種別演習) ◎目的:カリキュラム・マネジメントに関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、各地域でカリキュラム・マネジメントを効果的に推進するための方法等について学ぶ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の手法の展開 ◎目的:各校においてカリキュラム・マネジメントを実行するための研修手法及びその効果についての知識・理解を得る	◎目的:カリキュラム・マネジメントの観点から～カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する	【B道徳教育】 練馬区立中村西小学校 校長 福田 純子 文部科学省 教科調査官 赤堀 博行	カリキュラム・マネジメントの実際 (部会別演習:A言語活動、B道徳教育、Cキャリア教育、D総合的な学習の時間) ◎目的:各部会におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討をとおして必要な視点を学ぶ 中村学園大学 准教授 田村 知子(言語) 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威(道徳) 筑波大学 教授 藤田 晃之(キャリア) 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘(総合)	【Cキャリア教育】 仙台市教育委員会 指導主事 小田 暁 筑波大学 教授 藤田 晃之	【D総合的な学習の時間】 岩手県立盛岡第三高等学校 指導教諭 鈴木 徹 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘
2月21日(金)	8:30	10:45	11:00	12:00	12:15	13:05	14:45
第5日目	演習3-2	講義5	講義6	風食・休憩	演習2	【Cキャリア教育】	【D総合的な学習の時間】
	カリキュラム・マネジメントを推進するために～全体発表・協議～ ◎目的:カリキュラム・マネジメントを推進するための方策について理解を深める 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	研修講師となるための ◎目的:研修講師となるための課題を整理する 大阪教育大学 長 尾 彰 夫	◎目的:カリキュラム・マネジメントを推進するための方策について理解を深める	【B道徳教育】 練馬区立中村西小学校 校長 福田 純子 文部科学省 教科調査官 赤堀 博行	カリキュラム・マネジメントの実際 (部会別演習:A言語活動、B道徳教育、Cキャリア教育、D総合的な学習の時間) ◎目的:各部会におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討をとおして必要な視点を学ぶ 中村学園大学 准教授 田村 知子(言語) 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威(道徳) 筑波大学 教授 藤田 晃之(キャリア) 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘(総合)	【Cキャリア教育】 仙台市教育委員会 指導主事 小田 暁 筑波大学 教授 藤田 晃之	【D総合的な学習の時間】 岩手県立盛岡第三高等学校 指導教諭 鈴木 徹 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	平成23年度より、中・高等学校において育成されるコミュニケーション能力の素地を養うことを目標に、小学校高学年において週1コマの外国語活動が導入された。 本研修では、外国語活動を担当する指導主事等に、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価、小中連携等について、必要な知識等を総合的に習得させることを通じて、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、円滑に行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。					
開 催 期 日	平成25年10月2日（水）～平成25年10月4日（金）			3日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110 人	受講者数	149 人	参加率	135.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センターつくば本部					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	138	11	0	0	0	0	149
割合 (%)	92.6	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	149	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・私自身は中学校英語教師であるが、小学校外国語活動を知ることで中学校での英語授業・指導法の改善のキーポイントが理解できた。今回の研修成果を持ち帰り、研修会の講師としてまたは各小中学校への指導助言を円滑に行っていきたい。3日間とても有意義であった。 ・3日間職場を離れ、外国語活動について話し合ったり考えたりする機会を頂きとてもよかった。講師の先生方や実践紹介をして頂いた先生方からの貴重な情報を頂いた上で協議を行い、さらに考えを深め、一般化を図るという流れで、外国語活動を進める上での大切なポイント、小中連携の考え方を自分のものにすることができた。市に戻ったら、自分の立場で推進できることを見つけ、発信していきたい。 ・校種や所属の違う方と情報交換でき、そして、先進的な取組をしている学校の工夫や努力について触れ、改めて推進者としての方向性について考えることができた。現状と基礎基本について教えて頂き、自分が指導者として伝達する時の引き出しが増えてよかった。 ・外国語活動の現状と課題について、講義、演習、ポスターセッション等を通して、具体的に考えることができてよかった。特に、小中連携は、互いの指導力向上につながることで、外国語活動の本来のねらいであるコミュニケーション、リアルな会話の要件について、再確認することができた。今後の指導助言に生かしていきたいと思う。 ・前回、英語ノート時代に同様の研修に参加した時と比べ、より詳細に、そして小中連携の視点でも外国語活動を見直すことができ大変有意義な研修であった。講師の先生方から学ぶことはもちろん多いのだが、グループの先生方や、宿泊を伴にした先生方との情報交換も役立つものだった。今回の研修で学んだことを生かして、教育センターでの講座を企画、運営していきたい。 ・中学校教員として、小学校英語を踏まえた英語の授業を行う必要性を強く感じた。また小学校英語の活動により中学校英語は大変スムーズに入学時は行えるようになってきているので、中学校英語教員として、次は校区の小学校英語の手助けと思いの共有をしていくことが大切だと感じた。まず、校区からそして、本町、本地区へと発信していきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に実施していた推進コース（東・西）、授業実践コース（東・西）の合計4コースを推進コースの内容を基に1コースに統合した。 ・小学校における外国語教育の必要性や外国語教育全体の中での小学校における外国語活動の位置付けについて認識してもらうとともに、課題について協議・意見交換できる時間を設定するためにカリキュラムを見直した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施経費については、全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり